

故ニ之ニ對シテ寄附行爲ヲナスカ如キハ市法人ノ權限ヲ超越スルモノニシテ違法ノ行爲タルヲ免カレサルモノトメ寄附行爲已ニ違法ニ屬スル以上ハ之レカ爲メニ負擔シタル市債ヲ返濟スル目的ヲ以テ徵收スル課税ノ違法ナルコト亦タ論ヲ俟タサル所ナリトス

二十八

一八

(參照)市ハ法律上一個ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡市ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス(市制第二條)

市ハ其必要ナル支出及従前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セラレ、支出ヲ負擔スルノ義務アリ

市ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料並科料、過怠金其他法律勅令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ市税及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得(市制第八十八條)

原告 清水理吉外八十九名

被告秋田縣秋田市長御代 幸太郎

被告秋田縣秋田市長御代 弦

被告代理人辯護士 沼田宇源太

右原告清水理吉外八十九名ヨリ被告秋田市長御代弦ニ係ル家屋税割不當賦課額取消ノ訴審理

ヲ送クル處

原告請求ノ要旨ハ秋田市長御代弦ハ秋田市會ノ決議ニ基クト爲シ市公債ノ名稱ヲ付シタル種目ノ償還金ニ充ツルカ爲メ明治三十年度第一期家屋税割賦課トシテ右名稱目ノ合金一萬五千四百圓ノ内先ツ其幾部ノ徵令書ヲ發付シタリ然ルニ右市公債ト名稱ヲ付シタルモノハ秋田市會ニ於テ常市内ニ設置セラルヘキ兵營建設用地トシテ陸軍省ニ寄付スル爲メ土地ヲ買取シタル代金及ヒ建物ヲ移轉セシメタル費用ノ負債ニ外ナラス元來市民力負擔ノ義務アルモノハ市ノ自治ニ必要ナル支出及法律命令ニ依テ賦課セララル、モノニ止マルヤ市制第十八條ノ明文ニ依リ判然メリ而シテ兵營建設ノ事タルヤ國防上ノ事業ニシテ特ニ一市町村ノ利害ニ關スル事業ニアラス故ニ其費用ハ當然國庫ノ支辯ニ屬シ一市ノ負擔ニ屬スルモノニアラス從ツテ市會ニ於テ右陸軍省ニ寄附スル兵營建設用地買取ノ用途ニ供給スル爲メ負債ヲ起スノ決議ヲ爲シ尋テ其償還金ニ充ツル爲メ市税ヲ増課スルノ決議ヲ爲シタルハ全ク越權ナリ然ルニ被告ニ於テハ市公債ハ陸軍省ニ寄付セシ兵營敷地買取並ニ家屋移轉ノ費用ノミニ供シタルニアラス其他教育土木等ノ費用ニ充テタルモノナリ又寄付セシ地所ハ最初ヨリ寄付スル目的ヲ以テ買取シタルアラスト云フモ其然ラサルハ甲號諸證ニ依テ明瞭ナリ又被告ハ市公債償還金ハ家屋税割中ニ含入シアルニ相違ナキモ種々ノ分子ト混淆シ容易ニ家屋税割不當賦課額取消ノ訴

二十九

一九



分中難キニ依リ之ヲ取消シ難ト云フモ既ニ不法ナル賦課ノ分子ノ混入シアルコトヲ認メ  
タル以上ハ其不法ヲ遂クシム可キ道理ナキヲ以テ之ヲ取消ス可キハ當然ノ筋合ナリ況ンヤ  
税目ト税金トニ基ツキ相當ノ計算ヲ爲スニ於テハ決シテ分中難キコトナキニ於テオヤ又租  
税ノ賦課ニ關スル訴訟ニ於テハ計算ノ當否ヲ爭フコトヲ得ルノミニシテ其原因ノ當否ヲ爭  
フコトヲ許サスト云フモ租税ノ賦課ニ關スル訴訟ハ如此狹隘ノモノニアラス依テ秋田市明  
治三十年度第一期家屋稅割賦課額令書中本件係爭ノ部分即チ兵營敷地買收及ヒ建物移轉費  
ニ原因スル部分ハ之ヲ取消ス可シトノ判決ヲ要ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ明治二十九年四月十四日ニ於テ秋田市基本財産ヲ造成スルノ目的ヲ以テ  
市内ノ地所ヲ撰ヒ之ヲ買收シ其費用ハ市公債又ハ寄付金ヲ以テ之ヲ支辨スルモノトシテ土  
地買收案ヲ市會ニ提出シ之カ可決ヲ得タリ右ノ結果ト其他學校ノ建築道路疏水等將來爲ス  
可キ事業トノ爲メ市債ヲ起スノ必要ヲ感シ同年八月七日秋田市起債方法議案ヲ市會ニ於テ  
議決シ同時ニ二十九年年度市歳入出追加豫算案ヲ議決シタリ尤モ是ヨリ先キ五月十二日ニ  
在テ陸軍省ヘ土地獻納願ノ件ニ付市會ノ議決ヲ經テ之ヲ呈出シタリト雖トモ當時ニ在ツテ  
ハ單ニ一市ノ企望ヲ陳ヘタルニ過キス其後七月ニ至リ始メテ兵營建設ノ位地決定シタルヲ  
以テ前ノ企望ヲ違センカ爲メ爾來陸軍省ニ對シ賣却若クハ讓與ヲ爲サント欲スル土地ニ付

テモ亦夫々買收及ヒ讓與ノ手續ヲ爲シタリシ後十月十五日陸軍省ヘ土地獻納ノ儀市會ノ決  
議ヲ經市制第二百二十三條ニ依リ縣參事會ノ認可ヲ申請シ同月二十日認可ヲ受ケ又明治三十  
一年一月七日市有土地練兵場敷地トシテ同省ヘ賣却ノ件同シク縣參事會ヘ申請シ同月二十一  
日認可ヲ受ケタリ而シテ同年四月十六日ニ至リ秋田縣訓令ヲ以テ寄付出願ノ件聽届並ニ官  
有地編入ノ儀トモ相違セラレタリ然ルニ本市三十年度歳入豫算成立ノ後同年五月第一期家  
屋稅割ヲ賦課セシニ原告ハ本件ニ關スル行政訴訟ヲ提起スルニ至リタルモノナリ然レトモ  
是レ不當ノ訴訟ニシテ到底應ス可キ限リニアラス抑租税ノ賦課徵收ノ訴訟ニ於テ原告ノ爭  
ヒ得可キ範圍ハ單ニ賦課徵收手續ノ當否ニ止マル可キモノナレハ原告ハ家屋稅割賦課ノ原  
因ニ溯テ其當否ヲ爭フコトヲ得サルノモノナラス原告ノ請求スル目的ハ家屋稅割徵收令書  
中兵營敷地買收等ニ原因スル部分ニシテ其部分ハ豫算編製ノ性質上到底算出ス可ラサルモノ  
ナレハ目的外ノ表示ヲ缺キ從ツテ執行シ得可ラサル訴訟ナレハ直ニ棄却ス可キモノナリ此  
ノ防禦方法ヲ外ニシテ尙ホ原告ノ請求ハ頗ル不當ノモノナリ抑秋田市カ陸軍省ヘ寄付セシ  
兵營敷地ハ元ト秋田市ノ基本財産ヲ造成スル目的ヲ以テ買收セシモノニシテ會々兵營建設  
ノ事アルニ由リ相當ノ手續ヲ經テ寄付セシモノナレハ少シモ違法ノコト無キノモノナラス家  
屋稅割ハ右買收等ノ費用及其他教育土木等ノ費用ノ支途ニ供スル爲メ借入レタル公債ノ償  
還額ハ右買收等ノ費用及ヒ其他教育土木等ノ費用ノ支途ニ供スル爲メ借入レタル公債ノ償

家屋稅割不審賦課額取消ノ訴



還金ニ充テタルモノナレハ起債ノ決議コシテ不當ナラサル依リハ家屋税割ノ賦課モ亦決  
テ違法ニアラス然ルニ原告ニ於テハ兵營建設費用ハ當然國庫ノ支辨ニ屬スルモノニテ之  
對シ寄付ヲ爲ス爲メニ要スル費用ハ市ノ自治ニ必要ナル費用ニアラスト云フモ凡ソ事業ノ  
性質種類上ヨリ之ヲ論スルトキハ國府縣郡市町村皆各規定ノ所屬アリト雖トモ苟モ事一市  
公共ノ利害ニ關係ヲ及ボスヘキモノニ就テハ其國家的タルト否トヲ問ハス之レカ相當ノ行  
爲ヲナス可キハ固ヨリ一市ノ任務タリ而シテ兵營ノ事タル其設置ノ曉ニ及ンテ一市公共ノ  
利益ニ直接影響ヲ來タスヘキハ蓋シ争フ可ラサルノ事實ヨリ故ニ市會カ寄付ノ行爲ヲ以テ  
市公共ノ利益ヲ増進スルモノトシテ其事業ノ成效ヲ容易ナラシメンガ爲メ陸軍省ニ對シ土  
地ヲ寄付スルノ決議ヲ爲シタルハ越權ニアラス且ツ一市萬般ノ公共事務中自ラ必要事務ト  
隨意事務トノ區別アリ隨意事務ノ如キハ甲乙ニ在リテハ無益若クハ不必要ナルモノモ乙ニ在  
リテハ有益若クハ必要トスルコトアリテ畢竟土地ノ狀況ト遭遇ノ場合トニ依ルモノナリ而  
シテ本件兵營用地ノ如キハ陸軍省ニ於テ本市ノ企望ヲ容レ爲メニ事業ノ成效ヲ全フシ  
一市ノ利益ヲ受クルトセハ自治ニ必要ナル支出ニアラスシテ何ソヤ以上開陳ノ如ク原告ノ  
請求ハ一モ理由ナキニ付キ本訴ハ之ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ  
依テ證據ヲ關シ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如ク

被告ニ於テ第一、租税ノ賦課ニ關スルニ訴訟ニ於テハ賦課ノ原因ニ溯リ其當否ヲ争フコトヲ  
許サスト云フモ賦課ノ賦課ニ就テハ市制第四百四條及第五百五條ニ依リ訴訟ヲ許サレタリ而  
シテ同條ニ於テ争論ノ範圍ヲ賦課ノ方法形式算數等ノ上ニ限ラサル以上ハ賦課ヲ以テ不法ト  
スルモノハ其不法ノ點カ何レニ在ルヤヲ問ハス皆悉ク之ヲ論争スルコトヲ得ルモノニシテ原  
告ノ如ク救済ニ解釋スヘキモノニアラス第二、家屋税割賦課令書中原告ノ取消ヲ求ムル部分  
ハ兵營敷地買収及建物移轉費用ニ原因スル部分ニ在レトモ該部分タル豫算編製ノ性質上算出  
シ得可キモノニアラサレハ本訴ハ目的物ヲ缺キ從ツテ執行シ得可ラサルモノナリト云フモ  
原告ノ請求ハ課税ノ一部取消ニ在リテ之ヲ以テ訴訟ノ目的物ト爲スモノナレハ目的物ヲ缺ク  
モノニアラス元來原告ハ處分ノ一部取消ヲ請求スルニ在リテ金額ノ請求ヲ爲スモノニアラサ  
ルカ故ニ訴訟ノ目的物ハ數字ヲ以テ確定シタルモノ若クハ確定シ得可キモノタルコトヲ要  
セス而シテ處分ノ一部取消ハ執行シ得可ラサルモノナルヤ否ヤハ處分ノ性質ニ由リ難易ノ差  
アル可シト雖トモ本件請求ノ如キハ絕對ニ執行シ得ヘラサル性質ノモノアラサレハ被告ノ抗  
辯ハ理由ナキモノトス第三、兵營建設用地トシテ陸軍省ニ賦納セシ地所ハ基本財産造成ノ目  
的ヲ以テ買収セントシタルモノニシテ偶々兵營建設ノ事アルニ方リ愈々之ヲ買収シテ賦納セ  
シニ過キス最初ヨリ賦納ノ目的ヲ定メ而ル後之ヲ買収シタルコアラサルナリ左ラハ市有財  
家屋税割不當賦課額取消ノ訴



産移轉ノ法則ニ從ヒ相當ノ手續ヲ履行セシ以上ハ固ヨリ間然スル所ナント云フモ甲第五十號  
 證及甲第八九號證ニ依レハ明治二十九年五月十二日秋田會ニ於テ兵營敷地賦納願ノ件ニ付  
 議決ヲ爲シテ之ヲ陸軍大臣ニ提出シ同年七月兵營設置ノ位地定マルヤ八月七日起債方法及二  
 十九年市歲入出追加豫算ノ議決ヲ爲シ八月二十二日ヨリ買收土地ノ登記ニ着手シ明治三十  
 年四月ニ至リ賦納ノ手續ヲ完了セシモノタルヤ明カナリ尤モ明治二十九年四月十四日ノ議決  
 ニ係ル乙第一號土地買收案ニ依レハ其第一條ニ於テ基本財産造成ノ目的ヲ以テ土地買收云々  
 ノ記載アレトモ其第二條ニ於テハ買收費支辨方法ノ規程アリテ之レカ實行ト看做スヘキ甲第  
 十二號證附論告書甲第十三號證借用金證書等ニハ兵營敷地トシテ賦納スル爲メ土地ヲ買收  
 スル趣旨ノ記載アルヲ以テ觀レハ該地所ハ最初ヨリ兵營建設用地トシテ陸軍省ニ寄附スル爲  
 メ市債ヲ起シテ買收シタルモノニシテ乙第一號證基本財産造成云々ノ記事ハ假裝ニ出テタル  
 モノト認定ス等四、公債ハ教育土木等種々ノ費用ニ充ツル爲メニシテ單ニ土地買收及建物移  
 移轉費用ノミニ充ツル爲メニ起シタルニアラスト云フモ元來原告ノ主張スル所ハ寄附ノ爲メ  
 ニ要ナル費用ヲ市債トシテ之ヲ償還スル爲メニ家屋稅割ヲ増課シタリト云フニ在ルヲ以テ  
 債ヲ以テ土地買收費ニ充テタルコト明カナル以上ハ其ノ全額ナルヤ部々一部ニ止マルヤノ  
 爭點ハ本件ニ於テ緊要ナラス何トナレハ家屋稅割ノ中ニハ市債償還費ノ幾許分ヲ合入スルコ

トハ被告ノ既ニ認ムル所ナルヲ以テ土地買收等ノ費用ニシテ起債ノ一原因タル以上ハ家屋稅  
 割ノ一部ハ寄附ヲ遂行スル爲メニ増課セシモノタルヤ明瞭ナレハナリ故ニ土地買收等ノ費用  
 カ起債ノ重要ナル原因ナリヤ否ヤヲ説明セス第五、兵營設置ノ事タル市ノ公共利害ニ至大ノ  
 關係ヲ及ボスモノナルカ故ニ其事業カ國庫支辨ニ屬スルト否トヲ問ハス其成效ヲ容易ナラザ  
 ムル爲メ陸軍省ニ對シ土地ノ寄附ヲ爲セハ越權ニアラス又陸軍省ニ於テ本市ノ企望ヲ容レ  
 爲メニ事業ノ成效ヲ全フシ以テ一市ノ利益ヲ受クルコトヲ得タリトセハ土地ノ寄附カ市ノ隨  
 意事務ナルト否トヲ論セス其費用ハ自治ニ必要ナル費用ニアラスシテ何ソヤト云フモ兵營ノ  
 建設ハ帝國ノ防備ニ屬シ自治ノ團體利益ト直接ノ關係ヲ有スルモノニアラス之カ爲メニ寄附  
 ヲ爲スカ如キハ市制第二條ノ範圍ヲ超越スルモノニシテ其費用ハ市制第八十八條ノ必要ナル  
 費用ニアラサルカ故ニ市ノ負擔ニ歸スヘキモノニアラス從ツテ市稅トシテ原告等ニ賦課  
 セシノ法ナリ

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

被告カ原告ニ對シテ發シタル秋田市明治三十年度第一期家屋稅割賦課額令書中本市兵營敷地  
 買收及建物移轉ノ費用ニ原因スル部分ハ之ヲ取消ス可シ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

村會一級議員選舉ノ效力ニ關スル件



●村會一級議員選舉ノ效力ニ關スル件

明治三十一年第三十二號  
明治三十一年十月十日公告

三十六

二六

●判決要旨

- 一選舉人名簿ノ確定効力ハ之ニ登載シタル無選權者ヲシテ有選權者ヲラシムルノ効力ヲ有スルモノニアラス
- 二無資格者ヲ參與セシメタル選舉ハ違法ナリ
- 三無資格者ヲ參與セシメタル選舉ハ得點ノ數ニ異動ヲ生セサルモ其ノ違法タルニ於テ妨クル處ナシ
- 四無資格者ヲ參與セシメタル選舉ハ得點ノ數ニ異動ヲ生セサルモ其ノ違法タルニ於テ妨クル處ナシ

●說明

選舉人名簿ノ確定効力ハ消極的効力ヲ有スルニ止リ敢テ積極的効力ヲ有スルモノニアラス  
 ルヲリ替旨セハ名簿確定ノ効力ハ之ニ登錄セサルモノハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得スト云フニ止マリ元來選舉權ナキ者カ之ニ登錄セラレタリトスルモ之ニヨリテ有選權者タルコトヲ得ルモノニアラサルナリ  
 三選舉ノ性質ハ法理上不可分ナルヲ以テ假令得點ノ數ニ何等ノ異動ヲ生セサルモ已ニ選舉ニ於テ無資格者ヲ參與セシメタル違法アル以上ハ選舉全体ニ付テ其ノ影響ヲ及スヘキモノトス

(參照)選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉取消ヲ又被選舉人中共資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ(附村制第二十九條)

原告 高木善助

訴訟代理人 辨護士 利光品吉

辨護士 利光品吉

栃木縣知事

被告 萩野多門

栃木縣參事官

訴訟代理人 西村陸奥夫

栃木縣屬

清水鎗太郎

右原告高木善助ヨリ被告萩野多門ニ對スル村會一級議員選舉ノ效力ニ關スル訴理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ明治三十年九月二十二日ヲ以テ執行シタル南押原村々會一級議員選舉ニ供シタル選舉人名簿ハ眞正ノモノニ非ス該名簿中金子善吉村稅納額金七圓八十三錢二厘ト

村會一級議員選舉ノ效力ニ關スル件

三十七

二七



記載シアルモ其實同人ノ納高ハ金十六圓二十七錢九厘ナリ鈴木儀一郎ノ納額金四圓十九錢四厘ト記載シアルモ其實同人ノ納高ハ金十二圓八十六錢六厘ナリ鈴木幸之助ノ納額金八圓八十二錢二厘トトルモ其實同人ノ納高ハ金十六圓二十一錢也又山形八郎兵衛ノ納額金八圓四十錢四厘トアルハ金十四圓四十三錢五厘ノ誤リヨシテ寺内幸之進ノ納額金九圓五十九錢九厘トアルハ金十二圓二十四錢七厘ノ誤リナリ橋本惣左衛門ノ納額金五圓八十四錢トアルハ金七圓二十三錢二厘ノ誤リナリ當局者ハ各自村税ノ納額ヨリ五分ノ一若クハ三分ノ二位ニ其納額ヲ減少シテ故ラニ二級公民タルヘキ鈴木定治柴山佐重鈴木利兵衛田中吉次郎チ一級公民ニ編入シ該選舉ニ參與セシノミナラス相生文七堀江伊十郎中村鐵三郎ノ元來二級ニ編入スヘキ者ヲシテ一級選舉ニ關セシメタリ是レ被告ノ認定スル所ナリ此ノ如ク二級公民タルヘキ者ヲ一級選舉ニ參與セシメタルハ選舉ノ規定ニ背反シタル無効ノ選舉ナレハ被告ハ之ヲ當然取消サ、ル可ラス然ルニ被告ハ今回ノ選舉ハ明治廿九年十二月四日行政裁判所ノ判決ニ基キ選舉名簿中登山慎作ノ納稅額ヲ訂正シテ執行シタルモノナルニ付適法ノ選舉ナリ然ルニ原告ハ該判決以外ノ事ヲ主張スルハ不當ナリト云フト雖假令裁判所ノ判決ニ基キ執行シタル再選舉ナルモ其選舉ニシテ選舉ノ規定ニ背クコトアラハ何回ニテモ之ヲ取消サ、ル可ラス又被告ハ確定名簿ハ所謂訴訟ノ結果ニ依ルニアラサレハ變更スル能ハスト主張

スルモ是レ確定名簿ニ依ルニアラサレハ選舉ヲ爲スコトヲ得ストノ旨輒ニシテ假令其名簿ニ誤謬アルモ願ミルニ及ハストノ意ニアラサルハ町村制第二十九條ニ依リ明瞭ナリ依テ明治三十一年二月十日被告ノ與ヘタル判決ヲ取消シ尙同三十年九月二日南押原村ニ於テ執行シタル村會議員一級選舉ノ全部ヲ取消シテコトヲ謂フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本件ノ選舉ハ行政裁判所ニ於テ前選舉取消ノ判決ヲ受ケタル結果ニ依リテ行フタル再選舉ナリ而シテ南押原村長ハ該判決ニ基キ登山慎作ノ納稅額十一圓八十八錢一厘ヲ二十四圓八十六錢九厘ト修正シ原名簿ニ對スル超過額十二圓九十八錢八厘ノ二分ノ一ニ相當スル納稅者即名簿中最少額ノ納稅者上野久吾及柴山佐重ノ兩人ニ投票セシメスシテ再選舉ヲ結了セリ故ニ該選舉ハ行政裁判所ノ判決ニ基キ執行シタル者ニ適法ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ原告ハ選舉人名簿中金子善吉外五人ノ選舉納額ヲ減少シテ記載シ二級選舉人タルヘキ鈴木定治外六人ヲ一級ニ編入シ村税ニ關セシメタルハ違法ナリト云フモ確定名簿ハ所謂訴訟ノ結果ニ依ルニ非サレハ加除修正スル能ハサルカ故ニ原告主張ノ事實ハ之ヲ認ムルモ村長ハ前述裁判所ノ判決ニ基キ修正シタル確定名簿ヲ變更スルノ職權ナキヲ以テ該名簿中ノ鈴木定治外六人ヲ選舉ニ參與セシメタルモノニシテ毫モ違法ノ點ナシ又元來選舉名簿ニ對スル異議ト選舉ノ效力ニ對スル異議トハ別箇ノモノニシテ名簿ニ對スル



議異ナランコハ町村制第十八條ニ依リ縦覽期限内ニ申立サルヘカラス然ルニ此期限内ニ何等ノ申立ヲ爲サスシテ選舉執行前ニ至リ名簿ニ對スル異議ヲ唱ヘ之ニ因リテ選舉ノ効力ヲ爭ハントスルハ町村制第十八條ヲ無視シタルモノナリ此ノ如クシテ原告主張ノ如ク幾回モ選舉ヲ無効トスルヲ得ハ數年ニ沙リ尙議員ヲ確定スルコト能ハサルニ至ルヘシ又原告主張ノ如ク檢木定治外六名ヲ二級ニ編入センカ彼等ハ一級選舉ヲ行フコトヲ得サルハ勿論二級選舉ハ既ニ確定シ居ルヲ以テ之ニ參與スルコト能ハス結局何レニモ投票スルコトヲ得サルヘシ又本件選舉ノ事實ヨリ之ヲ觀ルニ檢木定治外三名ヲ加フルモ當選ノ結果ニ異動ヲ生セサルナリ結果ニ異動ヲ生セサル限リハ右簿ニ誤リアリトスルモ取消スニ及ハスト信ス依テ原告ノ請求ハ棄却セラレタシト云フニ在リ

依テ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

被告ニ於テ確定選舉人名簿ハ縣願訴訟ニ依ルノ外加除修正スル能ハサルモノナルカ故ニ其名簿ニ登記セラレタル檢木定治外六人ヲ選舉ニ參與セシメタルハ違法ニアラスト云フト雖選謂人名簿ノ確定効力ハ其名簿ニ登錄セラレタル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得スト云フニ止マリ本來選舉權ナキ者カ確定ノ効力ニ依リ有資格者トナルヲ得サルモノトス而シテ檢木定治外六人ハ元來一級選舉人ノ資格ナクシテ二級選舉人タルヘキモノナルニ名簿中金子善

ノ簡明ナル法理ヲ度外トシ被告カ強テ營業税法ハ營業者ノ營業ニ對シハ附加税ノ外縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サレシムルモ營業ニ屬セサル他ノ課稅ヲ制限シタル規定ニアラスト由論々營業ニ直接供用ノ物件ニ課稅シ得ヘントスレハ獨水車ノミナレハ刻煙草器械船屋ノ類其他種々ノモノニ課稅スルヲ得ヘシ然ルニ水車ノミニ課稅シタルハ甚ダ不當ナリ何トナレハ製造業ナルモノハ他ノ器械ノ作用ヲ竣テ始メテ其効果ヲ得ヘシモノナレハ器械ヲ離レテハ原告等ノ業務ハ一日モ停ムヘカヲサルナリ去レハニヤ營業税法施行細則第八條後段ニ規定シテ曰ク(前項固定資本ハ直接ニ營業ノ用ニ供スル上在建物船舶諸器具器械ノ價格ヲ計算ス其價格ハ時價相當見積金額ニ依ル)云々既ニ物件其物ヲ固定資本トシ運轉資本ト合算ノ資本金ニ對シ營業稅ヲ課セラルヲ見レハ前項被告ノ辯明ハ實ニ謂ハレナキ誤解ニ基ク強辯ト云ハスシテ何シヤ又明治十三年布告第十七號第一條ニ但國稅アルモノハ除クトアリ新稅法ニ依リ國稅ノ賦課ヲ受クル限ハ縣稅ヲ免カルノハ論ヲ竣タス斯ク申明シ得ヘクシハ本件ノ課稅ハ原告等ハ斷シテ負擔ノ義務ナキモノト確信ス因テ明治三十年度縣稅水車稅ハ之ヲ取消スヘントノ裁判ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本件事實ノ大要ハ原告申立ト異ナルトコトナキモ被告ハ雜種稅トシテ賦課シテ而シテ營業税法第三十六條ハ營業者ノ營業ニ對シテハ本稅十分ノ二以内ノ附加稅

不法課稅取消請求ノ件



ノ外縣稅ヲ課スルコトヲ得ザシムルモ營業ニ對セサル他ノ課稅ヲ制限シタル規定ニアル  
 而シテ營業稅ハ其課稅標準ハ固定資本及運轉資本等ニ資ルト雖要スルニ有形ノ器械若ク  
 ハ資本ニ賦課セズ無形ナル營業其モノヲ條件トシテ營業者ニ賦課スルモノナレハ明治十三  
 年布告第十七號營業稅雜種規則第二條ニ依ル水車タル物件ヲ目的トシテ賦課シタル雜種  
 稅水車稅ハ營業者ノ營業ニ對スル課稅ニアラサルコト論テ俟タス故ニ雜種稅タル水車稅ハ  
 營業稅法第三十六條ノ制限以外ニ於テ之ヲ賦課シ得ラルヘキナリ又營業稅雜種稅規則第  
 二條ニ依ル水車稅ハ後發ノ營業稅法ト違モ抵觸スル所ナキコト前段陳述ノ通ニ付其效力ノ  
 消滅スル謂レナシト確信セリ故ニ原告ノ請求ハ之ヲ排斥セラレシコトヲ請フト云フニア  
 依テ證據ヲ閱シ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

原告ハ水車春日業即チ製造ニ從事スルモノナレハ隨テ營業稅法第十二條第四項ノ稅率ニ基  
 キ之ヲ納稅ヲ爲シ而シテ同法第三十六條ニ依テ營業ニ對スル本稅ノ義務ヲ完了シタルニモ拘  
 ラス靜岡縣ニ於テ更ニ縣稅トシテ原告等カ營業ニ直接供用スル水車其物ニ對シ物件稅トシテ  
 普通縣稅ヲ賦課シタルハ違法ナリト云フト雖營業稅法第三十六條ハ營業者ノ營業ニ對シ府縣

ハ其十分ノ二以内ノ附加稅塗ヲ課スルコトヲ得ルモ此ノ附加稅ノ外營業其者ニ對シテハ府縣  
 稅又ハ地稅ヲ課スルヲ得ストノ規定ニ止リ其營業上使用スル物件ニシテ課稅スルトキハ其  
 制限外ニ屬スルモノト認メサルヲ得ス故ニ本件ノ如ク明治十三年布告第十七號營業稅雜種稅  
 規則第二條ニ則リ單ニ雜種稅トシテ水車タル物件ヲ目的トシテ賦課シタル水車稅ハ營業者ノ  
 營業ニ對スル課稅ト行ハルヲ以テ營業稅法其他ノ法律規則ニ照ラン違法ノ課稅ナリト云フ  
 事得ヌ又原告ハ明治十三年布告第十七號ハ營業稅法第十二條及第三十六條ニ據レハ其效力ハ  
 既ニ消滅シタルモノナリト云フト雖明治十三年布告第十七號及營業稅法ハ各自獨立シテ效力  
 ヲ有スルモノナレハ營業稅法發布ノ爲メニ該布告ノ效力ヲシテ消滅ニ屬セシメタルモノト云  
 フヲ得サルモノト云故ニ明治十三年度靜岡縣雜種稅タル水車稅ハ取消スヘキモノニアラス其  
 他原告被告雙方陳辯スル所アルモ裁判ニ必要ナキヲ以テ說明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相シタス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●不法裁決取消請求ノ訴 明治三十一年五月二十一日宣告  
 明治三十年第八十五號

不法課稅取消請求ノ件



●判決要旨

町村長ハ其ノ町村ニ對シ職務ノ懈怠又越權ノ行爲ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任ヲ有スルモノトス

說明

町村ニ於ケル吏員ノ賠償責任ニ關シテハ町村制明カニ其ノ責任ヲ認メタルヲ以テ若シ吏員コシテ懈怠若クハ越權ノ行爲アリタルトハ之ヨリ生スル損害ヲ賠償スル責任ヲ有スルモノトス

(參照)町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出願スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參事會ハ假シ其財產ヲ差押フルコトヲ得(町村制第百二十九條)

原告 淺野廣三郎

訴訟代理人 伊地知榮藏

被告 告郡長 手塚任

●火藥賣買營業禁止命令取消ノ訴 明治三十一年第五百十號(請求不立)

判決要旨

火藥營業ノ管理人ニ規則違反ノ行爲アルヲ理由トシテ該營業ノ本人ニ對シ火藥營業規則第三十條ヲ適用シ其ノ營業ノ禁止ヲ命シタルハ違法ニアラス

說明

刑ハ一人ニ止マルトウ所謂刑法上ノ犯罪責任ノ法理ニ據テ考フルキハ本件ノ營業管理者カ其ノ營業規則ノ違反ヨリ生スル責任ハ之ヲ以テ其ノ違反者本人ニ負ハシムルノ外敢テ他ニ及ス可カラサルコト固ヨリ論ヲ待タサル所ナリ然リト雖モ本件ノ所謂火藥取締規則ナルモノ、制裁ハ元來刑法上ノ所謂刑罰ト其ノ根本ノ性質ヲ異ニスルカ故ニ刑罰責任ノ法理ヲ以

營業禁止ノ性質







リタルニ過キス而シテ佐藤傳吉カ許可以外ノ火藥ヲ貯藏シタル事實ハ原告カ關知セサル所ニシテ被告提供乙第二號ノ四ニモ父ノ申付ニ依ラス自己專斷ヲ以テ明治三十一年六月頃ヨリ制限ヲ越ヘ火藥五貫二百目ヲ云々トアル如ク此ノ點ニ於テハ被告モ敢テ異議セサルナリ然ラハ原告ノ家人佐藤傳吉カ火藥取締規則第十三條第二項前段ノ規定ニ違背シタル行爲アリタリトテ之ヲ以テ直チニ其違背行爲ニ關係ナキ原告カ火藥取締規則第三十條ノ制裁ヲ受ク可キ謂レナシ而シテ傳吉ハ事實一家人タルニ過キスシテ原告不在中ハ其營業ノ如キモ妻某之ヲ管理シアリシナリ又火藥取締規則第三十條ヲ見ルニ營業者此規則ニ違背シタルハ云々ノ明文アリテ即チ該第三十條ノ制裁ハ營業者規則違犯ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ營業者ノ家人カ違背行爲アリトテ之ヲ以テ直チニ其營業者ニ第三十條ノ制裁ヲ加フヘキモノニアラサルコトハ法律ノ明文上甚タ明白ナリ故ニ原告カ佐藤傳吉ノ違背行爲ニ關知セサル事實ヨリ見ルモ又火藥取締規則第三十條ノ明文ヨリ見ルモ何レニシテモ被告カ原告ニ對シ營業禁止ノ處分ヲ爲シタルハ失當ナリ依テ明治三十一年十一月二日被告カ原告ニ對シ處分シタル火藥買賣營業禁止命令ハ之ヲ取消ストノ裁判アランコトヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ火藥取締規則違犯ニ於ケル刑事上ノ責任ハ當時偶々原告入監不在ノ故ヲ以テ原告ニ代リテ取扱ヒタル長男傳吉ノ責任ニ歸シタリト雖同則第三十條ノ禁停止ナルモノハ素ト行政上ノ處分タルコト外ナラス乃チ營業者カ當然遵守セサルヘカラサル取締

規則ニ違背スルノ事實アルニ當リテ其情狀ニ依リ行フヘキ取締法ニシテ苟モ營業上取締規則違犯ノ事實アラシカ刑事上ノ責任家人ニ在ルト否トヲ論セス行政上ノ責任ナルモノハ全然營業者本ハニ歸セサルヘカラス何トナレハ火藥買賣營業ナルモノハ普通ノ營業ト異リ頗ル危険ノ營業ナルヲ以テ營業者規則違犯ノ事實アリ以テ將來危険ノ虞アルニ於テハ危害豫防ノ上ヨリシテ是非トモ第三十條ノ行政處分ヲ爲サルヘカラサレハナリ要スルニ第三十條ノ行政處分ナルモノハ刑事上ノ責任家人ニ在リヤ否ヲ問フヲ要セス營業上規則違犯ノ事實アルヤ否ヤノ一點ニ存スルモノタルニ外ナラス況ンヤ本營業タルヤ原告出願ノ當時ニ於テ其性行履歷共ニ本取締規則ヲ遵守シ取締上危険ノ虞ナシト認メ原告ニ對シ本營業許可ヲ與ヘタルモノニシテ管轄廳ハ本營業ニ關シ原告ノ外他ニ本營業者ヲ認メス現ニ原告ノ收監不在ナルヤ引續キ長男傳吉ニ於テ原告ニ代リ本營業ヲ管理取扱ヒタルモノニシテ而カモ全然原告ノ名義ヲ以テ營業シ來レルモノタルヲ以テ本營業ニ關スル行政上ノ責任ナルモノハ凡テ營業者タル原告ニ歸スルノ至當ナルニ於テテヤ依テ原告ノ請求相立タストノ裁判アラシコトヲ請フト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スル左ノ如シ

原告ハ原告ノ家人佐藤傳吉カ火藥取締規則第十三條第二項前段ノ規定ニ違背シタル行爲アリタリトテ之レヲ以テ直チニ其違背行爲ニ關係ナキ原告カ火藥取締規則第三十條ノ制裁ヲ受クヘキ謂レナシト云フト雖原告ノ在監中傳吉ニ於テ原告ノ營業ノ爲メ萬般ノ業務ヲ管理



シ居リタルコトハ乙第二號證ノ四判決書ニ徴シテ明瞭ナレハ傳吉ノ違犯行為ハ原告主張ノ如ク原告ノ申付ニ依ラサル專斷ニ出ツル行為ナリトスルモ其行為ニ就テハ自己ノ行為ト等シク營業上ノ責任ナシト言フヲ得ヌ又原告ハ火藥取締規則第三十條ノ營業者云々トアルハ營業者本人ノミノ違犯シタル場合ヲ指示スルモノナリト云フモ前段説明ノ理由ニ依リ本件ノ如キ營業管理人ノ違犯行為アリタル場合モ亦同規定ノ範圍内ニ入ルヘキモノト解釋セサルヲ得ヌ依テ被告ニ於テ明治十七年太政官布達第三十一號火藥取締規則第三十條ヲ適用シ原告ノ火藥賣買營業ヲ禁止シタルハ適法ノ處分ニシテ之ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス右ノ理由ナルニヨリ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●水車用河水引用許可取消ノ訴訟ニ對スル不當裁決取消請求ノ訴訟ニ對スル妨訴抗辯 明治三十一年第八十五號 明治三十二年十一月六日判決 (妨訴抗辯不相立)

判決要旨

期限ヲ經過シタリトノ理由ヲ以テ訴願ヲ却下シタル裁決ニ對シ直チニ本案ノ行政訴訟ヲ提起スルモ違法ニアラス

說明

行政訴訟ヲ提起スルニハ行政裁判法第十七條第二項以下ノ例外規定ヲ除

クノ外直近上級ノ行政廳ニ向テ一旦訴願ヲ提起シタル後ニアラスンハ之ヲ爲ヌ可ラサルコト同條第一項ノ規定スル所ナリ然レモ已ニ一旦適法ニ訴願ヲナシタルトキハ必スシモ本案ニ對シ裁決アルヲ要セス何トナレハ行政裁判法第十七條第一項ノ規定ハ已ニ訴願ヲ爲シ是ニ對シテ裁決アリタルハ直チニ訴訟ヲ提起シ得ヘキ旨ノ規定タルニ過キスシテ其ノ裁決カ何レハ點ニ行ハレタルヤハ一モ法律ニ於テ限定スル所ナケレハナリ

原告 長野縣下那郡伊賀真村 北方區

同 同縣同郡同村 下殿岡區

右代表者 長野縣下伊那郡伊賀真村長 久保田宗楠

原告 長野縣下伊那郡龍丘村 林 外三區

右代表者 長野縣下伊那郡龍丘村長 中田大三郎

訴訟代理人 東京市神田區西小川町二丁目 八番地辯護士 高橋 拾六 外一名

被告 長野知事 押川 則吉

訴訟代理人 長野縣屬 堀内政之助

行政訴訟ノ法式



右原告伊賀良村長久保田宗橋外壹名ヨリ被告長野縣知事押川則吉ニ對スル水車用水引用許可取消ノ訴願ニ對スル不當裁決取消請求ノ訴ニ付被告ハ妨訴抗辯ヲ爲セリ依テ審理ヲ遂クル處

被告抗辯ノ要旨ハ本件ハ下伊那郡長カ河野幸之助ノ出願ニ對シ與ヘタル水車ノ爲メ河水引用許可ノ指令ヲ不當トシ其取消ヲ求ムルモノナルニ上級行政廳ヘ訴願ヲ爲サシテ出訴シタルモノナリ河水引用ノ事ハ素ト被告知事ノ職權ニ屬スレトモ官制ノ定ムルトコロニ依リ郡長ニ委任シアルコトハ二十三年四月十五日ノ訓令第五十五號及告示第二十六號ニ依リテ明カナリ而シテ郡長カ其委任セラレタルコトヲ行フハ知事ノ代理トシテ行フニアラスシテ自己ノ職權トシテ行フモノナルコト亦官制ノ示ス所ニ依リテ明カナリ然レハ郡長カ河野幸之助ノ出願ニ對シテ與ヘタル指令ハ一ノ獨立シタル行政處分ナルヲ以テ其處分ニ不服ナレハ上級行政廳タル知事ニ對シテ訴願ヲ爲シタル上ニアラサレハ出訴スルコトヲ得ス然ルニ本件ハ原告ヨリ訴願アリタルモ訴願期限ヲ經過セルモノト認メテ却下シタルカ争點トナリテ出訴ニ及ヒタルモノナレハ行政裁判所ニ於テ訴願期限未タ經過セストノ判決ヲ受ケタル上ハ更ニ本案ニ付被告ヘ訴願ヲ爲スヘキニ直チニ出訴シタルハ不法ナルヲ以テ原告ノ請求ハ棄却セラレタシト云フニ在リ

原告辯駁ノ要旨ハ被告ハ原告カ訴願ヲ經サルモノ、如ク陳述スルモ原告ハ明治三十一年五月四日ヲ以テ被告ヘ訴願書ヲ提出シタリ而シテ其訴願ノ目的ハ訴願書中要求ト題シタ

ル部ニ記載セル如ク明治二十九年十一月二十日付乙第六九三六號ヲ以テ長野縣下伊那郡飯田町河野幸之助カ提出シタル水車ノ爲メ河水引用願ニ與ヘタル許可ノ指令ヲ取消サレシコトヲ求ムルニ在リキ然ルニ被告ハ訴願法第八條ノ期限ヲ經過シタリトテ右ノ訴願ヲ却下シタルニ付之レヲ不當トシテ出訴ニ及ヒタルニ行政裁判所ニ於テハ訴願期限未タ經過セストノ中間判決ヲ與ヘラレタリ斯ク原告ハ既ニ河水引用許可ノ取消ヲ求ムル點ニ付キ被告ヘ訴願ヲ爲シタルモノナルニ付キ行政裁判所ニ於テ訴願期限經過セストノ判決アリタル以上ハ被告ヘ差戻サルレハ格別ナレトモ其差戻ナキヲ以テ本訴ハ依然行政裁判所ニ繫屬シ居リテ新ニ出訴シタルニハアラサルナリト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スル左ノ如シ

被告ハ本件ハ原告ヨリ訴願アリタルモ訴願期限ヲ經過セルモノト認メテ却下シタル争點トナリテ出訴ニ及ヒタルモノナレハ行政裁判所ニ於テ訴願期限未タ經過セストノ判決ヲ受ケタル上ハ更ニ本案ニ付被告ヘ訴願ヲ爲スヘキニ直チニ出訴シタルハ不法ナリト云フト雖原告ハ適法ノ訴願ヲ被告ニ提出シタルニ被告ニ於テ違法ノ裁決ヲ爲シタルヲ以テ茲ニ出訴シタルモノニテ本件ハ適法ニ訴願經過ノ手續ヲ履行シタルモノナレハ直チニ被告ニ對シ本案河水引用許可ノ取消ヲ求ムルハ固ヨリ不當ノコトニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ

被告ノ妨訴抗辯相立タス



此裁判ニ關スル訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

●不當裁決取消ノ訴 明治三十二年第七十一號 明治三十二年十一月十日宣告 (請求不立)

判決要旨

- 一、郡會カ内務大臣へ陳情書ヲ呈スルコト及ヒ縣知事へ辭職ノ勸告ヲ爲スコトノ議決ヲ爲スハ越權ナリ
- 二、前項ニ掲ケル越權ノ議決ニ對シ知事カ郡制第七十五條ニ依リテ取消ノ裁決ヲ與フルモ違法ニアラス

說明

一、内務大臣へ陳情書ヲ呈シ若クハ府縣知事へ辭職ヲ勸告スル如キハ元來郡法人ノ權能ニ屬セサルカ故ニ郡會カ之ヲ議決スルハ正ニ其ノ越權ノ處置タルコト明カナリ暫ク皮想ノ感ヲ以テ考フレハ内務大臣若クハ府縣知事ハ地方自治行政ノ監督機關ニシテ而シテ其ノ監督ノ如何ハ常ニ自治體ノ公益ニ關スルカ故ニ此等監督機關ニ向テ陳情ヲ爲シ若クハ自治行政ノ圓滑ヲ計ルカ爲メニハ知事ニ向テ辭職ヲ勸告スル如キハ郡ノ公益ニ關スル事項トシテ正ニ郡制第二十八條第二項ノ認許スル所ナルカ如シト雖モ然ラス蓋シ該條ノ規定ハ郡ノ全部又ハ一部ノ公益ヲ増進シ

若クハ之ヲ損害スルモノアルトキ郡會ハ之ニ關シ執行スヘキ事項ニ付  
 キ建議スルヲ云フモノニシテ本件ノ如キ内務大臣若クハ府縣知事ニ向  
 テ陳情若クハ辭職ヲ勸告スル如キハ之ニ包含スルモノニアラサルナリ  
 二、郡制第七十五條ハ郡會ノ違法若クハ越權ノ議決ヲ爲シ而シテ其ノ執行ヲ  
 停止シ得ヘキモノ、ミニ適用スヘキカ如シト雖モ本件ノ如ク議決ノ性  
 質其ノ執行ヲナシ得ヘカラサルモノモ己ニ越權ノ議決タル以上ハ猶ホ  
 該案ニ依リ之レカ取消ノ議決ヲ與フルモ違法ニアラス

(參照) 郡會又ハ郡參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シテ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ直ニ府縣知事ノ裁決ヲ請フヘシ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(舊郡制第七十五條)

原 告 山田 兼長  
 同縣上伊那郡書記  
 訴訟代理人 中山喜一郎  
 同縣上伊那郡長  
 被告 押川 則吉  
 長野縣知事  
 訴訟代理人 石原 三郎  
 長野縣屬

右原告上伊那郡會ヨリ被告長野縣知事押川則吉ニ係ル不當裁決取消ノ訴審理ヲ遂ル處  
 郡會ノ議決權限



原告陳述ノ要旨ハ近來長野縣會ノ狀勢ハ黨弊ニ流レ明治三十一年十一月開設シタル通常會ニ於テ本郡ヤ立簡易學校費ノ縣費補助金ヲ全廢シ之ニ反シ他郡ノ蠶業學校農事試驗場ノ如キハ前年ニ比シ殆ント三倍ノ補助ヲ議決セリ是レ縣會ハ自己ノ威信ヲ保持シ縣下ノ利益ヲ計ラントスルニ意ナク漫然此舉ニ出タル自由黨出身ノ議員カ其多數ヲ持ミ縣治問題ヲ利用シ以テ自黨ヲ縣下ニ増殖セシメントスルニ外ナラス又本郡ニ於ケル天龍三峰兩川明治三十年九月ノ水害ニ付キ縣廳ハ堤防復築工事ヲ起サントシ同三十一年三月開設シタル臨時縣會ノ議ニ附セシニ議會ハ一ノ理由ヲモ付セヌ之ヲ否決セリ是同年二月衆議院議員總選舉ニ於テ該關係村落カ自由黨ノ勸誘ニ應セザリシニ原由スルモノトス亦同三十一年度ノ水害ニ對シ縣廳ハ應急復築工事ヲ企圖シ內務省ニ國庫ノ補助ヲ請ヒ以テ同三十一年十二月ノ臨時縣會ニ議リシニ縣會ハ本郡ニ限リ國庫ヨリ補助ヲ與ヘントスル個所ニ對シ削減ヲ加ヘ同工事無効ニ歸セシメ而シテ縣廳カ必要ヲ認メ議案ニ掲ケタル個所ノ中其十個所ヲ全廢シ其可決シタル一個所ハ二三ノ關係部落民カ自由黨ニ加盟シタルニ因ル其他自由黨タル縣會議員選出ノ諸郡ニ對テハ縣廳ノ必要ヲ認メサル個所ニ新設或ハ増築ヲ追加議決シ此外縣費負擔道路ノ改修町村治水等縣會ノ措置總テ此方針ニ出テサルハナシ此ニ際シ監督ノ任アル地方長官ハ職責トシテ宜シク之カ運用ニ力ヲ效シ之ヲ矯正調理セサルヘカラス是レ府縣制第八十五條ノ規定スル所ニシテ公益上速カニ原案ヲ執行スヘキカ當然ノ責務ナリ然ルニ事茲ニ出テス縣會ノ爲スカ儘ニ一任シ之ヲ救濟セザリシモノ

ナリ以上ノ事實ナルニ因リ本郡會ハ明治三十一年十二月縣知事ニ建議シ內務大臣ヘ陳情書ヲ呈出セントスルモ知事ハ建議ノ趣旨ヲ容レヌ又陳情書ハ一ノ建議ナリトノ理由ニテ却下セラレタリ茲ニ於テ再ヒ明治三十二年三月六日陳情書ノ議決ヲ爲シ同時ニ知事ニ對スル辭職勸告及不信任ノ議決ヲ爲シタルニ此議決ニ對シ被告ハ權限ヲ越ヘタル議決ナリトノ理由ヲ以テ取消ノ裁決ヲ與タルハ不當ナリ又辭職勸告書ハ郡制第二十八條ニ依レル一種建議タルニ止マリ曩ニ本郡ノ公益ニ關シ建議シタルモ更ニ聽ク所ナキヲ以テ再ヒ建議セシモノナリ然シテ知事不信任ノ議決ハ意思ヲ發示セシノミニシテ執行シ得ヘキモノニアラサレハ郡制第七十五條ヲ適用スヘキモノニアラス然ルニ被告ハ該條ニ依リ取消ノ裁決ヲ與ヘタルハ不服ナリ依テ明治三十二年三月十六日本縣知事ノ與ヘタル裁決ヲ取消サレンコトヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ明治三十二年三月六日上伊那郡會ニ於テ內務大臣ヘノ陳情縣知事辭職勸告及縣知事不信任ノ三件ヲ議決セシヲ以テ郡長ヨリ郡制第七十五條ニ依リ權限外ノ議決タル旨ヲ示シ再議ニ附シタルモ其議決ヲ更メサルニ付郡長ハ同月八日付ヲ以テ被告ノ裁決ヲ申請シタルニ依リ被告ハ郡會ノ議決權限ヲ超ヘタル者ト認メ該議決取消ノ裁決ヲ與ヘタルモノニシテ凡ソ郡會ノ權限ハ郡制ノ規定ニ基キ郡行政ニ關スル事件ヲ議決シ又郡制第二十八條二項ニ依リ郡ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付郡長又ハ府縣知事ニ建議スルコトヲ得ルモ內務大臣ヘノ陳情縣知事辭職勸告縣知事不信任ノ議決ノ如キハ



全然那會ニ權能ナキモノナレハ那長之カ再議ヲ命シタルモ尙ホ之ヲ更メサルニ付那制第七十五條ニ依リ該議決ヲ取消シタルモノナレハ被告ノ裁決ハ相當ニシテ原告ノ本訴請求ハ其理由ナキヲ以テ棄却セラレンコトヲ求ムト云フニ在リ

第一原告ハ内務大臣ヘノ陳情書及知事辭職勸告書ハ那制第七十五條ニ依リテ越權ノ議決ナリシトテ取消サルヘキ理由ナシト論スルモ凡ソ那會ノ議決スヘキモノハ那制第二十六條列記ノ事項其他ノ法律命令ニ依リ其權限ニ屬スル事件ニ限ルモノトス而シテ該條及其他ノ法令ニ照スニ那會ニ於テ本件ノ如キ陳情、辭職勸告ヲ議決スルノ權限ヲ與ヘラレタルコトナシ然ラハ則チ原告カ内務大臣ヘノ陳情及知事ノ辭職勸告ヲ議決セシハ全ク其職權ニ屬セサル事項ヲ議決セシモノニシテ即チ其權限ヲ超越シタルモノトス原告ハ辭職勸告ノ如キハ那制第二十八條ニ依レル那ノ公益ニ關スル建議ナリト云フモ同條第二項ハ那ノ全部又ハ一部ノ公益ヲ増進シ若クハ之ヲ損害スルモノアルトキ那會ハ之ニ關シ施行スヘキ事項ニ付キ建議スルヲ云フモノニシテ本件ノ如キ辭職勸告ヲ議決スルヲモ包含スルモノニアラス故ニ被告カ那長ノ申請ニ依リ那制第七十五條ニ基キ原告ノ議決ヲ取消シタルハ相當ニシテ原告ノ請求ハ理由ナキモノトス

第二原告ハ知事不信任ノ議決ハ單ニ那會ノ意思ヲ發表シタルニ過キサレハ那制第七十五條ニ該當セサルモノナルニ被告ハ該條ニ依リ原告ノ議決ヲ取消シタルハ不當ナリト主張スル

モ元來該議決ハ性質ニ於テ執行スルヲ得ス隨テ議決ノ執行ヲ停止スヘキ事實ノ生スヘキ理由ナキヲ以テ那制第七十五條ニ依リ被告ノ裁決ニ對シ行政訴訟ヲ爲スヲ得ス

依テ判決スル左ノ如シ  
本件内務大臣ヘノ陳情及知事辭職勸告ノ議決ニ付キ被告ノ與ヘタル裁決ニ對シ取消ヲ求ムル原告ノ請求ハ相立タヌ又知事不信任ノ議決ニ付キ被告ノ與ヘタル裁決ニ對シ取消ヲ求ムル原告ノ訴ハ之ヲ棄却ス

●村税中元金徵收費ニ關スル全部納稅額選附 請求ノ訴 明治三十二年第七十二號 明治三十二年十一月六日判決 (請求不立)

判決要旨

村ノ豫算ニ不當ノ費目アルモ監督官廳ノ指揮ニ依リ其ノ費目ヲ他ノ適法ナル必要科目ニ組換ヘタルキハ其ノ豫算ハ適法ノモノトス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

原

岡山縣北勝郡吉野村大字曾井十八番邸平良農 告 小林直一郎

村豫算ノ補正



被告 岡山縣勝北郡吉野村長 和田左右助

五十

右原告小林直一郎ヨリ被告村長和田左右助ニ對スル村稅中元金償還費ニ關スル全部取消及納稅額還付請求ノ訴雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ明治三十一年度村稅豫算中金七十五圓元金償還並金十三圓五十錢利子金トシテ計金八十八圓五十錢ヲ村稅中ニ編入シ賦課シアルモ決シテ納稅スルノ義務ナキモノナリ何トナレハ元金償還費トアレハ則チ三十年度ニ借入タル者ナラン此返還ハ町村制第六條第三項ニ依リ其年度内ニ限ルヘキ者ナリ尙又三十年度ニハ二十九年ヨリノ繰越金六十圓餘アルノミナラス金七十八圓ノ豫備費モ徵收シアルヲ以テ決シテ三十年度ノ豫算ニ不足ヲ生シ借入金ヲ爲スノ必要ナシ然ルニ三十年度ノ決算ヲ見ルニ五十五圓餘ヲ三十一年度ニ繰越シアレハ之ヲ以テモ償還スルノ道ハ十分ナルニ三十一年度豫算中ニ編入シテ賦課徵收スルコト甚タ不法ノ行爲ナリ故ニ村長及郡參事會並ニ縣參事會ニ訴願シタル處孰レモ原告ノ請求ヲ排斥シタリ殊ニ縣參事會ノ裁決スル所ニ依レハ吉野村ニ於テ三十年十二月中借入金ノ事實アリシモ適法ノ理由ナキコトヲ發見シ其起債ヲ取消シタルノ結果訴願人ノ所謂三十一年度豫算掲記ノ公債費ハ其支出ヲ要セサルニ至リタルヲ以テ明治三十二年一月三十一日該豫算ヲ變更シ本件公債費ニ關スル事項ハ全部之ヲ取消シタリトノ理由ヲ以テ訴願ヲ却下シタルトモ其理由ヲ了解スルコト能ハサルニ依リ茲ニ本訴ヲ提起シテ三十一年度村稅廢入出豫算額ノ内計金八十八圓五十錢ノ豫算全部ヲ取消シ

九十六

其上元金償還費並利子金トシテ賦課徵收シアル分一時速ニ還付スルヤウ判決ヲ請求スト云フニ在リ

九十七

被告答辯ノ要旨ハ原告ニ於テ借入金ノ償還ハ當該年度ニ限ルモノナリト論争スルモ本件起債ハ急支ヲ要スル訴訟費ニ充ツル必要上ヨリ生シタル者ナリ當時臨時追加豫算ヲ發シテ課賦徵收スヘキ等ナリシモ其除地ナカリシカ爲メ已ムヲ得ス三十年度ニ借入金ヲ爲シ三十一年度ノ豫算ニ於テ償還スルノ手續ニ依リタルモノナルニ監督官廳ハ其手續ノ違法ナルヲ理由トシテ豫算ノ變更ヲ指揮セラレタルカ故ニ本件起債ニ關スル事項ハ全部之ヲ削除シ之ニ對スル收入ハ必要支出ニ組換ヘタリ於是乎本訴所争ノ點ハ正ニ消滅ニ屬ソタルモノナレハ原告ノ請求ヲ速ニ却下セラレタリト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本件ノ事實ハ岡山縣勝北郡吉野村明治三十一年度豫算ニ三十年度借入金ノ償還費及利子ノ科目ヲ掲載シアルタルヲ以テ監督官廳ハ其變更ヲ指揮シタルトコロ同年度末ニ至リ村會ノ議決ヲ經テ其費額ヲ他ノ必要科目ニ組換ヘ併セテ三十年度ノ決算ニ變更ヲ加ヘ其豫算ヲ公告シタルコト證據書類ニ依テ明瞭ナリ按スルニ一時ノ借入金ハ原告主張ノ如ク同年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキコト町村制第六條ノ規定スル所ナリ然レトモ被告カ監督官廳ノ指揮ニ依リ三十一年度内ニ於テ豫算科目ヲ變更シ元金償還費及利子ノ費額ヲ他ノ必要科目ニ組換ヘタル以上ハ不法課稅ノ原因既ニ排除セラレ從テ訴求ノ目的消滅ニ歸シタルモノト

村豫算ノ補正

五十一



云ハサルヲ得ヌ

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

本訴ハ之ヲ却棄ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●官民未定地査定事件不法處分取消ノ訴 明治三十一年第六十二號  
明治三十二年十一月六日宣告 (請求相立)

判決要旨

從來水利若クハ其ノ他ノ使用ノ爲メ一村又ハ一人ノ名義ヲ以テ他村ニ貸與シ來リタル地所ハ明治四年三月七日民部省達第二項ニ依リ其ノ貸方ノ私有地ニ編入スヘキモノトス

説明

本件ハ説明ヲ要セス左ニ參考トシテ明治四年三月七日附民部省達ヲ掲載スヘシ

- (參照) 府藩縣支配地ノ内渡地代米渡被相廢候儀ハ去年七月廿一月御布告ノ通ニ候處區々ニ取計候向モ有之候
- ニ付猶又左ノ通相違候事

- 一 渡地代米舊幕ヨリ渡來又ハ地頭ヨリ相渡來候分高内引相成候上ハ從前ノ代米ハ被相廢作儀ハ猶舊約廢止ノ

上地主共ハ相當ノ御手當被下候事

但相當ノ御手當被下候儀ハ年々作徳ノ平均ヲ以相渡候歟又ハ御買上ノ積ヲ以一時ニ相當ノ價相渡候共實地檢査ノ上見込可申立事

- 一 村方相對示談ニテ他村ノ地所借受用器水路始賦數等ニ付渡地ノ分租稅作總米並ニ高掛物等部テ借請候村方ヨリ地主ハ相渡來候分御布告ニ基キ從前ノ通可取計事

- 一 府藩縣管轄地ノ内地支配ハ貸渡渡地ニ致シ從前引付ヲ以代米等渡來候分モ其支配每高内引ニ可取計尤地主總米等舊幕並ニ地頭ヨリ渡來候分ハ其支配每應入費ノ内ヲ以手當可致事

- 一 高内引ニテ貢米免除ニ付テハ高掛物モ一切免除可申付候事

(民部省明治四年三月七日付達)

原 告 片野モシ

東京府京橋區西紺屋町三番地  
辯護士

訴訟代理人 岡崎正也

岐阜縣知事

被告 野村政明

岐阜縣屬

訴訟代理人 關谷久之助

東京市鉤町區飯田町三丁目拾番地辯護士

片野孝太郎

右原告片野モシヨリ岐阜縣知事野村政明ニ對スル官民未定地査定事件不法處分取消ノ訴訟

民有地編入



審理ヲ遂ル處

原告陳述ノ要旨ハ本件係争ノ地所ハ元來民有地ニシテ寛文十一年度ニ於テ甲第一號證ノ如ク下笠輪人民ヨリ惡水落シ以テ設置スルニ付同人民ヨリ年々日損水損ニ拘ラス敷地料トシテ一反ニ付米一石宛ヲ支拂ハシメ之ヲ江敷並ニ堤敷地トシテ使用スルコトヲ許容シ爾來明治六年度ニ至ルマテ該借地契約ヲ繼續シ下笠輪人民ヨリ年々敷地料ヲ支拂ヒ來レリ然ルニ明治六年度ニ至リ該敷地ニ關シ縣廳ヨリ村役人へ五ヶ年分ノ作徳米石代トシテ金百二十圓十九錢六厘四毛ヲ下付セラレタルコトアルモ原告ハ決シテ右地所ノ賣渡ヲ承諾シタルニアラス加之論地ハ爾後本件處分ニ至ルマテ官民未定地トシテ其儘繼續シ來リ原告地主ニ於テ其所有權ヲ拋棄シタルモノニアラサルコトハ公認セラレタル事實ナリ而シテ明治六年ヨリ五ヶ年ヲ經過シタル後ニ至リテハ原告ハ舊ノ如ク下笠輪人民ヨリ論地ニ對シ敷地料ヲ受領シ來リタルモノニシテ論地ハ當然民有地ニ編入セラルヘキ筋合ナルニ被告ハ原告ノ出願ニ對シ明治三十一年四月五日付ヲ以テ本件官民未定地民有ニ編入件開届ケ難シトノ指令ヲ爲シタルハ不法ナリ依テ右處分ヲ取消シ本件ノ地所ヲ原告ノ所有ニ編入スヘキモノナリトノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本件ノ地所ハ元來民有地ニシテ寛文十一年度中惡水排除ノ爲メ溝渠堤塘ヲ新設シタルモノナリ而シテ甲第一號證ハ被告ノ認ムル所ニシテ舊尾州領ニ屬スル元下笠輪村船付村大野村栗笠村ヨリ支拂フヘキ江料米ハ舊領主ヨリ下付シ來リタル舊慣ニ依リ

廢藩置縣ノ後モ尙ホ之ヲ下付セリ然ルニ明治四年三月民部省第三號達ニ依リ論地ハ明治六年ニ於テ官へ買上ケノ處分ヲ爲シ乙第一號代金領收證ヲ徵セリ故ニ地籍編纂ノ際之ヲ官有地ニ編入スヘキハ當然ナレトモ當時事情ノアリタル爲メ官民未定地トナシ置タルモノニシテ該地方ハ縣下有名ノ水害地ナレハ惡水排除若クハ防禦ニ最モ困難ノ地ニシテ從テ之ニ關スル苦情モ亦尠カラズ即チ論地ノ如キ若シ斷然ノ處分ヲ爲ス時ハ關係村ノ間ニ紛議ヲ醸シ非常ナル弊害ヲ生スルノ恐レナシトセサルニ付時機ヲ待チ居リシ所明治二十八年十月ニ至リ原告ヨリ査定出願シタルヲ以テ本件ノ指令ヲ爲シタルモノニシテ固ヨリ至當ノ處置ナリ依テ原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
被告ハ本件係争地ハ明治四年民部省達第三號ニ依リ乙第一號證ノ如ク領收證ヲ徵シ官へ買上ケノ處分ヲ爲シタルモノナレハ民有ニ編入スヘキモノニアラスト云フト雖モ甲第一號證ニハ「江代米云々下笠輪中大場新田ヨリ小坪新田へ相渡シ可申事」トアルノミナラス其他該證書全體ヲ視ルニ村方相對ノ契約ナルコト明確ナリ最其裏面ニ濃州高須ヨリ脇屋金左衛門外二名尾州名古屋ヨリ五味所左衛門外一名立會相定メタル旨記載アルモ是レ單ニ前記ノ人名立會タルノ事實ヲ證スルニ過キサルノミ然リ而シテ明治四年民部省達第三號ニ依レハ第一項ニハ「潰地代米舊幕ヨリ渡シ來リ又ハ地頭ヨリ相渡來候分高内引相成候上ハ云々地主共ハ相當御手當被下候事」云々其第二項ニハ「村方相對示談ニテ他村ノ地所借受ケ云々

町會議決權ノ範圍



借受候村方ヨリ地主へ相渡來候分御布告ニ基キ從前ノ通取計可申事トアルヲ以テ本件係  
 爭地ノ如キ村方相對ニテ貸借シタル地所ハ該違ノ第二項ニ屬スヘキモノニシテ其第一項ニ  
 依リ賦分スヘキモノニ非サルコト明瞭ナリ然ルニ明治六年岐阜縣令カ右違ニ基キ係爭地ニ  
 對シ買上ケ處分ヲ爲シタルハ其適用ヲ誤リタル違法ノ處分ナリトス然レハ本件官民未定地  
 民有ニ編入ノ件開届ケ難シトノ處分ハ適法ナリト云フヲ得ス其他雙方陳辯スル所アルモ裁  
 判上必要ナキヲ以テ説明セズ

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

被告ハ明治三十一年四月五日付ヲ以テ本件官民未定地民有ニ編入ノ件開届ケ難シトノ指令  
 ヲ取消シ原告請求ノ岐阜縣多藝郡大卷村地内字大割五千六百十六番ノ三溝渠敷一町六反四  
 畝十五步同縣同郡同村同字五千六百十六番堤塘敷一反七畝二步ヲ原告ノ所有ニ編入スヘキ  
 モノトス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

●不當裁決取消ノ訴 明治三十二年第四百十號 (請求不成立)  
 明治三十二年十二月十八日判決

判決要旨

町會カ町費及ヒ雜部金并ニ國稅府縣稅ノ徵取金ヲ銀行ニ  
 預托スヘント議決シタルハ違法ナリトス

凡ソ町村法人ハ町村制ノ規定ニ準據シ始メテ自存目的ヲ遂ル者ナルカ故  
 ニ苟モ此規定ヲ離レテ他ニ法人ノ機能アルコトナシ然リ而シテ町村法人ノ歲  
 入歳出ニ關スル凡テノ公金ハ凡テ町村制第六十八條ノ規定ニ依リ町村長  
 之レヲ保管シ而シテ之カ出納事務ハ同第七十一條ニ依リ收入役ニ於テ之レ  
 フ担当スヘキ規定ナルカ故ニ町村法人ノ歳入歳出其他一切ノ公金ハ右兩  
 條ノ規定ニ依リテ保管セラル、ノ外他ニ之レカ保管ノ途アルコトナシ而  
 シテ町村會ハ則チ町村法人ノ機關ニシテ其議定權ノ範圍ハ亦タ町村法人ノ  
 自存目的ノ範圍ニ出ツルコトヲ得サルヤ勿論タリ是レ本件判決ノ由テ生  
 スル所由タリ

說明

(參照) 町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算表其他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視  
 スル事(町村制第六十八條第二項ノ三)

町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル(町村制第七十一條)

市町村ハ違クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ府縣知事ヲ經テ其責任免除ヲ大藏大臣  
 ニ訴願スルコトヲ得(國稅徵收法第五條)

新瀉縣後國北蒲原郡  
 水原町會議長  
 原告 安孫子 石太郎

新瀉縣知事  
 被告 勝間田 稔

町會議決權ノ範圍



新潟縣 訴訟代理人 吉川一太郎

右原告水原町會議長安孫子石太郎ヨリ被告新潟縣知事勝間田稔ニ對スル不當裁決取消ノ訴  
原告ノ訴狀ニ就キ被告ノ陳述ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ明治三十二年一月二十七日水原町會ニ於テ町費及雜部金ヲ新發田貯蓄  
銀行ニ當座預ケテ爲スノ件並ニ國稅及縣稅ノ徵收金ヲ納付期日迄新發田貯蓄銀行ニ保護  
預ケテ爲スノ件ヲ議決セリ其理由ハ第一町費ハ町制ニ之カ保管ニ關スル規定ナキヲ以  
テ町會ハ町制第三十二條ニ依テ當座預ケノ議決ヲ爲セルモノナリ然ルニ縣知事ニ於テ  
町費ハ銀行ヘ預ケ入レテ爲スヘキ性質ノモノニアラスト裁決シタルハ何等ノ法條ニ據リ  
タルモノナルヤ其理由ヲ見出ス能ハヌ又町村費ハ町村有財產タルヤ疑ヲ要セス而シテ町  
村制第三十三條町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目中ニ町村有財產ノ管理方法ヲ定ムルコト  
アリ之ニ依ルモ當座預ケノ議決ヲ爲スハ町會ノ權限ニシテ毫モ違法ニアラス第二國稅及  
縣稅ハ町村ニ於テ金庫ニ納付スルノ義務ヲ有シ或場合ニ依レハ辨償ノ責任アリ故ニ之カ  
保護法ヲ設ケタルニ縣知事ハ保護預ケヲ爲シ得ヘキ時日アルニ於テハ直ニ金庫ニ送付シ  
テ可ナリト裁決セリ然レトモ金庫ト隔絶シタル町村ニ於テハ日々ノ徵收金ヲ日々ニ納付  
スルハ事實爲シ能ハサルモノナレハ一夜タリトモ不測ノ災害ヲ豫防スルハ町村ノ責任ナ  
リ故ニ保護預ケノ議決ヲ爲シタルハ毫モ違法ニアラス第三雜部金ハ町費ト其性質ヲ異ニ

シテ或場合マテ支出ヲ要セサルモノナレハ之ヲ銀行ヘ預ケ置クハ保管上最モ適法タルニ  
縣知事カ第三ノ主旨ハ第一ニ說明シタルト同一理由ナルヲ以テ茲ニ說明セスト裁決シタ  
ルハ不當ナリ以上ノ理由ナルニ依リ縣知事ノ裁決取消ヲ要求スト云フニ在リ  
被告答辨ノ要旨ハ町村ノ收入ハ町制第七十一條ニ依リ收入役ニ於テ之ヲ受領シ及支出  
ノ責務ヲ有ス從テ其間ニ於ケル保管ハ全然收入役ノ責任ニ屬セリ然ルニ町會ニ於テ之カ  
保管法ヲ議決シ他ニ預入ヲ爲スモノトナシタルハ越權ト云ハサル可カラス又國稅及縣稅  
ハ之ヲ金庫ニ送付スル迄ハ收入役ニ於テ全然之レカ保管ノ責務ヲ有シ町會ノ議決權内ニ  
屬スヘキモノニアラス其他雜部金ニ關シ主張スル所アルモ以上同一理由ニ依リ特ニ說  
明スルノ必要ヲ認メス依テ原告ノ請求ヲ棄却セラレタシト云フニ在リ  
依テ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

本件所争ノ要點ハ町會ニ於テ町費及ビ雜部金並ニ國稅及縣稅ノ徵收金ヲ銀行ニ預托スルノ  
件ヲ議決シタルハ違法ナルヤ否ヤニアリ原告ハ町制中町費ノ保管ニ關スル規定ナキヲ以  
テ町制第三十二條ニ依リ當座預ケノ議決ヲ爲スハ違法ニアラスト云フト雖抑町費ハ町村  
制第六十八條第二項ノ三ニ依リ町村長之カ管理ノ責任シ同第七十一條ニ依リ收入役之カ  
出納ノ責任スヘキモノナレハ町制中町費ノ保管ニ關スル規定ナシト言フヲ得ス左レハ  
町會カ町費ヲ銀行ニ預托スルノ議決ヲ爲シタルハ法律ノ明定シタル保管出納ノ當務者アル  
ヲ願ミス任意ニ其職務ヲ他ニ移スモノナレハ違法ナリト謂ハサルヲ得ス而シテ町費ハ町村



有財產ニシテ其管理方法ハ町村制第三十三條ニ依リ町會ノ議決スヘキ事件ナルハ原告主張ノ如クナレトモ其管理方法ハ法律ノ範圍外ニ出テ議決スルコトヲ許シタルモノニアラス本件町費ヲ銀行ニ預托スルノ議決ハ法律ノ範圍外ニ出テ議決スルコトヲ許シタルモノニアラス本件町費ヲ銀行ニ預托スルノ議決ハ法律ノ範圍外ニ出テ町會ノ權限ヲ越ヘタルモノト言フヘシ原告ハ又國稅及縣稅ハ町會ニ於テ金庫ニ納付スルノ義務ヲ有シ或場合ニ依レハ辨償ノ責任アルニ依リ之カ保護預ケノ議決ヲ爲スハ違法ニアラスト云フト雖國稅及縣稅ハ國稅徵收法第五條及縣稅徵收法第一條ニ依リ之ヲ金庫ニ送付スルマテハ町官吏員ニ於テ保管ノ責任スヘキモノナレハ町會ハ特ニ法令ニ於テ許サ、ル以上ハ其保管方ヲ議決スヘキ權限ヲ有セス其他雜部金ニ關シ原告ノ主張スル所アレトモ雜部金ノ公金タルハ町費ニ異ナル所ナク之ニ對スル法律上ノ保管出納者モ町費ト同一ノモノタレハ之ヲ銀行ニ預ケ置クヘキ議決ハ上文説明スル理由ニ依リ違法タルヲ免

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ  
原告ノ請求相立タス  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●鑛業特許取消ノ訴

明治三十二年第四號  
明三十二年十二月十五日判決 (請求不相立)

判決要旨

- 一、鑛業採掘許可願ニ關シ刑事ノ制裁ヲ受ケタリトスルモ之レカ爲メ已ニ得タル鑛業權ニ影響ヲ及スコトナシ
- 二、採掘特許取消命令ハ被命令者ニ到達スルニアラサレハ其ノ効力ヲ生セス
- 三、採掘特許取消ノ命令ヲ發スルモ被命令者ニ到達セサル間ハ其ノ取消ノ効ヲ生セサルカ故ニ同一區域ニ於ケル他人ノ採掘出願ハ之レヲ許可スヘキモノニアラス

說明

一、凡ソ刑罰ノ制裁ハ法律ニ於テ其ノ範圍ヲ一定セルモノナルヲ以テ如何ナル刑罰ト雖モ此ノ以外ニ制裁アルコトナシ故ニ假令採掘許可出願ニ付キ刑罰ノ制裁ヲ受ケタリトスルモ之レガ爲メ已ニ得タル採掘權ヲ無効ニ歸セシムル如キハ則チ該制裁ニ包含スヘキモノニアラサルヲ以テ此ノ場合ニ於ケル刑事裁判ノ効力ハ已得ノ採掘權ノ消長ニ影響ヲ及スヘキモノニアラサルナリ矣

二、凡ソ行政處分ナルモノハ官府カ一定ノ人ニ對シテ一定ノ行爲ヲ施ス一種ノ命令ナルカ故ニ其ノ効力發生ノ時期ハ則チ法令ノ頒布ト其法理ヲ

町會議決權ノ範圍



同フセス抑モ法令ノ頒布ハ法令完成ノ終局ナルカ故ニ其頒布ト同時ニ  
効力ヲ發生シテ一般人民ハ之ヲ知ルト否トニ拘ラズ共ニ遵由ノ義  
務ヲ生ズルヲ以テ原則トナス故ニ此ノ點ヨリ論スルハ法令第一條ノ  
如キハ寧ロ其ノ例外ヲ規定シタルモノト云ハサルヲ得ス  
行政處分ハ則チ之ニ反シテ性質上一定ノ人ニ對シテ或ル特定ノ行為ヲ  
施スニアルヲ以テ行政處分ノ命令ハ之ヲ被命令者ニ到達スルニアラ  
サレハ其ノ効力ヲ生ズルコトナレバ被命令者ニ到達スルニアラ  
ス行政處分ノ行為ヲ告知スルノ形式ニシテ行政上ノ處分ハ此ノ告知ニ  
依リテ始メテ其ノ目的ヲ達スルヲ得レバ行政上ノ處分ハ即チ本件判決ノ由テ  
生ズル以所ナリ

三、探掘權取消ノ命令ハ則チ行政處分ノ一ニシテ而シテ行政處分ノ効力ハ其  
ノ命令カ被命令者ニ到達スルニアラサレハ其ノ効力ヲ生セサルコト前  
項説明ノ如クナルヲ以テ本件ニ關シ探掘權取消命令ノ到達ニ先チ同一  
區域ニ對スル他人ノ探掘特許ノ出願ハ即チ探掘權ノ存在スル鑛區ニ向  
テ爲ス重複ノ出願ニシテ無効ノモノタルヤ勿論ナリトス

原告 東京市麹町區飯田町五丁目  
三十三番地西村律方士族  
雜業 篠原忠敬

訴訟代理人 秀島虎二郎

被告 農商務大臣 福荒助

訴訟代理人 農商務部 準次

參加人 秋田縣羽後國山本郡扇田町  
三十三番地 尾山友助

訴訟代理人 高橋 捨六  
大崎 雪

右原告篠原忠敬ヨリ被告農商務大臣曾根荒助ニ對スル鑛業特許取消ノ訴訟雙方及參加人ノ  
辯論ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ秋田縣羽後國山本郡八森村大字椿字中濱外二字ニ於テ尾山友助ナル者  
明治二十九年二月二十六日付ヲ以テ銀鑛探掘特許出願ヲ爲シ明治三十一年十月十日付第  
五二二八號七萬拾六坪ノ探掘ノ特許ヲ得タリ原告人ハ前記同字外三字ニ於テ明治二十九  
年二月二十二日ヲ以テ銀鑛試掘貳拾五萬五千六百拾六坪ノ認可願ヲ秋田鑛山監督署ニ差  
出シタリ然ルニ盛岡鑛山監督者ハ明治三十一年十一月二日付ヲ以テ同年十月十四日付達  
尾山友助鑛區トアルハ元第五四八號乳井久右衛門外一名ノ借區許可地ト訂正候即チ本願  
出願ノ當時ハ未タ同借區存在シタル者ナレハ同許可地ニ重複ノ部分ハ出願無効ノモノニ  
付前達ニ基キ區域訂正可致旨ノ通達ヲナシタリ是ヨリ先キ原告ハ同年十月二十一日付ヲ

行政處分命令ノ效力發生ノ時期



以テ前記尾山友助ニ與ヘタル第五二二八號探掘特許ハ錯誤ノ許可ナルヲ以テ鑛業特許取消ノ訴願ヲ被告農商務大臣ニ提出シタリシニ被告ハ同年十二月十二日付ヲ以テ訴願人ノ出願ハ特許ノ存續中ニ係ル者トスレハ一般ノ許可地ニ重複シタルモノト同シク當然成立スルヲ得サルモノニシテ其特許ノ取消サレタル後ニ出願シタル尾山友助ニ新タニ特許ヲ與ヘタルハ決シテ錯誤ノ處分ト云フヲ得ストノ理由ヲ以テ訴願人ノ申立相立タスト裁定シタレトモ原告ハ之ニ服スル能ハス其理由ハ被告ノ主張ハ探掘權ニ對スル取消ノ效力ハ探掘權者ニ其命令ヲ交付シタル日ニ於テ發生スルモノトス從テ探掘權者カ之ヲ受領セサル期間ハ其探掘權ハ存續中ニシテ其存續中ニ係ル第三者ノ出願ハ無効ノモノナリト云フニ在レトモ元乳井久右衛門等カ借區ハ詐偽ニ由テ得タル鑛業權ナルヲ以テ司法裁判ノ確定ト同時ニ既ニ無効ノモノトナリタリ然レトモ這ハ特許ノ鑛業條例第三十四條ニ依リ農商務大臣ノ取消ヲ要スルモノナルヲ以テ被告ニ於テ之カ手續ヲ爲シタルニ過キス一步ヲ讓リ論スルモ命令者農商務大臣ト被命令者乳井久右衛門トノ間ニ在テハ命令ノ效力ハ到達ノ日ヲ以テ發生スト謂フヲ得ヘキモ實體ノ效力ハ命令ノ當日ニ在リト謂フヘクシテ命令者ト一般人民トノ間ニ在テハ其命令自體ハ何ノ關係ヲ有セス且鑛業條例第七十五條第二項ハ專ラ納稅期日ヲ規定セルモノ、如シト雖亦自ラ探掘權發生ノ時期ヲモ定メタルモノトス例セハ十二月二十八日付ヲ以テ探掘ヲ特許シ願人ニ鑛業特許證ヲ交付スルハ翌一月一日又ハ二日トセンニ鑛區稅ハ鑛業人ニ於テ特許證即チ探掘權附與ノ命令ヲ交付セラ

タレル一月ヨリ月割ヲ以テ納付スヘキカ決シテ然ラス即鑛區稅ハ十二月十二日付探掘特許ノ月ヨリ其一月ニ相當スル鑛區稅ト翌年分トヲ各別ニ納付セサルヘカラス是レ鑛業人ハ一月一日又ハ二日ニ於テ鑛業特許證及指令書ヲ受領スルモ鑛業權ハ業ニ既ニ前年十二月二十八日ニ於テ獲得シアルニ依リ之ニ對スル納稅ノ義務ヲ有スレハナリ故ニ探掘權獲得ノ效力ハ鑛業特許證面記入セラレタル日時ニ於テ發生スルモノナリ尙ホ第八號訴訟事件原告力ハ取消命令書ニ記入セラレタル日時ニ於テ發生スルモノナリ尙ホ第八號訴訟事件原告ノ論旨ヲモ援用ス故ニ原告ノ出願ヲ以テ元乳井久右衛門外一名ノ借區存續中ニ爲シタルモノト云フハ不當ナルニ付明治三十年十二月盛岡鑛山監督署カ本件訴願ニ對シ與ヘタル裁決及明治三十一年十二月十二日被告カ本件特許取消ノ訴願ニ對シ與ヘタル裁定ヲ取消且明治三十一年十月十日被告農商務大臣カ尾山友助ニ對シ許可シタル第五二二八號秋田縣羽後國山本郡八森村大字椿字中濱外二字銀鑛七萬拾六坪ノ探掘特許ハ錯誤ニ出タルモノナレハ鑛業條例第三十四條ニ依リ取消ノ判決相成タシト云フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ原告ハ明治二十九年二月二十二日付ヲ以テ秋田縣羽後國山本郡八森村大字椿字中濱外二字ニ於テ銀鑛試掘認可願ヲ秋田鑛山監督署ニ差出シタルモ其出願地ハ乳井久右衛門外一名借第五四七八號借區許可地ト重複スルヲ以テ同署ヨリ其重複部分ノ訂正ヲ命セラレタルモノナリ而シテ尾山友助ハ明治二十九年二月二十六日付ヲ以テ前記字中濱外二字ニ於テ銀鑛探掘特許願ヲ差出シタリ其出願ハ右乳井久右衛門外一名ノ借區

行政處分命令ノ效力發生ノ時期



許可取消命令ノ同人等ニ到達シタル日ニシテ他ニ重複スル所ナキヲ以テ明治三十一年十月二十一日付ヲ以テ其願ヲ許可シタルモノナリ原告ハ處分命令ハ被處分者ニ對シテハ其到達シタル時ヨリ効力ヲ發生スルト云フヲ得ヘキモ第三者ニ對シテハ處分命令ヲ處分應ヨリ發送シタル日ヨリ効力ヲ生スト主張スルモ原告モ認ムル如ク處分命令ハ被處分者ニ告知スルニアラサレハ處分命令ノ効力ヲ生セサルモノナルヲ以テ取消命令カ被處分者ニ到達前其採掘權カ未タ消滅セシテ依然存續スル間ハ同一ノ區域ニ於テ他人出願ハ有效ニ成立スルヲ得サルナリ何トナレハ處分命令ニ直接ノ關係ヲ有スルモノハ其處分ヲ受クル鑛業人ニシテ第三者ハ其採掘權消滅ノ結果始メテ同一區域ニ於テ有效ナル鑛業上ノ出願ヲ爲シ得ルニ過キスシテ間接ニ其效果ヲ受クルニ止マレハナリ若シ原告主張ノ如クセハ鑛業人ハ猶採掘權ヲ有スルニ第三者ニ對シテハ採掘權ヲ主張スルヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス不合理ノ結果ヲ來タヌニ至ルヘシ又原告ハ鑛業條例第七十五條第二項採掘權發生ノ時期ヲモ定メタルモノナリト云フモ該條ハ税金納付期限即チ採掘權附從義務ノ發生時スル規定シタルモノニシテ採掘權ノ發生シタル後ノ事項ニ係リ採掘權自體ノ發生時期ヲ定メタルモノニアラス然レトモ其第二項後段ニ採掘出願特許ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシトアル規定ヨリ考フルトキハ却テ交付ノ日ヨリ起算スヘキモノト解釋スヘキハ當然ニシテ若シ發送ノ日ヨリトスルトキハ出願人ハ特許證ノ交付ヲ受ケスシテ未タ出願許可セラレタルニト知ラサル間ニ既ニ納税ノ期限ヲ失シ第七十六條ノ規定ニヨ

其特許ハ取消サル、コトアルニ至ルヘシ以是該條ハ原告ノ主張ニ反シテ交付ノ日ヨリト解釋スルヲ至當ナリトス以上ノ理由ナルニヨリ原告ノ出願ハ未タ乳井久右衛門外壹名ノ採掘權消滅セサル以前ニシテ其區域同人等ノ許可地ニ重複シタルモノナレハ其出願ハ有效ニ成立セス重複部分除却ノ訂正ヲ命シタルハ當然ニシテ其採掘權消滅シテ他人ノ許可地ニアラサルニ至リ出願セル尾山友助ニ特許ヲ與ヘタルハ決シテ錯誤ノ處分ニアラザルヲ以テ原告ノ請求ハ相立タズト判決ヲ乞フト云フニ在リ

被告從參加人陳述ノ要旨ハ本件ノ鑛區ハ曾テ訴外人乳井久右衛門外壹名ノ借區ナリシカ該許可ハ鑛業條例第三十四條ニ依取消サレ其取消命令ノ日附ハ明治二十九年二月二十二日ニシテ盛岡鑛山監督署長之ヲ傳達シ乳井久右衛門外壹名カ取消命令書ヲ受取リタルハ明治二十九年二月二十六日ナリ從參加人ハ同日ヲ以テ銀鑛十萬六百八十九坪ノ採掘特許ヲ出願シ終ニ明治三十一年十月十日付特許第五二二八號銀鑛採掘特許證ヲ交付セラレタリ而シテ本件ノ爭點ハ特許取消ノ効力發生時期ヲ確ムルヲ主要トス原告ハ取消命令書ヲ農商務省ヨリ發送シタル時ニ於テ効力ヲ生シタル如ク論スレトモ參加人ハ不當ナリト信ス明治二十九年二月二十二日農商務省ヨリ命令ヲ發シタルハ秋田鑛山監督署ニ發送シタルモノニシテ乳井ニ達セラレサルヲハ明ニシテ未タ官衙内ニアル時ナリ命令書到達セザレハ官ノ手ハ離レサルナリ乳井ノ承知セサルトキナリ又原告ハ刑事ノ裁判ヲ受ケタル場合ニ於テハ自然採掘權ハ消滅ニ歸スト云フモ左スレハ鑛業條例ノ規定ハ必用ナラス同條例



ニ於テハ詐欺錯誤ハ刑事上ト民事上トヲ區別セス原因ノ如何ニ拘ラス一度與ヘタル權利ハ取消命令ヲ受取ルニアラサレハ鑛業人ハ其鑛業ヲ廢止セサルモノタルハ論ヲ談タス是レ既得權ノ存續スルニ由レハナリ依テ原告ノ請求相立タスト判決アリタシト云フニ在リ依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ元乳井久右衛門等カ借區ハ詐偽ニ由テ得タル鑛業權ナルヲ以司法裁判ノ確定ト同時ニ既ニ無効ナリ農商務大臣ノ取消ヲ要スルハ之カ手續ヲ爲シタルニ過キス一步ヲ讓リ論スルモ命令者ト被命令者トノ間ニ在テハ命令ノ效力ハ到達ノ日ヲ以テ發生スト云フヲ得ヘキモ實體ノ效力ハ命令ノ當日ニ在リト云フヘクシテ命令者ト一般人民トノ間ニ在テハ其命令自體ハ何モ關係セス且第八號訴訟事件ノ原告ノ論旨ヲ援用スル旨主張スト雖刑事裁判所ハ乳井久右衛門ノ行爲ニ對シ犯罪アリトシ刑ヲ科シタルニ止ルモノナレハ久右衛門等カ特許セラレシ探掘權ニ對シテハ直チニ裁判ノ效力ヲ及ハスモノニアラス又行政上ノ處分ニシテ本件ノ如キハ當初一定ノ人ニ對シテ探掘ヲ許可シタルモノニ其取消シモ亦同人ニ對スルモノナレハ取消命令ノ到達スルニ由テ處分ノ終了ヲ告ルモノナリ故ニ既ニ探掘特許ヲ得タル者アル場合ハ其取消處分ノ終了前他人ヨリ同一ノ場所ニ於テ同一ノ鑛物ヲ探掘セシトトテ出願スルモ無効ノ出願ナリ隨テ處分終了後即チ前鑛業者ノ關係消滅シタル後ノ出願ニ對シ前後ヲ比較スルコトヲ得サルモノトス依テ明治三十年十二月盛岡鑛山監督署ノ裁決及明治三十一年十二月十二日被告カ爲シタル裁定并ニ明治三十一年十月十日被告カ尾山

●縣稅賦課更正ニ對スル裁決不服ノ訴

明治三十二年第二十一號 明治三十一年十二月十五日判決 (請求不相立)

判決要旨

- 一、府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得
- 二、市町村會カ府縣稅賦課ノ細目ヲ議決スル方法ニ關シテハ市町村制中何等ノ制限ヲ設クルコトナシ
- 三、町村會カ納稅者ノ貧富ニ應シ等差ヲ設ケテ府縣稅ヲ賦課スルノ議決ヲ爲シタルハ違法ニアラス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

町村ニ於テ徵收スル府縣稅

友助ニ對シ第五二二八號ヲ以テ與ヘタル特許ニシテ本件係争ノ點ハ錯誤ニ出タルモノト認ムヘキモノナキヲ以テ共ニ取消スヘキモノニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス



(參照) 府縣會ハ各市町村ニ於テ徵收スル府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得  
(舊府縣制第六十一條)

原 告 長野縣南安曇郡東穂高村  
七十七番地平民農  
白居文一郎  
外六名  
訴訟代理人 降旗熊次郎  
長野縣南安曇郡參事會  
南安曇郡長  
被 告 芥川忠藏

右原告白居文一郎外六名ヨリ被告南安曇郡長芥川忠藏ニ對スル縣稅賦課更正ニ對スル裁決不服ノ訴訟雙方辯論ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治三十一年五月三日付ヲ以テ長野縣南安曇郡東穂高村長職務管掌南安曇郡書記三原清造カ發シタル同年度縣稅前半期徵稅傳令書ノ戶數割ハ錯誤ナルニ付更正ヲ申立シモ更正セサルニ付其順序ヲ經テ長野縣參事會へ訴願セシニ同會ハ明治三十二年一月九日東穂高村會カ議決シタル等級割ハ適法ニシテ更正スヘキモノニアラスト裁決シタレトモ之ニ服スル能ハス其理由ハ長野縣告示第四十九ヲ以テ同年度縣稅戶數割東穂高村負擔額ヲ壹戶金七拾圓ト定メタリ而シテ村會カ其賦課額ヲ議定スルニ當ツテハ明確不動ノ稅源ヲ認メ(平均戶數割家屋建坪割ノ類)議定スヘキモノナルニ事茲ニ出テスシテ精算シ得ヘカラサル各自ノ財產ニ豫想上ヨリ等級ヲ附シ幕府時代ノ御用金の賦課ヲ爲シタルハ錯誤ト云ハンヨリ寧ロ不法ト云ハサルヘカラス之ヲシテ適法ナリトセハ國家焉ノ

財源ニ苦ムアラシキ加之村會ニ縣參事會カ云フカ如ク廣大ナル權力ヲ與ヘタリトセンカ町村會多數ノ議員ノ反對者ニ對シテハ偏重偏輕ヲ生セシメサルヲ保セス加フルニ明治三十年長野縣令第七號縣稅賦課徵收法第二十四條ノ規定ニ違背シタルコト明カナリ元來戶數割ハ各戶均一ナルコト當然ナレトモ町村會カ其課額ヲ定ムルコト及ヒ其賦課ニ等差ヲ付スルコトハ原告モ爭ハス然レトモ其等差ヲ設クルニ大體ノ標準ハ建坪敷地ニ取ラサルヘカラサルニ標準ヲ貧富ノ程度ニ取ルハ實ニ危險ニシテ服スル能ハス若シモ富貧ノ程度ヲ標準トセハ地租割ト毫モ別ナク富者ハ三重ノ稅ヲ徵收セラル、ニ到ル故ニ被告ハ法律ノ解釋ヲ誤ルモノト確信スルヲ以テ長野縣參事會ノ裁決ヲ取消縣稅賦課更正相成ル様裁判ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ事實ハ原告ノ申立ヲ認ム然シテ原告ハ戶數割ノ賦課標準ハ法律ニ背キタルモノト云フモ長野縣令ヲ以テ徵收ノ方法ヲ定メラレ其第二十五條戶數割ハ市町村會ニ於テ四月三十日以前各戶ノ賦課額ヲ議定スヘシト爲シ府縣令ニ於テ戶數割稅額ヲ決定シ之カ徵收ヲ市町村ニ委テタルモノナレハ各戶ノ賦課額ヲ議定スルニ方リ各納稅人ノ貧富ヲ衡リ之カ等差ヲ付シタルハ所謂縣令カ其權限ヲ町村會ニ委テ町村會ハ其範圍内ニ於テ議決シタルモノナレハ敢テ錯誤ト云フヘキモノニアラズ原告ハ其負擔額ノ標準ヲ錯誤セリト云フモ原告ノ云フ如キ建坪敷地等ニ依ルヘシトハ規定セス又貧富ノ程度ヲ標準トセハ地價割ノ課稅ト二重ニナルト云フモ一畝ノ地ナクシテ財產ヲ有スルモノアリ然ラハ

町村ニ於テ徵收スル府縣稅



建坪敷地ノ外他ノ標準ニ依リ徵收セサルヘカラス故ニ貧富ヲ標準トシテ賦課シタルハ法律ニ背キタルニアラサルヲ以テ明治三十一年四月二十日長野縣南安曇郡東穂高村會ニ於テ明治三十一年度縣稅戶數等級割ノ議決ヲナシタルハ正當ニシテ錯誤ニアラズト裁判アリタシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
原告ニ於テ村會カ縣稅戶數割ノ賦課額ヲ議定スルハ平均戶數割家屋建坪割ノ類ニテ明確不動ノ財源ヲ認メサルヘカラス各自ノ財産ニ就キ豫想上ヨリ標準ヲ貧富ノ程度ニ取ルハ錯誤ト云ハンヨリ寧ロ不法ナリト云フト雖府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得ヘキハ明治二十三年法律第三十五號府縣制第六十一條ノ示ス所ニシテ市町村會ニ於テ之ヲ議決スヘキ方法ニ關シテハ同制中何等ノ規定ナシ又長野縣令第七號第二十四條ノ規定アリ故ニ每戶ノ賦課額ヲ議定スルニ方リ町村會カ納稅者ノ貧富ニ應ジ等差ヲ設ケタルモ該等差ハ違法ノモノナリト謂フヲ得ス隨テ該等差ニ據リ賦課シタル戶數割モ亦不法ノ課稅ナリト謂フヲ得ス  
右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ  
原告ノ請求相立ダス  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

堰球取拂命令取消事件

明治三十二年第七十四號  
明治三十二年十二月十一日判決 (請求不相立)

判決要旨

- 一、水車新設ノ許可ニハ堰球設置ノ許可ヲ包含セス
- 二、水車ヲ運轉スル爲メ官有地ニ堰球ヲ設置スルニハ當該官廳ノ許可ヲ受ケサル可ラス

說明

一、水車ノ新設ハ多クノ場合ニ於テ堰球ノ設置之ニ伴ハサルハナシト雖モ河水ノ風景ニ因テハ亦タ往々ニシテ堰球ノ之ニ添ハサルモノアリ故ニ堰球ノ設置ハ必スシモ水車設置ノ要件ニアラス隨テ亦タ堰球ノ設置ハ當然水車設置ノ許可中ニ包含スヘキモノニアラサルナリ故ニ水車新設者ニ於テ更ラニ官有ノ河川ニ於テ堰球ノ設置ヲ爲サントセハ必スヤ之ニ對スル官有地使用ノ許可ヲ受ケサル可ラサルヤ當然ナリトス

原告 宮崎縣北諸郡郡城町大字宮丸  
四百十番戸ノ二平民水車營業  
瀬戸山 善之助  
訴訟代理人 宮本 五 朔

被告 宮崎縣知事  
園山 勇

水車新設ニ伴フ堰球ノ設置



宮崎縣屬

門川祐基  
訴訟代理人  
荒川邦藏  
原 義勇

七十四

右原告瀨戸山善之助ヨリ被告宮崎縣知事園山勇ニ對スル堰堤取拂命令取消ノ訴訟雙方ノ辯論ヲ聞キ審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治廿四年八月十四日布達宮崎縣令第五十一號河川港灣取締規則ニ遵由シ被告縣廳ニ對シ明治廿五年十一月十九日北諸縣郡都城町大字宮丸字前田千三百五十七番地ノ場所ニ於テ本溝筋ノ側ニ分流ヲ設ケ以テ水車ヲ新築セシコトヲ願出同年十一月二十八日其許可ヲ得テ水車營業罷在タル處從來該上流ニ於テ同營業ヲ爲シ居レル鎌田五郎ナル者原告カ取設タル分流小堤ハ官許ヲ得ス且自己水車場ノ水流ヲ遲緩ナラシムルトノ口實ヲ設ケ原告ニ對スル堰堤取除ノ件ヲ宮崎區裁判所ニ出訴シ尙ホ控訴上告ノ末當原告カ水車新築ノ爲メ分流堰堤ヲ設ケタルハ河川港灣取締規則ニ依リ水車新築ノ許可ヲ得タル當然ノ結果ニシテ自儘ニ建設シタルモノニアラストノ判決確定シ爾來原告ハ本年首メニ至ルマテ平穩無事ニ營業ヲ持續シ來リシニ被告縣廳ハ何ノ據ル所アリテカス司法裁判ヲ無視シ且六七年以前ニ原告ニ附與シタル水車新築ノ免許アルヲモ願ミス本年三月十八日ニ至リ突然原告ニ對シ該堰堤ハ本廳ノ許可ヲ得ス漫リニ設置シタルモノニ付明治三十二年三月二十一日マテニ取拂フヘシ嚴命シト原告ノ數次陳辯スル所アルニモ拘ラス本

八十四

八十五

年五月八日警察官ヲシテ無法ニモ該堰堤ヲ破壞セシメ原告ヲシテ復タ水車營業ヲ爲ス能ハサルニ至ラシメタルハ河川港灣取締規則ニ依リ論争地先ニ於テ完全ナル水車營業ノ許可ヲ得行使シ來リタル其權利及水利ニ關シ原告ノ權利ヲ毀損シタル違法ノ處分ナリ被告ハ用水路ニ堰堤ヲ設クルニハ明治十九年甲第八號土功修築規則ニ據リ出願許可ヲ受クヘキモノ、如ク論ストモ該規則ハ公共事業ノミヲ指スモノニシテ一私人ニ關スルコトハ河川港灣取締規則ニ依ルヘキモノナルハ其列記事項ヲ見テモ明カニシテ是亦類推ノ解釋上堰堤ハ當然水車ニ附屬スヘキモノナルコトヲ斷シ得ヘシ故ニ被告カ一旦之ヲ許可セシハ即チ之ヲ認知承諾シタルモノト云フヘキヲ以テ明治三十二年三月十八日ヲ以テ被告カ原告ニ對シ爲シタル宮崎縣北諸縣郡都城町大字宮丸前田用水路ニ施設セル堰堤取拂ノ命令取消ノ判決相成タシト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ノ申立ノ事實ハ大差ナキモ被告ハ明治二十六年十月二十三日北諸縣郡長ヲ經テ原告設置ノ取拂ハ許可ヲ受ケタルモノニアラス原告カ自儘ニ設ケタルモノナレハ取拂ハシムヘシト傳達セシメ尙ホ取拂ハサルヲ以テ三十一年三月七日更ニ同様ノ順序ニ據リ之ヲ取拂ハシメント爲シツ、アリシナリ故ニ本年首メニ至ルマテ平穩無事ニ持續シタリト云フヘカラス又被告ハ原告ノ水車新築ノ許可ヲ無視シタルコトナク水車ニ對シテハ何等處分ヲ爲サス獨リ無許可ノ堰堤取除ヲ命シタルニ原告ハ漫然之ヲ取拂ハサルノミナラス同年六月抗辯書ナルモノヲ提出シ到底被告ノ違ニ應セサルニ付被告ハ行政

水車新設ニ伴フ堰堤ノ設置

七十五



取締上ノ必要ニ迫リ明治三十二年三月十八日付ヲ以テ同月三十一日ヲ期シ之ヲ取拂フヘク命シタリ然レトモ原告ハ其期日ヲ經過スルモ尙取拂ハサルニ付被告ハ已ムヲ得ス同年五月八日其命令ヲ直接ニ實行シタルモノナリ然ルニ原告ハ明治二十八年十月後鎌田五郎トノ争訟ニ屬スル司法裁判所ノ判決ニ依リテ堰堤ノ持續ヲ適法ノモノト信セシモノナルヘキモ其判決タルヤ土功修築規則及河川港灣取締規則ノ解釋ヲ誤レルモノナリ何トナレハ其理由ノ第一ニ土功修築規則ハ公共ノ工事ニ適用スヘキナリ本件ノ如キ一私人ノ營業ニ關スル水車營業ノ如キハ該規則ニ依ルヘキモノニアラスシテ河川港灣取締規則ニ依ヘキモノトストアレモ土功修築規則ハ一般ノ土功ニ關スル事項ヲ規定シタルモノニ其第四條ニ第一新規ノ起工並ニ舊形變更第二河川ニ關スルモノ云々トアリ又其理由ノ第二河川港灣取締規則ニ依レハ其水車ノ堰堤設置ニ付テハ別ニ許可ヲ受クヘシトノ規定ナクハ其水車設立ノ許可中ニハ堰堤設置ノ許可ヲ包含スルモノナリ云々トアレトモ堰堤ハ必シモ水車ニ附隨スルモノニアラス假リニ附隨スルモノトスルモ理事者ニ於テ取締上ノ必要ニ依リ別ニ其堰堤ニ對シテハ許可ノ出願ヲ要スヘキ旨ヲ規定シタル場合ハ其手續ヲ履行セサルヘカラス原告カ申立ノ理由ヲ基礎トシテ提證フル司法裁判ノ正當ナラサルハ明瞭ナリ要スルニ土功修築規則ハ公私ノ別ナク一般ノ土功ニ關スル規定ニシテ主法ナリ河川港灣取締規則ハ支法ニ屬スルモノナレハ該取締規則中事ノ土功ニ係ルモノニシテ其規定ナキモノハ一般ノ土功規則ニ據ルヘキハ辯明ヲ要セス假リニ一歩ヲ讓リ土功修築規則

ヲ適用スヘキモノニアラストスルモ原告ノ堰堤ハ官有地第三種ノ上ニ猥リニ設置シタルモノナレハ取締上之カ取拂ヲ命セシハ行政上ノ職權ニシテ決シテ違法ニアラス依テ明治三十二年三月十八日達第二二二號堰堤取拂ノ命令ハ毫モ取消スヘキ理由ナキモノト確信スルヲ以テ原告ノ請求ハ排斥アリタシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ明治二十四年宮崎縣令第五十一號河川港灣取締規則ニ依リ水車新築ヲ出願シ被告モ亦之ヲ許可シタルニ由リ營業ヲ爲シ來リタルモノナリ而シテ水車ニ要スル堰堤新設ハ當然之ニ附屬スヘキモノナレハ該許可ニ包含セラレタルモノナルニ被告カ明治三十二年三月十八日北諸縣郡都城町大字宮九字前田用水路へ施設セル堰堤ハ本廳ノ許可ヲ得ス漫リニ設置シタルモノニ付取拂フヘシト爲シタル命令及警察官チシテ之ヲ取拂ハシメタルハ水車營業ノ許可ヲ得テ行使シ來リタル其權利及水利ニ關シ原告ノ權利ヲ毀損シタル違法ノ處分ナリト云フト雖モ凡ソ水車ヲ設置セントスルニハ必スシモ堰堤ヲ設ケサルベカラストノ理由ナクテハ水車設置ニハ堰堤ハ當然之レニ從伴スヘキモノナリト云フヲ得ス左スレハ水車新築ノ許可ヲ得レハトテ之ニ堰堤設置ノ許可ヲ包含スルモノト認ムル能ハス故ニ原告ニ於テ水車運轉上必要ト認メ本件ノ如キ官有地ニ特ニ堰堤ヲ設置スル場合ニハ更ニ之カ許可ヲ受ケサルヘカラス而シテ甲第一號證ハ水車新築ニシテ堰堤設置ノ願意アル文詞ナキヲ以テ被告ノ與ヘタル許可ハ單ニ水車新築ニ對スルモノナルニ付キ原告カ本件堰堤ヲ設ケタル



ハ、全ク許可ヲ得スシテ爲タル工事ニ係ルモノト云ハサルヘカラス故ニ被告カ無許可ノ工事トシテ本件争訟ノ環境ヲ取拂ハシメタルハ原告ノ權利ヲ毀損シタル違法ノ處分ナリト謂フヘキモノコアラズ其他雙方辨論スル所アルモ判決ニ必要ナキヲ以テ説明ヲ付セス  
右、理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ  
原告ノ請求相立タズ  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

● 不當裁決取消事件

明治三十二年第四百一十一號  
明治三十二年十二月四日判決 (請求不相立)

判決要旨

已ムヲ得サル事由存セサルニ不拘一旦公告シタル選舉期日ヲ反更シタルハ違法ナリ隨テ是ニ依テナシタル選舉ハ無効タリ

說明

撰舉ニ關シ一旦期日ヲ告示シタル以上ハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外ハ濫リニ之ヲ反更スルハ法律ノ精神ニアラス故ニ村役場事務繁忙若クハ役場狹隘ニシテ多數選舉人ヲ容ル、ニ足ラヌト云フカ如キハ選舉期日ノ反更ニ關シ固ヨリ已ムヲ得サル理由ニアラサルヲ以テ如斯キ理由ニ基キナ

シタル選舉期日ノ反更ハ則チ違法ノ反更ニシテ隨テ其ノ反更期日ニ行ハレタル選舉ノ無効ナルコト勿論ナリトス

(參照) 選舉ヲ執行スルトキハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ職員ノ數ヲ各級ニ分チ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ(町村制第十九條)

大分縣宇佐郡兩川村二百七十三番地平民殿  
原告 安部美太郎 外一名  
被告 大分縣選舉會大分縣知事 鈴木定直

右原告安部美太郎外二名ヨリ被告大分縣知事鈴木定直ニ對スル不法裁決取消ノ訴ヲ審査スルニ

原告陳述ノ要旨ハ縣選舉會ノ裁決ハ本件選舉會カ本年二月十四日ヲ以テ選舉原簿ヲ製シ四月二十三日ヲ以テ選舉執行ノ旨公告ヲ爲シタル後更ニ其期日ヲ四月二十四日ニ變更シ而シテ其四月二十三日ヲ期トシ製シタル選舉原簿ヲ以テ選舉ヲ執行セシハ町村制第十八條ノ規定ニ違背スル不法ノ選舉ナリト云フニアレトモ同制第十八條ニハ町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限選舉原簿ヲ製シ云ヤトアリテ其主旨ハ選舉執行毎ニ新名簿ヲ造リ再ヒ之ヲ選舉ニ使用セシメサルニ在ルモノナリ而シテ本件ノ事實ハ選舉ノ期日即二十三日ヲ二十四日ニ變更シタル迄ニシテ選舉ヲ新ニシタルニアラサレハ一旦使用セシ名簿ヲ再ヒ使用セシニアラス故ニ本條ノ規定ニ違背セヌ蓋シ如斯場合ニハ一選舉ト見做



スヘキモノニシテ素ヨリ名簿ヲ新ニスルノ要ナク其當初ノ名簿ヲ用ヒ差支ナキモノナリ  
右ノ理由ナレハ縣參事會ノ裁決ヲ取消シ本件選舉ヲ有效ナリト判決セラレタシト云フニ  
在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ町村制第十八條ニ町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ選舉原簿ヲ製シ云  
ヤトアルハ選舉毎ニ新名簿ヲ製シ其一旦用ヒタル名簿ヲ再ヒ使用セシメサルノ趣旨ナリ  
而シテ本件ノ事實選舉期日ヲ變更セシニ止リ選舉ヲ新ニシタルニアラサレハ名簿ヲ再ヒ  
使用セシモノニアラス故ニ本條ニ違背セスト云フト雖同制第十八條ハ選舉期日即選舉人  
ニ於テ現ニ其選舉ヲ行フヘキ當日迄ニ同制第七條ノ要件ヲ具フヘキモノヲ查定シ選舉期  
日前六十日ヲ限リ原簿ヲ調製ヘキモノナルヲ以テ其期日ヲ變更スル場合ニハ選舉人資格  
ニ影響ヲ及ホスノミナラス選舉前十日ヲ限リ確定名簿ト爲ス時期ニモ關係ヲ及ホシ結局  
確定ノ期日ヲ知ルニ由ナキニ至ルヘシ是ニ由テ之ヲ觀レハ更ニ原簿及ヒ名簿ヲ製スヘキ  
ハ當然ニシテ原告主張ハ理由ナキモノナリ依テ本訴ハ排斥アラント云フト云フニ在  
リ

依テ本件裁判ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

本件原被告爭フ所ハ村長カ其一旦定メタル選舉期日ヲ變更シタルトキハ更ニ選舉原簿ヲ調  
製セサル可カラサルヤ否ニ在リ然レトモ之ヲ決スルニ先タチ村長カ其期日ヲ變更セシハ適  
法ナリヤ否ヲ決セサルヘカラス何トナレハ此處置ニシテ違法ナル以上ハ他ハ論スルノ要ナ  
ク

●石炭試掘認可取消ノ訴

明治三十二年第四十八號 明治三十二年十二月六日判決 (請求不相互)

判決要旨

甲者カ乙者ノ鑛區ト一部重複セル場所ニ試掘ヲ出願シ未  
タ其ノ重複部分ニ該當スル減區ノ出願ヲナサ、ル前乙者  
ニ於テ廢鑛ノ届出ヲナシタルキハ甲者ハ其ノ減區ノ出願

ケレハナリ依テ之ヲ審按スルニ選舉ノ期日ニ關シテハ町村制第十九條ニ選舉ヲ執行スル  
キハ云々選舉前七日ヲ限リテ公告スヘシトアルノ外他ニ何等ノ規定アル所ナシ是ニ由テ之  
ヲ觀レハ法律ノ精神ハ其公告シタル期日ハ容易ニ變更セシメサルニ在ルヲ知ルヘシ然レハ  
之ヲ變更スルニハ止ムコトヲ得サルノ事由即如何ニシテモ選舉ヲ行フコト能ハサルノ事實  
ナクンハアラス然ルニ之レニ付キ村長ノ理由トスル所ヲ見ルニ事務ノ繁忙其ノ他村役場狹  
隘ニシテ多ノ選舉人ヲ容ル、ニ足ラスト云フニ過キスシテ未タ以テ期日ノ反更ヲ必要トス  
ル事由トナスニ足ラス本件選舉ハ己ニ此ノ點ニ於テ違法トス  
右ノ理由ナルニ依リ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相互タス  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス



チ省署シテ直チニ鑛區反更願ヲ提出シ其ノ廢鑛ニ該當スル部分ノ增區ヲ出願スルモ其ノ出願ハ有効ナリトス

明

廢業ノ鑛區ハ未出願ノ鑛區ト異ナル所ナキヲ以テ憐地ノ試掘權者カ已レノ鑛區ヲ廢業ノ鑛區ニマテノ延長セシカ爲メ增區ノ出願ヲ爲スハ則チ有効ノ出願タルヤ勿論ナトス

福岡縣福岡市船津町六番地  
平民無職業

原告 武藤勝平

訴訟代理人 松崎三十郎

被告 黑岩休太郎

福岡縣鑛山監督署長

訴訟代理人 神武品太郎

右原告武藤勝平ヨリ被告福岡鑛山監督署長黑岩休太郎ニ對スル石炭試掘認可取消ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ元來他人ノ許可地ニ向ヒ出願スルハ無効ナリト被告モ陳述スルトコロナリ然レハ吉原政道外三名カ出願ノ内ノ三鑛區其出願ノ當時無効ナルコトハ論ナシ而シテ其鑛区内ノ三萬三千余坪ノ分ニ付テハ後ニ區城變更願ヲ以テ減區シ其殘餘ノ分ニ付未

タ許可ナラサル内ニ他人ヨリ廢業届ヲ爲シタル故ニ増加シテ回復ノ上許可ヲ受ケタル故此三萬三千余坪ノ分ハ正當ノ手續ヲ爲シタルモノナルニ付異議ナキモ試第五八六九號認可書ニ合マル、二鑛區即チ一万四千余坪ト一万五千余坪ノ分ニ付テハ出願當時ハ同シク他人ノ認可地ナリシニ減區ノ手續ヲ爲シ居ラス故ニ此部分ニ付テハ出願ハ本來無効ナルニ廢業シタリト突然變更願ニテ增區ヲ爲シタリ其減域ト云ヒ增區ト云フモ畢竟理想上ノ事ニシテ減區セサル最初通りノ出願アルニ增區願ヲ被告カ解釋シテ出願スヘカラサル場所ヲ出願シ居ル故其レカ無効ニナリ居ルニ付キ夫レヲ充タス意ニテ增區シタルナラントノ臆測ヲ下ダシタリ同一ノ圖面カ提出セラレ居ル故何レヲ變更セシヤ分明ナラサルナルニ被告ハ想像的ニ處分ヲ爲シタルモノナリ理想上無効故後ニ增區スレハ可ナリト謂フハ條例ヲ無視シタルモノナリ全部重複ノ願書ニ出シタル場合ニ重複ナリトテ其儘ニシ置クコトヲ得ス必ス却下等ノ處分ヲ爲スヘキナリ又登録稅モ脱稅シ居ル故無効ナルニ其儘ニ爲シ居キテ有效ニ變セシムル事ヲ得サルナリ想フニ被告ハ試第五八七〇號ノ分ハ正當ニ減區ノ手續ヲ爲シ居ル故此試第五八六九號ノ分ニ付テハ手續ヲ省キタルモノト思考セラル故ニ裁決書ノ六三三〇號トハ矛盾シタル判定書ニ爲リ居ルナリ右ノ如ク被告ノ處分ハ違法ナルニ依リ被告カ明治三十年十一月十六日吉原政道外三名ニ與ヘタル試第五八六九號ノ試掘認可ヲ取消スヘシトノ裁判ヲ請フト云フニ在リ

廢區ニ對スル鑛區增加ノ出願



ノ方ハ手數ヲ省キタルナラント陳述スレトモ以是先例ニ依リ許可地カ廢業ニ爲リタル後ニ尙ホ減區ヲ爲サシメタル例ナシ廢業前ナレハ減區ヲ爲サシムル例アリ即チ試第五八七〇號ノ方ノ如キハ未タ廢業爲サ、ル前故減區シタルナリ全部重複ノ時ハ登録稅ニ消印セシメテ却下ス云々ト原告ハ申立テタレトモ趣意不分明ナリ又何レカ區域變更ノ部分カ分明ナラストノ事ヲ申立テタレトモ元來出願ス可カラサル地カ増加シテアリシニ今度廢業届カ出ツルト同時ニ修正區ト爲サシテ變更願ヲ出シタル故同時ニ出シタル廢業ノ地ニ當タルコト明カナリ出願シタル區域内ニ許可地アリテ其レカ廢業セシトキハ誰レニテモ其許可地即廢業地ニ對シ出願シ其先キニ出願セシ者カ先願者タリ故ニ原告カ第一ニ來タレハ認可スルモ吉原政道等カ其廢業地ニ對シテハ先願者ナリシ故認可書ヲ與ヘタルモノニシテ決シテ吉原政道等カ前ニ幾分カ出願シ居ル故ニ前ニ溯リテ認可シタルモノニ非ス依テ原告ノ請求相立タストノ裁判ヲ請フト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
 本件所争ノ要點ハ吉原政道外三名カ他人ノ鐵區ニ一部重複セル場所ニ試掘ヲ出願シ未タ其減區出願ノ手續ヲ爲サ、ル前ニ該鐵區ニ對スル廢業届出タルニ因リ吉原政道等ニ於テ區域變更願ナルモノヲ提出シ其廢業鐵區ニ該當スル増區ヲ爲シ更ニ出願シタル場合ニハ其區域變更願ハ有效ノ出願ナルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ吉原政道等ノ最初ノ出願ハ他人ノ鐵區ニ對シテハ無効ノ出願ナレハ一旦減區ノ手續ヲ爲スヘキニ其手續ヲ省略シテ直ニ區域變更願

ヲ以テ廢業鐵區ヲ増シタルモノナルニ被告カ之ニ對テ認可ヲ與ヘタルハ不當ナリト云フト雖本件出願ノ如キ他人ノ鐵區ト重複シタル場合ニハ出願人ハ必ス先ツ區域變更願ヲ提出シ減區ノ手續ヲ爲スヘシトノ法律上何等ノ規定ナキヲ以テ吉原政道等ニ於テ減區出願ノ手續ヲ省略シ他人ノ廢業届ト同時ニ最初ノ出願區域中重複ノ故ヲ以テ許可セラレサルヘキ鐵區即チ廢業鐵區ヲ増加シテ更ニ出願シタル區域變更願ハ法律上有效ノ出願ナリト認メサルヲ得ス而シテ右吉原政道等ノ區域變更願ハ廢業届出ト同日即チ明治二十九年八月十八日ニ提出シ原告ノ出願ハ同年十月二日并ニ四日ノ出願ニ係ルヲ以テ吉原等ノ出願ハ當然原告ノ出願ニ對シテ先願ノ效力アルモノト言ハサル可カラス其他原告ニ對シ減區出願ヲ爲サ、レハ登録稅ヲ脱稅シタルモノナリト云フト雖モ前述説明ノ如ク法律上減區ノ手續ヲ必要トセサル場合ニ於テハ吉原政道等ニ於テ脱稅ノ違法行爲アルモノト言フヘカラス以上ノ理由ニ依リ本件所争ノ試第五八六九號ノ試掘認可ハ取消スヘキモノニアラス

右ノ理由ナルニ依リ判決スルコト左ノ如シ  
 原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負担トス

●縣參事會裁決不服ノ訴 明治三十二年第八十二號 (請求不立)  
 明治三十二年十二月廿七日

判決要旨

一、町村制第十九條ノ規定ハ二級ノ選舉ヲ閉シタル後一級

同時ニナシタル二級選舉ノ効力



一 選舉ヲ行フヘシトノ法意ナリトス  
二 二級選舉ノ閉會ヲ告ケサル内ニ一級選舉ヲ開始シタル  
ハ一級ノ選舉共ニ無効ナリトス

說明

一 町村第十九條ハ必竟スルニ一人ニシテ數級ノ選ニ當ルヲ禁過スルノ趣旨ナルヲ以テ若シ二級選舉ノ終ラサルニ先チ更ニ一級選舉ヲ行フヲ得ヘシトモハ遂ニ此趣旨ヲ貫クコト能ハサルニ至ル是レ本件第一項ノ判決アル所以ナリ

(附言) 町村制第十九條ニ於テ二、兩級ノ選舉ヲ行フノ順序トシテ法律ハ何カ故ニ一級選舉ノ前ニ二級選舉ヲ行フヘシトナシヤ是他ナシ選舉人ノ地位ヨリ觀ルルハ二級選舉者ハ一級選舉者ニ比シテ常ニ多數ヲ占ムルニ反シ被選舉人ノ地位ヨリ觀ルルハ其ノ被選人ニ適スヘキ名望家ハ寧ロ一級ニ比シ比較的少シト云ハサルヲ得ス故ニ法律ハ先ツ其ノ撰舉資格者ノ最も多キ二級選舉者ヲ撰定スルニ十分ノ區域ヲ得セシメンカ爲メ一級ニ通シテ被選舉人撰定ノ範圍ヲ與フルノ必要アルヲ認ムレハナリ而シテ一級選舉ヲシテ二級選舉ノ後ニ行フハ即チ一級選舉者ヲ

シテ二級選舉ニ當選セサル候補者ヲ選舉スルヲ得セシメンカ爲メナリ  
二 二級選舉ノ閉會ヲ告ケサル内ニ一級選舉ヲ開始スルハ二個ノ選舉共ニ  
町村制第十九條ニ違背スルヲ以テ隨テ共ニ無効ノ選舉タルコトヲ免カ  
レサルモノトス

青森縣北津輕郡松島村大字金山  
七番月平民農

原告 齊藤 惣左衛門

青森縣參事會青森縣知事

被告 宗 像 政

右原告齊藤惣左衛門ヨリ被告青森縣參事會青森縣知事宗像政ニ對スル縣參事會裁決不服ノ  
訴訟雙方ノ申請ニ由リ書面ニ就キ審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治三十一年五月一日執行シタル北津輕郡松島村々會議員ノ半數改選  
及補欠選舉ノ二級選舉ハ午前八時ヨリ正午十二時迄一級選舉ハ午後三時ヨリ四時マテニ  
定メ町村制第十九條ノ手續ヲ以テ村長ヨリ公告シ二級ハ選舉公示定刻ヲ守リ午前八時ヨ  
リ正午十二時マテニ投票ヲ爲シ選舉掛長ハ直チニ有權者ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ開票  
朗讀ノ上廣瀬清美澁谷源次郎高西多三郎カ定期改選ノ當選者高橋兼吉ハ補欠選舉ノ當選  
者タルヲ公然明示シタルハ午後二時五十分ニシテ夫レヨリ選舉録ヲ作り公衆ノ面前ニテ  
之ヲ朗讀シ選舉掛ノ捺印ヲ終リタルハ午後三時二十五分ナリ而シテ一級選舉ハ午後三

同時ニナシタルニ二級選舉ノ効力



時ヨリ開始シ同四時投票ヲ閉鎖シ同六時二十分選舉簿印刷シテ其事務終了セリ而シテ  
 選舉掛ハ二級一級共通シテ選任セラル兩級ノ事務ヲ取扱ヒ唯中川勇助ハ二級選舉終了  
 後ハ辭スヘキ旨申立ツルヲ以テ更ニ岩崎四五右衛門ヲ臨時選任ノ一級選舉掛ト爲シタル  
 ナリ之ニ就キ縣參事會ハ午後三時ヨリ一級選舉ヲ行ヒ同三時二十五分ニ到リ二級選舉事  
 務ヲ終了シタルモノナルヲ以テ其一級選舉ハ二級當選者ノ未タ定マラサレニ行ヒタル不  
 法ノ選舉ナリト云ハサルヲ得スト說明シタルトモ議員ノ當選ハ選舉事務ノ遲延ニ關スル  
 モノニアラスシテ有權者ノ投票開札ノ結果ニ依リ定ルモノトス故ニ選舉掛長又ハ掛員ノ  
 故意又ハ怠慢ニ依リ其事務ノ終了ハ假令一級選舉時間ニ遷延セラレタリトスルモ其投票  
 開札ノ結果報告シタル効力ハ依然タルヲ以テ午後二時五十分投票ノ結果ヲ報告シタル時  
 既ニ當選者ハ定マリタルモノナレハ縣參事會ノ說明ハ頗ル不當ナリ又町村制第二十條ノ  
 選舉掛ハ第十九條ニ依リ各別ニ行フ所ノ選舉ニ從事スヘキモノナルニ本件選舉掛ハ當時  
 午後三時ヨリ三時二十五分マテノ間二級選舉中兼テ一級選舉ニ從事シタルモノナルヲ以  
 テ二級選舉モ亦違法撰擧ナリト說明シタルトモ町村制第十九條ハ一級二級ト各級ニ二分  
 チ撰擧スヘキヲ命ジメ法律ニシテ撰擧掛ハ各級別々ニ區分シ任命スヘシトノ法律ニフ  
 ラサレハ一級二級共ニ兼任シタルハ違法ニアラトナリ況ンヤ一級二級各別ニ區分シ撰  
 擧セシメ又各別ニ之ヲ取扱ヒタルニ於テオヤ以上ノ理由ナルヲ以テ縣參事會ノ裁決ヲ取  
 消アリタシト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本件ノ事實ハ原告陳述ノ通ナリ原告ハ議員當撰ハ撰擧事務ノ遲延ニ關  
 スルモノニアラスシテ有權者ノ投票開札ノ結果ニ依リテ定マルモノナリ假令選舉事務ハ  
 一級選舉ノ時間ニ結了シタルトスルモ其投票開札ノ結果ヲ報告シタルハ午後二時五十分  
 ニシテ一級選舉開始前既ニ二級選舉當選者定マリタルモノナレハ云々ト云フト雖モ一級  
 選舉簿ニ載スルニ二級ノ選舉會ヲ閉チタルハ午後三時二十五分ナルコト明白ニシテ原告  
 ノ午後二時五十分當選者ヲ定メ報告云々ト云フカ如キハ證據ナキ隨意ノ申立ニ過キス而  
 シテ町村制第十九條ニ依レハ二級選舉ヲ行ヒ次ニ一級選舉ヲ行ハサルヘカラスルニ松島  
 村ニ於テハ午後三時ヨリ一級選舉ヲ行ヒ同三時二十五分ニ至リ二級選舉ヲ閉チタルヲ以  
 テ不法ノ選舉ト謂ハサルヲ得ヌ又原告ハ町村制第十九條ハ一級二級ト各級ニ別チ選舉ス  
 ヘキ法律ニシテ選舉掛ハ各級別々ニ區分シ任命スヘシトノ法律ニアラナレハ一級二級共  
 ニ兼任シタルハ違法ニアラスト云フト雖モ一級選舉ハ午後三時ヨリ開始セルニ拘ラス午  
 後三時二十五分ニ至リ二級選舉會ヲ閉チタル事實ナルコトハ前述ノ如ク而シテ選舉掛ハ  
 每級各別ニ行フ所ノ選舉ニ從事スヘキモノナルコト町村制第二十條第十九條ニ依リ明カ  
 ナルニ拘ラス本件選舉掛ハ二級ノ選舉ニ從事スルト同時ニ兼テ一級ノ選舉ニ從事シタル  
 モノナレハ二級選舉モ亦違法ナリト云ハサルヘカラス依テ同村會議員一級二級ノ選舉ハ  
 共ニ違法ニシテ取消スヘキモノナレハ原告ノ請求相立タスト判決アリタシト云フニ在リ  
 依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

同時ニナシタルニ二級選舉ノ効力



原告ニ於テ議員ノ當選ハ選舉事務ノ遲延ニ關セズ有權者ノ投票開札ノ結果ニ依テ定マルモノナリ故ニ事務ノ終了ハ假令一級選舉時間ニ遷延セラレタリトスルモ當選者ハ午後二時五十分投票ノ結果報告シタル時既ニ定マリタル者ナリ又町村制第十九條ハ一級二級ト各級ニ分チ選舉スヘキヲ命シタル法律ニシテ選舉掛ハ各級々ニ區分シ任命スヘシトノ法律ニ非サレハ一級二級共通ニ兼任シタルハ違法ニアラス況ンヤ一級二級各別ニ區分シ選舉セシメ又各別ニ之レヲ取扱ヒタルモノナルニ於テオヤト云フト雖町制第十九條ニ定ムル二級ノ撰舉ヲ行フヘキ順序ハ二級ノ撰舉事務ヲ行ヒ其撰舉ヲ閉チタル後一級ノ撰舉ヲ行フヘシトノ法意ナリ故ニ撰舉掛長カ同制第二十條ニ依リ閉會ノ宣言ヲ爲サ、ル前即チ投票ノ結果ヲ報告シタルノミヲ以テハ該選舉ヲ終了シタルモノト謂フ可ラス而シテ本件ハ二級選舉ヲ午後三時二十五分閉會シ其ノ前午後三時ヨリ一級選舉ヲ開始シタルモノナレハ三時ヨリ三時二十五分ニ至ル間ハ兩級ノ選舉ヲ共ニ施行シタルモノニシテ二級一級共ニ町村制第十九條ニ違背シタルモノトス依テ青森縣參事會カ爲シタル明治三十二年六月十三日ノ裁決ハ取消スヘキモノニアラス右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ  
原告ノ請求相立タヌ訴訟費用ハ原告ノ負担トス

●村會議員違法選舉取消ノ訴  
明治三十二年第九十號  
明治三十二年十二月廿七日判決 (請求不立)  
判決要旨

- 一、選舉掛長ハ必要ト認メタル場合ニ於テ選舉事務補助ノ爲メ選舉掛ニアラサルモノヲ選舉會場ニ入ラシムルコトヲ得
- 二、選舉掛ハ他人ヲシテ選舉錄ノ調製ヲ補助セシムルコトヲ得
- 三、町村制第七條ニ所謂獨立ノ男子トハ二年以來獨立ノ男子タルコトヲ要ストノ意義ニアラス
- 四、亡父ノ財産ヲ相續シタル者カ所有者名義ノ書替ヲ爲サ、ルモ實際租稅ヲ納附シ來リタル以上ハ納稅者タルノ資格ヲ有ス
- 五、二級選舉人ニ無資格者アリテ之ヲ除去スルモ一級選舉ニ異動ヲ生セサル時ハ一級選舉ハ取消スヘキモノニアラス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

選舉ノ法式選舉人ノ資格



八十六  
(參照) 選舉開會ノ中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス(町村制第二十一條)

凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ年以來(一)町村ノ住民トナリ(二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)其町村ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接間接年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其町村公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但協會ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一月ヲ構ヘ且治産ノ業ヲ受ケサル者ヲ云フ(町村制第七條)

青森縣南津輕郡富木館村大字  
福館五拾三番戸平民農

原告 三上尙與

青森縣南津輕郡富木館村長

被告 佐藤 信

右原告三上尙與外二名ヨリ被告村長佐藤信ニ對スル村會議員違法選舉取消ノ訴審理スルニ原告陳述ノ要旨ハ第一明治三十一年五月一日執行シタル富木館村會議員一級二級選舉開會中選舉ニ關係ナキ佐藤信、淺利岩吉、横山喜佐久、柳操ノ四名ヲ選舉會場ニ入ラシメタルハ町村制第二十一條規定ニ違背スルモノナリ加フルニ右四名ハ選舉人誘導シ投票ノ検査又ハ取次ヲ爲シタルハ不法ナリ又佐藤信ヲシテ選舉錄ヲ調製セシメタルハ町村制第二十七條ノ規定ニ背クモノナリ第二町制第七條ニ依レハ二年以來獨立ノ男子タルハ公民權ヲ得ルノ要件タルニ横山喜佐久、井上達美ハ此要件ヲ欠クルヲ以テ公民タルノ資格ヲ有セス又藏佐勇吉ハ二年以來其村内ニ於テ地租ヲ納メタルコトナキニ依リ是亦公民タルノ資格ナシ其他藤林太平吉、鈴木彌太郎、佐藤清之ノ三名モ亦公民權ヲ有スルモノニ

アラス然ルニ右六名ヲシテ選舉ヲ爲サシメタルハ違法ニシテ原參事會ハ右六名ノ内井上達美、横山喜佐久、佐藤勇吉ノ三名ニ對シテハ何等ノ裁決ヲ與ヘサルハ不服ナリ第三右六名ヲ二級選舉人名簿ヨリ除去スル時ハ町村制第十三條ノ規定ニ依リ一ノ選舉人ニ異動ヲ及ホスコト勿論ナルニ原參事會ハ是等無資格者ヲ二級選舉人名簿ヨリ除去スルモ一級選舉人ニ何等ノ異動ヲ及ホサスト裁決シタルハ不法ナリ以上ノ理由ナルニ依リ明治三十一年五月一日執行シタル富木館村會議員一級選舉ハ違法ニ付之ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行フヘシトノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ明治卅一年五月一日村會議員一級二級選舉ノ際選舉掛長村長對馬榮ニ於テ左藤信、淺利岩吉、横山喜佐久、柳操ノ四名ヲ選舉事務補助員ニ命シ其事務補助ノ爲メ入場セシメタルモノナレハ町村制第二十一條ノ規定ニ違背シタルニアラス又佐藤信ハ選舉事務補助トシテ選舉錄調製ニ與リタルニ過キサレハ選舉ノ規定ニ違背スル所ナシ又二級選舉人横山喜佐久、井上達美、佐藤勇吉、藤林太平吉、鈴木彌太郎、佐藤清之ノ六名ノ内太平吉、彌太郎、清之ノ三名ハ公民權ナキコトハ認ムルモ横山喜佐久ハ明治三十一年三月二日即チ選舉原簿調製ノ當時ハ收入役奉職中ナルニ依リ同原簿ニ編入シタルニ同月三十一日收入役ヲ退キタルモ翌四月三日別居ヲ届出テ獨立ノ男子トナリ其他公民タル資格ニ於テ一モ欠ク所ナク井上達美ハ明治二十九年四月二十八日ヨリ引續キ地所ヲ所有シテ地租ヲ納メ同三十一年二月十五日父隆意ノ死亡跡ヲ相續シ獨立ノ男子トナリシモ

選舉ノ法式選舉人ノ資格



ノニシテ其他公民タルノ資格ニ欠クル所ナク佐藤勇吉ハ明治十二年父隱居家督相續ヲ爲シ戸主トナリタル處父ハ同十八年五月病死シ其後勇吉ハ父ノ所有財産ヲ相續シ亡父所有名義ノ地租ヲ納付シ來リシモノニシテ單ニ其所有名義更正ノ手續ヲ了セサルノミナレハ公民タル資格ニ欠クル所ナキヲ以テ右二名カ選舉ヲ爲シタルハ不法ニアス故ニ二級選舉人タル大平吉、彌太郎、清之ノ三名カ公民タルノ資格ナキモノ一級選舉人ニ異動ヲ生セサルヲ以テ一級選舉ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス依テ原告ノ請求ヲ棄却セラレ度シト云フニアリ

依テ理由ヲ説明スル左ノ如シ

原告ハ佐藤信外三名ヲ選舉會場ニ入ラシメタルハ町村制第二十一條ノ規定ニ違背スルモノナリト云フニアルモ同條ノ規定ハ選舉事務補助ノ爲メ必要ト認メ入場セシムルモノニ至ルマテ之ヲ制限スル規定ニアラサルヲ以テ選舉掛長ニ於テ其必要ヲ認メ選舉事務補助員トシテ佐藤信外三名ヲ選舉會場ニ入ラシメタルモノナレハ違法ナリト云フヲ得ヌ又原告ハ右信外三名カ入場シテ選舉人ヲ誘導シ投票ノ検査及ハ取次ヲ爲シタリト主張スルモ果シテ其事實アリタリト認ムヘキ證左ナキヲ以テ原告ノ主張ハ採用セズ又原告ハ選舉掛ニアラサル佐藤信ヲシテ選舉録ヲ調製セシメタルハ町村制第二十七條ノ規定ニ違背スルモノナリト云フニアルモ佐藤信カ選舉録ヲ調製シタリト原告ノ主張ハ之ヲ立證スルモノナク被告ノ申立ニ依レハ信ハ其調製ニ與リタルニ過キシテ要スルニ信ハ其調製ヲ補助シタルニ止マレハ同

條ノ規定ニ違背スルト云フヲ得ヌ又原告ハ横山喜佐久井上達美ノ二名ハ二年以來獨立ノ男子ニアラサレハ町村制第七條ニ依リテ公民タルノ資格ナシト云フモ同第七條ニアル二年以來ノ文詞ハ下方ノ三ノ要件ニ屬スル制限ニシテ獨立ノ男子タリシ後二年以上ノ期間ヲ要件トスルニアラス而シテ喜佐久ハ明治三十一年四月六日別居ノ届ヲ爲シ獨立ノ男子トナリ達美ハ明治三十一年二月十五日父隆意ノ死亡跡ヲ相續シ獨立ノ男子トナリシ事實ナレハ喜佐久達美ハ何レモ同條ノ所謂獨立ノ男子ニシテ其公民タル資格ニ欠クル所ナシ而シテ原告ハ佐藤勇吉ハ地所ヲ所有セス隨テ二年以來地租ヲ納付シ來ラサルモノナレハ公民ノ資格ニ欠クル所アリト云フニアルモ勇吉ハ明治十二年戸主トナリ同十八年父ノ所有財産ヲ相續シ亡父所有名義ノ地租ヲ納付シ來リシ事實ナレ單ニ其地所書替ノ手續ヲ爲ササルノ事ヲ以テ勇吉ニ於テ町村制第七條ノ所謂納税ヲ爲サルモノト云フヲ得サレハ勇吉モ亦公民ノ資格ヲ欠クルモノトスルヲ得ヌ而シテ右ノ如ク喜佐久外二名ハ公民タルノ資格ニ於テ欠クル所ナキヲ以テ被告カ公民權欠缺ヲ認ムル太平吉、彌太郎、清之ノ三名ヲ二級選舉人ヨリ除去セハ一級選舉ニ異動ヲ生スルヤ否ヲ調査スルニ選舉人全員ノ納税總額ハ金千七百拾九圓參拾五錢五厘ニ一級末尾ノ高木長吉ノ納税額七圓九拾八錢又被告カ本件選舉ノ際算出シタル一級ノ納税額五百九十壹圓五厘右太平吉外二名ノ納税額八圓拾七錢ナルコトハ原告モ爭ヒナキ所ナレハ右全員ノ納税總額ヨリ先シ無資格者タ。太平吉外二名ノ右納税額ヲ引キ其殘額ヲ折半スレハ一級納税額ハ五百八十五圓五拾九錢トナリ然シテ此額ト前掲被

選舉ノ法式選舉人ノ資格



●不當裁決取消ノ訴 明治三十二年九月十六日判決 (請求不立)

右ノ理由ナルニ依リ判決スルコト左ノ如シ  
原告ノ請求取立タス訴訟費用ハ原告ノ負担トス

判決要旨

府縣制第六條第八號ニ所謂其ノ關係區域トハ選舉事務ニ參與スル官吏吏員カ職務上選舉事務ニ關係スル區域ヲ云フモノニシテ選舉區域ノ全体ヲ指スノ意義ニアラス

說明

府縣制第六條第八項ニ於テ選舉事務ニ關係スル官吏吏員ノ被選權ニ制限ヲ與ヘタルハ必竟スルニ其ノ自ラ管理スル選舉ニ於テ擅ニ職權ヲ濫用シ

七十六

テ窃カニ自己ノ當選ヲ謀ルノ恐アルヲ防止スルニ出テタルニ外ナラス故ニ本條ノ所謂關係區域トハ實際職務ヲ以テ關與シタル選舉ノ範圍即チ職務上ノ關係區域ヲ云フモノニシテ選舉區域ノ全体ヲ指スモノニアラスナリ  
ナスト雖モ其實際ニ於ケル撰舉ノ執行ハ各町村毎ニ各別ニ執行セラル、ヲ以テ之ヲ管理スル官吏吏員ハ其ノ關係以外他ノ町村ニ於テハ通常人ト同シリ何等被撰權ニ制限ヲ受クヘキモノニアラサルナリ

七十七

(參照) 選舉ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一ヶ月ヲ經過セルモ亦同シ(府縣制第六條第八項)

青森縣中津輕郡高杉村大字福狐十一番目平民農

原告 告 木下 外 一名

訴訟代理人 寺井 純 司 木下 佐太郎 佐々木 鉄三

被告 告 宗 像 政 訴訟代理人 岡 喜七郎

右原告木村鑓鑑外登名ヨリ被告青森縣知事宗像政ニ對スル不當決定取消ノ訴訟雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂ケル處

原告請求ノ要旨ハ明治三十二年九月二十六日中津輕郡役所ニ開キタル青森縣會議員ノ撰

府縣制第六條第八項ノ解

九十一



九十二

舉會ニ於テ當撰者ト爲シタル木村竹雄ハ撰舉會當日マテ繼續ノ中津輕郡大浦村長ノ職ヲ勤メナカラ縣會議員ノ當撰ヲ得タルモノニシテ被撰舉權ヲ有セサルヲ以テ原告木村竹雄同須藤信夫ハ明治三十二年十月二日異議ヲ申立タルニ被告青森縣知事ハ不法ニモ之ヲ採用セス申立人ノ請求相立タスト決定シタルトモ明治三十二年三月十五日法律第六十四號府縣制第六條第八號ニ據レハ撰舉事務ニ關係アル官吏員ハ其關係區域内ニ於テ被撰舉權ヲ有セスト有リ其「關係區域」トハ即チ冒頭ノ「撰舉事務」ノ四字ヲ受ケテ關係區域トハ明カニ撰舉區域ヲ指シタルコト固ヨリ言フ餘タルナリ而シテ同制第四條第二號ニ「關係區域ハ郡市ノ區域ニ依ル」ト規定セラレ撰舉區域ハ其郡全般ヲ通シテ一體ト爲シ毫モ別ツヘカラサルコトモ明ナカリ然レハ「關係區域」トハ撰舉區域内ニ各地便宜ニ設クル投票區域ト其意義ヲ異ニシ撰舉區域内ノ一體ヲ通シタル名稱ナリ故ニ大浦村長木村竹雄ハ其撰舉區域タル中津輕郡内ニ於テ被撰舉權ヲ有セサル者ナルニ被告青森縣知事ハ牽強附會ニモ第六條第八號ハ官吏員カ其職權ヲ濫用スルヲ防止スルノ趣旨ニシテ其ノ關係區域トアルハ各其ノ職權ニ關係アル區域ヲ指シタル意義ト解釋スルヲ相當ナリトシタルハ失當モ亦甚シカラス要スルニ木村竹雄ハ大浦村長タルヲ以テ其撰舉區域タル中津輕郡ニ於テ被撰舉權ヲ有セサル者ナレハ明治三十二年十月五日被告青森縣知事宗像政カ原告ノ異議申立ニ對シ與ヘタル決定ヲ取消シ寺井純司ヲ以テ中津輕郡選出青森縣會議員ト確定セシメテ云フニ在リ

七十九

被告答辨ノ要旨ハ事實ハ大要原告ノ申立ル所ニ異ナルナシ原告ハ府縣制第六條第八項ノ「關係區域トハ」選舉區域ヲ指シタルモノナリ故ニ中津輕郡大浦村長タル木村竹雄ハ選舉區域内即チ中津輕郡内ニ於テ被撰舉權ヲ有セサルモノナレハ其當選ヲ取消シ次點者タル寺井純司ヲ以テ當選者トスヘキモノナリト云フト唯府縣制第六條第八項ニ於テ選舉事務ニ關係アル官吏員ノ被撰舉權ヲ制限シタルハ必竟其管理スル投票區域内ニ於テ職權ヲ濫用スル等ノ弊ヲ防止スルニ出テタルモノニ外ナラス故ニ其關係區域トハ官吏員カ各其職務ニ直接ノ關係アル區域ヲ指シタルモノトスルヲ相當ナリトス隨テ木村竹雄ハ自己就職ノ大浦村投票區ニ於テ被撰舉權ヲ有セサルモノ中津輕郡ニ於ケル同村以外ノ投票區ノ投票ニ依リ撰舉セラレタルコトヲ妨ケサルモノナレハ中津輕郡撰舉會ニ於テ大浦村長ノ關係ヲ有セサル他ノ投票多數ヲ以テ得タル同人ヲ以テ當撰者トシタルハ不當ニアラスト信スルヲ以テ原告ノ請求相立タスト判決アリタシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ明治三十二年法律第六十四號府縣制第六條第八號ニ據レハ撰舉事務ニ關係アル官吏員ハ其關係區域内ニ於テ被撰舉權ヲ有セストアリテ其ナル文字ハ撰舉事務ノ四文字ヲ受ケ關係區域トハ明カニ撰舉區域ヲ指シタルコト言フ餘タルナリ而シテ同制第四條第二號ニ撰舉區ハ郡市ノ區域ニ依ルト規定セラレ其ノ郡市全般ヲ通シテ一體ト爲シ別ツヘカラサルコト明カナリ然レハ關係區域トハ撰舉區域内ニ各地便宜ニ設クル投票區域トハ其意義ヲ異



ニシテ選舉區域内ノ一體ヲ通シタル名稱ナリ故ニ木村竹雄ハ其選舉區タル中津輕郡内ニ於テハ被選舉權ヲ有セトス云フト雖該條ノ所謂其關係區域トハ官吏吏員カ職務上撰舉事務ニ關係スル區域ヲ指シテモノニシテ選舉區域ヲ指シテモノニアラサルナリ故ニ本件木村竹雄カ村長ノ職務トシテ關係スル區域内ニ在リテハ被選舉權ヲ有セサルモ職務上ノ管理區域外ニ在リテハ被選舉權ヲ妨ケラレ、コナキモノトス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ  
原告ノ請求相立タヌ  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●區費賦課命令取消請求ノ訴

明治三十一年第五十七號  
明治三十二年十二月二十七日判決

(請求相立)

判決要旨

町村内ノ一部ニ於テ専用スル營造物ノ保存修築ノ費用ハ其ノ一部ノ住民ノミニテ負擔スヘキモノトス

說明

本件ハ説明ヲ要セヌ

(參照) 町村内ノ一部ニ於テ専用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築又保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一部ノ所有財產アルトキハ其

收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ(町村制第九十九條第二項)  
長野縣東筑摩郡朝日村長  
平民農

原告 武田多武二

訴訟代理人

辯護士 播摩辰次郎  
同 田多井喜源次

被告 武田實彌

訴訟代人

辯護士 岡崎正也  
同 降旗熊太郎

右原告武田多武二ヨリ被告村長武田實彌ニ對スル區費賦課命令取消請求ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ居住地ナル朝日村大字古見區ニ在ル上、中、兩井筋ハ元來大字古見ノ内上二耕地下三耕地専用ノ營造物ニシテ御堂開渡御馬越兩部落ノ隣與セサル五耕地ノ共有物ト確信シタレトモ行政裁判所ノ判決ニ依リ大字古見區ノ營造物ト確定シタルヲ以テ此點ニ付アハ敢テ論争セサルモ其營造物ハ五耕地ノ専用ニ屬スルヲ以テ其修築保存ノ費用ハ五耕地ノ住民ニ於テ負擔スヘキモノニシテ區民一般ニ賦課スルコトヲ得サルモノト信ス何トナレト町村制第九十九條第二項ニ依レハ町村内ノ一部ニ於テ専用スル營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ其部内住民ニ於テ負擔スヘキモノナリ果シテ然ラハ此規定ハ區内ノ一部ニ於テ専用スル本件ノ場合ニ適用スヘキモノナリト信ス本件ノ營造物ハ古見區ノ内前陳五耕地ノ専用水路ニシテ他ノ二耕地ノ毫モ關與セサル所ナレハ其

町村一部ノ専用ニ係ル營造物ノ費用負擔



費用ハ專用五耕地ニ負擔セシムヘクシテ他ノ部落ノ者ニ賦課スルヲ得サルト信ス然ルニ  
被告カ此差別ヲ爲サスシテ全區一般ニ賦課シタルハ町村制第九十九條第二項ニ違背シタ  
ルモノナリ又本件兩井筋ノ灌漑田地ハ各戸ノ使用スヘキ水坪確定シアルヲ以テ其費用ハ  
右水坪ニ割リ當テ徵收シ來リタルモノニシテ此慣行ハ町村制第八十五條ノ規定ニ適合セ  
リ然ルニ被告ハ此慣行ヲ無視シ法律ノ規定ニ反シテ水坪ニ依ラス戸別平均割戸別等級割  
ノ兩種ニ割リ當テ徵收シタル不當ノ處置ナリトス其他區費ヲ賦課スルマテニ至ル手續ニ  
於テ違法ノ廉少カラサルニ付被告カ原告ニ對シ明治二十七年十一月七日付ヲ以テ發シタ  
ル明治二十七年朝日村古見區費村税金五拾一圓三十九錢ノ賦課命令ヲ取消サレタシト  
云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本件ノ井筋ハ曩ニ行政裁判所ノ判決ニ依リ古見區全體ノ共有ニ屬スル  
旨確定シタルハ古見區會ニ於テ其修築保存ニ關スル費用賦課ニ付議決權アルハ勿論ナリ  
トス且町村制第九十九條第二項ハ市町村又ハ區ノ共有ニ屬スル營造物ノ費用負擔方法ヲ  
定メタルモノナリト雖元來古見區共有營造物ノ費用ハ明治十四年古見耕地會ノ議決及明  
治十六年以降古見村收入支出豫算ノ決議ニ依リ古見村全體ヨリ徵收スヘキモノナレハ明  
治二十七年度ニ於テ同一ノ議決ヲ爲シタルハ從來ノ慣行ヲ襲用シタルモノニシテ違法ニ  
アラス又原告ハ本件ノ費用ヲ戸別割戸別等級割ニヨリ徵收シタルハ違法ナリト云フモ古  
見區ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ水坪使用ノ程度ニ應ジ區費負擔ノ等級ヲ定メ此等級ニ準シ

テ賦課シタルモノナレハ其徵收方法ハ不當ニアラス尤モ古見區ノ内入二耕地ハ原告主張  
ノ如ク本件井筋ニ關係ナキモ入二耕地ニ屬スル井筋ノ費用モ亦五耕地ニ於テ負擔シ彼是  
共通負擔ノ慣行ニ基キ賦課ノ決議ヲ爲シタルニ外ナラザレハ毫モ不法ノ點アルナシ其他  
本件ノ區費ヲ賦課スルニ至ルマテノ手續ニ於テ違法ノ點アル旨ヲ主張スルモ毫モ其理由  
ナクテハ原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
本件所爭ノ第一點ハ町村中區内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物修築保存ノ費用ハ專用ノ部  
落ニ於テ負擔スヘキヤ將タ區民全體ノ負擔ニ屬スヘキモノナルヤ否ニ在リ而シテ被告ハ本  
件ノ營造物タル井筋ハ古見區全體ノ共有物ナルニ付修築保存費用ノ賦課方法ハ古見區會ニ  
於テ自由ニ定ムルコトヲ得ルヲ以テ區會カ區民全體ニ賦課シタルハ適法ナルノミナラス古  
來ノ慣行ナリト云フト雖町村制第九十九條第二項ニ依レハ町村内ノ一部ニ於テ專ラ使用ス  
ル營造物ハ其部内ノ住民ニ於テ保存修築ノ費用ヲ負擔スヘキモノナリ而シテ本件營造物ヲ  
專用スル五耕地ハ古見區ノ一部ニシテ即町村ノ一部ナレハ該條ヲ適用シテ五耕地住民ノミ  
ニ其費用ヲ負擔セシムルヲ適當ナリトス然ルニ被告ハ該條ニ依ラス區民全體ニ費用ヲ賦課  
シタルハ其當ヲ得タルモノニアラス尙被告ハ古來ノ慣行ナリト云フモ果シテ慣行ナルヤ否  
判然セサルノミナラス假令慣行ナリトスルモ町村制ノ規定ニ對抗スルヲ得サルモノナレハ  
其主張ハ理由ナキモノトス既ニ此點ニ付判斷シタル以上ハ其他ノ點ニ付辯論スル所アルモ

町村一部ノ專用ニ係ル營造物ノ費用負擔



裁判上必要ナキヲ以テ之カ説明ヲ與ヘス  
右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ  
被告ハ本件賦課命令ヲ取消スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

●村税違法賦課取消ノ訴 明治三十二年第九十一號  
明治三十二年十二月廿五日判決 (請求不立)

判決要旨

町村制第九十四條ノ規定ハ納税者カ其ノ住居以外ノ町村ニ於ケル所得ニ對シテハ其住居地ニ於テ是ニ町村税ヲ賦課シ得サルノ規定ニシテ住居地以外ノ町村ニ於テ其ノ部内ノ土地ヨリ生スル所得ニ對シ町村税ヲ附加徴取スルヲ得ストノ規定ニアラス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 所得税ニ附加税ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得税ヲ賦課セントスルトキハ納税者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メタル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キ者トス(町村制第九十四條)  
町村内ニ住居ヲ構ヘヌ又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖モ町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムルモノトス其法人タル

トキモ亦同シ但郵電電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス(町村制第九十三條)

青森縣南津輕郡富木館村大字福館  
五十三番戸平民

原告 三上尚與

同縣同郡野澤村長

被告 前田忠司

訴法代理人 田中藤三郎

右原告三上尚與ヨリ被告野澤村長前田忠司ニ對スル村税違法賦課取消ノ訴審理ヲ遂クル處原告述陳ノ要旨ハ原告ハ富木館村ニ居住シ隣村野澤村ニ於テ田畑ヲ所有セシニ被告ハ此田畑ニ對スル所得税ニ村税所有税割金貳拾壹錢九厘ヲ賦課シタリト雖モ町村制第九十三條ハ町村内ニ住居ヲ構ヘサル者ト雖モ其町村内ニ於ケル財產若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムルノ規定ニ止リ同制第九十四條ハ之ニ反シ所得税ニ町村ヲ賦課スル場合ハ其納税人ノ現住町村内ノ所得ノミニ係ル所得税ニ對シ賦課スヘキ者ニナリ決テ他町村住民カ所有スル土地家屋ニ對シ賦課スヘキモノニアラス何トナレハ同制第九十四條ハ其第九十三條ノ如ク町村内ニ於ケル財產若クハ其所得ニ對シ町村税ヲ賦課スル規定ニアラスシテ其町村内ニ於ケル分限税タル所得税ニ町村税ヲ賦課スル規定ナレハナリ又所得税ハ縣税巨額割下同シク分限税ナルヲ以テ居住町村ニ納税ノ義務アリテ居住外ノ町村ニ其義務ナシ故ニ原告ハ居住地ニ在テハ所得税納付者タレトモ居住地外ナル野澤村ニ在テハ其納付者タラス然ラハ則被告ハ其主税ナクシテ附加税ヲ賦課シタル違法ノ處置ナリ以

町村附加税ノ財源



上ノ事實理由ナルニ縣參事會ハ原告ノ申立相立タスト裁決セラレタルハ不當ニ付之ヲ取消シ明治三十一年度野澤村所得稅割金貳拾壹錢九厘ハ違法ノ賦課ナルニ依リ之ヲ取消スヘシトノ裁判ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辨ノ要旨ハ被告村ニ於テ原告ノ所得稅ニ附加稅ヲ賦課シタルハ町村制第九十三條第九十四條ノ規定ニ基キ原告カ當野澤村ニ於テ所有スル田畑ニ對スル所有稅金壹圓九錢貳厘ニ對シ所得稅金壹圓ニ付金貳拾錢ノ稅率ヲ以テ金貳拾壹錢九厘ノ所得稅附加稅ヲ課シタルモノニシテ原告所論ノ如キ違法ノ點ナシ故ニ原告ノ請求ハ排斥セラレ訴訟費用ハ原告ノ負擔タルヘシト判決相成タシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

本件ハ他町村住民ノ所得稅ニ對シ町村稅ヲ附加スルヲ得ルヤ否ヤニ在リ原告ハ町村制第九十三條ハ町村內ニ住居ヲ構ヘサル者ト雖モ其町村內ニ於ケル財產若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムルノ規定ニ止リ同制第九十四條ハ之ニ反シ所得稅ヲ附加スル場合ハ其納稅人ノ現ニ住居スル町村內所得ノミニ係ル所得稅ニ賦課スヘキモノナリト雖モ町村制第九十四條ハ納稅者ノ居住町村外ニ於ケル所得ニ對シテハ其居住地ニ於テ之ニ町村稅ヲ賦課セサルノ規定ニシテ其居住地以外ク町村ニ於テ部內ノ土地ヨリ生スル所得ニ對シ町村稅ヲ賦課スルヲ得サルノ規定ニアラス故ニ原告カ野澤村ニ於テ所有スル土地ノ所得ニ係ル所得稅ニ對シ被告カ同制第九十三條ノ規定ニ依リ町村稅ヲ附加シタルハ違法ノ點ナキモノトス

●村會議員選舉効力ノ訴 明治三十二年第八十六號 (請求不立)

判決要旨

一、選舉人ノ投票ハ一人一個ニ限ルモノトス隨テ選舉ニ參與シタル選舉人ノ員數ト投票ノ總數ト符合セスシテ過剩ヲ生スルハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルト否トヲ問ハス其ノ選舉ハ無効ナリトス

說明

投票ノ法式

又原告ハ居住村ニ在テハ所得稅納付者タレトモ居住地以外ナル野澤村ニ在テハ其納付者タラス然レハ則チ被告ハ其主タル租稅ナクシテ之ニ附加稅ヲ賦課シタル違法ノ處置ナリト主張スルト雖モ附加稅ヲ賦課スルハ其主稅納付者居住地ノ町村ニ限ルトノ規定アルニアラスレハ被告ノ處置ヲ違法ナリト謂フヲ得ス其他論スル所アルモ本件裁判ニ必要ナキヲ以テ說明セズ

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス



本件ハ説明ヲ要セス

(參照) 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ他選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票箱ニ投入ス可シ但投票箱ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス(町村制第三十一條)

選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選人中資格ノ要件ヲ有セザル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシム可シ(同上第二十九條第三項)

富山縣西礪波郡國吉村長

同村助役

原告 藤内省三

補佐人 高森清八郎

富山縣選舉會富山縣知事

縣廳

被告 金尾稜嚴

訴訟代理人 櫻井豊太郎

右原告村長藤内省三ヨリ被告富山縣知事金尾稜嚴ニ對スル村會議員選舉效力ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ富山縣西礪波郡國吉村會議員一級定期改選及同補缺選舉會ヲ明治三十一年四月十一日ニ開會シタルニ定期改選及補欠選舉ノ投票總數各三十七票ニシテ定期改選ニ在テハ高點者貳拾點ノモノ四名次點者五點ノモノ三名十四點ノモノ壹名貳點ノモノ貳名壹點ノ者壹名アリタリ仍チ高點者四名ヲ取リ當選人ト定メ又補欠選舉ニ在テハ最高點者カ二十點其次カ十八點又其次カ十五點ナリ而シテ其二十點者ト十八點者トノ二名ヲ當選人ト定メタリ然ルニ本會場ヘ入場シタル撰舉人十八名分會場ヘ入場シタル撰舉人十

六名ニシテ合シテ三十四名ナリシテ三十七ノ投票アリシヲ以テ茲ニ三票ノ相違アリ然トモ定期ノ分ハ高點者ト次點者點數ノ差五點ニシテ相違シタル三票ノ投票ヲ高點數ヨリ引去ルモ猶高點者ニ異動ナシ又補闕ノ分ハ過剩ノ三票ヲ引去ルモ十八點ヲ得タル者ハ十五點ヲ得タル者ヨリ年長者ナリ故ニ選舉ノ結果ニ異動ナキモノトシ當選者確定シ無事閉場シタルナリ然ルニ梶川與八郎等ハ郡參事會ニ訴願シ其裁決ニ服セス縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ於テ前段選舉會ハ無効ノ旨裁決アリタリ然レモ原告ハ該參事ノ裁決ニ服スル能ハス其理由ハ選舉ノ當時有權者總數卅七名ニシテ選舉當日棄權シタル者三名入場投票シタルモノ三十四名ナリ然ルニ投票函開緘ノ上投票三十七票アリシハ何者カ徒ニ三票ノ投票ヲ投シタルモノト知ルヘシ之ヲ以テ全體ヲ無効選舉トスル時ハ將來徒者ノ爲メ選舉會ハ好結果ヲ見ル能ハサルヤモ計リ難ク三十年五月二十四日宣告第八號行政裁判所判決ノ如キ過剩投票一票ノ爲メ當選者ニ異同アル場合ニ於テハ當選者ノ何レニアラヤ決スル能ハス故ニ選舉會ハ無効タルコト當然ナリ本件選舉會ノ如キ高點者ト次點者ト其點數判然トシ之ヲ差引スルモ猶當選者ニ異同ナキニ於テハ之ヲ無効トスルノ必要ナシ是レ二十六

投票ノ法式



本件ハ説明ヲ要セス

(參照) 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘シ上選舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ他選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ズ  
選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ受テ封緘シ備投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ズ(町村制第三十一條)  
選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選人中資格ノ要件ヲ有セザル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハレム可シ(同上第二十九條第三項)

原 告 藤 内 省 三 補 佐 人 高 森 清 八 郎  
富山縣西礪波郡國吉村長 同村助役  
富山縣選舉會富山縣知事

被 告 金 尾 稜 殿 訴訟代理人 櫻 井 豊 太 郎  
富山縣選舉會富山縣知事 縣屬

右原告村長藤内省三ヨリ被告富山縣知事金尾稜殿ニ對スル村會議員選舉效力ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ富山縣西礪波郡國吉村會議員一級定期改選及同補缺選舉會ヲ明治三十年四月十一日ニ開會シタルニ定期改選及補欠選舉ノ投票總數各三十七票ニシテ定期改選ニ在テハ高點者貳拾點ノモノ四名次點者五點ノモノ三名十四點ノモノ壹名貳點ノモノ貳名壹點ノ者壹名アリタリ仍チ高點者四名ヲ取リ當選人ト定メ又補欠選舉ニ在テハ最高點者カ二十點其次カ十八點又其次カ十五點ナリ而シテ其二十點者ト十八點者トノ二名ヲ當選人ト定メタリ然ルニ本會場ハ入場シタル選舉人十八名分會場ハ入場シタル選舉人十

六名ニシテ合シテ三十四名ナリシテ三十七ノ投票アリシヲ以テ茲ニ三票ノ相違アリ然トモ定期ノ分ハ高點者ト次點者點數ノ差五點ニシテ相違シタル三票ノ投票ヲ高點數ヨリ引去ルモ猶高點者ニ異動ナシ又補闕ノ分ハ過剩ノ三票ヲ引去ルモ十八點ヲ得タル者ハ十五點ヲ得タル者ヨリ年長者ナリ故ニ選舉ノ結果ニ異動ナキモノトシ當選者確定シ無事閉場シタルナリ然ルニ梶川與八郎等ハ郡參事會ニ訴願シ其裁決ニ服セス縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ於テ前段選舉會ハ無効ノ旨裁決アリタリ然レモ原告ハ該參事ノ裁決ニ服スル能ハス其理由ハ選舉ノ當時有權者總數卅七名ニシテ選舉當日棄權シタル者三名入場投票シタルモノ三十四名ナリ然ルニ投票函開緘ノ上投票三十七票アリシハ何者カ徒ニ三票ノ投票ヲ投シタルモノト知ルヘシ之ヲ以テ全體ヲ無効選舉トスル時ハ將來往者ノ爲メ選舉會ハ好結果ヲ見ル能ハサルヤモ計リ難ク三十年五月二十四日宣告第八號行政裁判所判決ノ如キ過剩投票一票ノ爲メ當選者ニ異同アル場合ニ於テハ當選者ノ何レニアルヤ決スル能ハス故ニ選舉會ハ無効タルコト當然ナリ本件選舉會ノ如キ高點者ト次點者ト其點數判然トシ之ヲ差引スルモ猶當選者ニ異同ナキニ於テハ之ヲ無効トスルノ必要ナシ是レ二十六



エトアラハ一票ノ不正ト雖モ發見外ニ如何ナル不正ナキヲ保スヘカラスル場合ハ定規ニ違背シタルモノト云フハシ然レトモ本選舉會ニ於テハ他ニ定規ニ違背シタル點ハ無ク投票ノ數ニ於テ過剩アルニ過キス則チ過剩投票ト雖モ權理者ノ爲シタルモノナレハナリ依テ選舉會ヲ無効トスヘカラサルハ無論ナリ依テ明治三十一年四月十一日富山縣西礪波郡國吉村會議員定期改選一級選舉會及同補闕選舉會ヲ執行シ當選確定シタルヲ梶川外一名ノ所願ニ依リ富山縣參事會ノ與ヘタル裁決ハ不法ナルニ付右裁決ヲ取消シ前選舉ニ於テ當選シタル村會議員ノ當選ハ有效ナリトノ裁決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告カ主張スル第一點ハ過剩投票三票ヲ當選者ノ得點數ヨリ差引クモ尙ホ落選者ヨリ多數ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ來サハルニ依リ該選舉ハ無効タルモノニアラスト云フニアリト雖モ得票差引計算ノ結果ヲ以テ選舉ノ效力ヲ推論センニハ先ツ其投票カ差引キ得ヘキモノナルヨトヲ斷セサル可カラス然ルニ原告ハ此豫斷ヲ爲サシテ漫然差引計算ノ結果ヲ云々スルハ本末ヲ誤リタルモノト云ハサルヲ得ヌ抑々投票カ投票者ニ對シ過剩ナル場合ハ無効投票ノ規定タル町村制第二十三條ニ認メサル所ナルヲ以テ假令作成ノ手續ニ於テハ不法アルモ投票タル一定ノ形式ヲ具ヘテ投票函ヨリ現ハレタル以上ハ單ニ過剩ナルノ故ニ依リ之レヲ無効トスルコトヲ得ヌ從テ之ヲ被選舉人ノ得票ヨリ減却スルハ法律ノ許サハル所ナリ既ニ法律上過剩投票ヲ差引クノ途ナシトスレハ其計算ノ結果如何ハ本件選舉ノ效力ヲ論定スル上ニ於テ何等ノ關係ヲ有セサルヤ知ルヘキ

ナリ又原告ハ理由第二點トシテ本選舉ハ唯投票ノ數ニ差異アリタルノミニシテ他ニ規定違背ノ點ナキヲ以テ有效ナリ何トナレハ過剩投票ト雖モ權利者ノ爲シタルモノナレハナリト云フト雖モ一人一票ハ選舉ノ原則ニシテ明文ヲ缺テ後議ル可キニアラス換言スレハ選舉人ハ選舉掛長ニ一票ヲ差出スノ權利ヲ有スルモノニ點ヲ差出スノ權利ナキナリ選舉人カ二票以上ヲ差出タルトキハ一票外ノ投票ハ權利ナクシテ行ヒタルモノナリ權利ナクシテ投票ヲ行フノ不法ナルハ原告カ規定違背ト肯定セル無權利者カ投票スルト其實質ニ於テ毫モ擇所ナシ要スルニ本件選舉ニ於テ投票者三十四人ニ對シ三十七ノ投票アリシハ何人カ二票以上ヲ投票シタルモノニシテ一人一票ノ原則ニ違背シタル不法ノ選舉タルハ疑テ容レズ被告カ之レヲ有效トセル西礪波郡參事會ノ裁決ヲ破毀シテ無効ノ裁決ヲ與ヘタルハ毫モ不當ノ點ナシト信ス依テ原告ノ請求相立タストノ裁判ヲ請フト云フニ在リ

依テ理由ヲ説由スル左ノ如シ

原被告所爭ノ要點ハ村會議員選舉ニ關シタル選舉人ノ員數ニ比シ三票過剩投票アルモ該三票當選者ノ得點ヨリ差引キ尙落選者ヨリ多數若ハ同點數ナルモ年長者ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ來タサハル場合ニハ該選舉ハ有效ナルヤ否ニ在リ依テ案スルニ町村制第二十二條ハ各選舉人ニ於テ隨意ニ數箇ノ投票ヲ差出スコトヲ許シタルモノニ非スシテ選舉人ハ平等ニ各一個ノ投票ヲ差出スヘシトノ規定ナリト解釋セサルヲ得ヌ然ルニ本件選舉會場ニ出席シタル選舉人ノ總數ハ三十四名投票總數ハ三十七票ニシテ其三票ノ過剩投票アルハ選舉人



ノ内何人カニ票以上ヲ差出シタル結果ナリト言ハサルヲ得ス故ニ本件村會議員壹級定期改選並ニ同補欠選舉ハ町村制第二十二條ノ規定ニ違背シタルモノトス而シテ同制第二十九條三項ノ規定ハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルト否トニ拘ハラズ苟クモ違法ノ選舉アリタルトキハ其選舉全部ヲ取消スヘシトノ規定ナレハ被告カ與ヘタル選舉無効ノ裁決ハ適法ノ裁決ニシテ之レヲ取消スヘキ理由ナキモノトス  
右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ  
原告ノ請求相立タズ  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●營業稅不當賦課ニ對スル訴 明治三十二年第六十八號 明治三十三年一月廿六日判決 (請求不相立)

判決要旨

- 一、屠畜ト賣肉トナ併業スル屠獸業者ニ對シ其ノ屠畜行為
- ニ對シテ賦課スル屠稅ハ其ノ販賣行為ニ賦課スル國稅營業稅ト重復スルモノニアラス
- 二、地稅ノ納稅義務ハ專ラ課目課額ニ依テ定マルモノトス故ニ豫算ノ増減ニ依テ納稅義務ニ反更テ生スルコトナシ

說明

一、屠獸賣肉取締規則ニ於テ(廣島縣令)屠獸營業ハ屠畜ト賣肉トナ一人ニテ營業セシメ之ヲ分離スルコトヲ許サ、ル規定ヲ設クルモ之レ唯營業ニ關スル業務ノ制限ニ止マリ課稅ノ目的ニ關スル規定ニアラサルナリ抑モ屠畜及ヒ賣肉ノ二行為ハ元來別個ノ行為ナルヲ以テ假令營業取締規則ニ於テ二者ノ分業ヲ許サストモ課稅ノ目的ヨリ視ルハ二者各個ニ併存スルモノト云フヲ得ヘシ故ニ假令一旦前記屠獸業者ノ屠畜ニ對シ課稅ヲナスコトアルモ更ラニ其ノ販賣行為ニ對シ國稅營業稅ヲ賦課徵收スル取テ重復ノ課稅ニアラサルナリ

二、凡ソ納稅者ノ納稅義務ハ法律ノ規定ニ依リテ定マリ而シテ其ノ賦課徵收額ノ分量ハ課目課額ニ依テ定マル歲計豫算ノ如キハ唯是レ歲出入ノ見積ニ過キサレハ之レカ増減反更ハ何等納稅義務者ノ負擔ニ影響ヲ及スヘキモノニアラス

(參照) 府縣ハ此ノ稅法ニ依リ納稅義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本稅十分ノ二以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得此ノ附加稅ノ外府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得又(營業稅法第三十六條)

廣島縣廣島市宇川添村二百十七番邸

原告 菊崎慶次郎 外二名 訴訟代理人 尾形武三郎 外復代理人一名

屠獸業者ニ對スル課稅



被告 廣島縣知事 江木千之 訴訟代理人 岸 清一

右原告菊崎慶次郎外二名ヨリ被告廣島縣知事江木千之ニ係ル營業稅不當賦課ニ對スル訴審  
理ヲ遂クル處

原告供述ノ要旨ハ原告ハ從來屠肉販賣營業ヲ爲シ屠畜稅ヲ上納シ來リタル處明治三十年  
四月原告ノ營業ハ販賣業ニ屬シ營業稅法ニ從ヒ國稅ヲ納ムルトナリ從テ屠畜稅ヲ廢止  
セラレ今日マテ營業シ來リタリ然ルニ明治卅一年九月ニ至リ廣島市長ハ同年四月分屠畜  
稅菊崎慶次郎ニ對シテハ金四拾九圓六拾錢中村佐次郎ニ對シテハ金六圓四拾錢木村常吉  
ニ對シテ金二拾七圓六拾錢ヲ上納致スヘキ旨徵稅令發シタルハ不當ナリ抑廣島縣ニ  
於テハ明治二十二年縣令第百二號ヲ以テ屠獸賣肉取締規則ヲ定メ屠獸及賣肉ノ二行爲ヲ  
合シテ一營業トナシ其第十二條ニ於テ屠獸營業トハ第一條ニ定メタル獸類ヲ屠殺シ販賣  
スルモノヲ云フト明定シ二者離ルヘカラサル者トセリ故ニ此二行爲ヲ合セタル營業ニ對  
シ屠獸一頭若干ノ割合ヲ以テ賦課スル屠畜稅ハ單ニ屠獸ノミニ對スル税金ニアラスシテ  
賣肉ニ對スル税金モ包含セルヲ明テ屠畜稅ノ性質此ノ如ク而シテ原告ハ屠獸賣肉ノ  
賣上高一個年千圓以上ニ及フヲ以テ明治卅年度ヨリ營業稅法ニ依リ國稅營業稅ヲ賦課セ  
ラル、ヲ以テ原告ニ對シ屠畜稅ヲ賦課セシハ一個ノ營業ニ付國稅ト地方稅トヲ重課スル  
モノニシテ營業稅法第六十三條ニ違犯セル不當ノ處置ナリ加之ナラス廣島縣ニ於テハ原

告等ノ如キ國稅アル營業ニ對シテハ屠畜稅ヲ賦課徵收セサル方針ヲ採リ縣會ニ於テ此趣  
旨ヲ以テ議決シ縣廳ニ於テモ之ニ一決セシモノタルヤ甲第二號證甲第三號證甲第五號證  
甲第六號證等ニ依リ明瞭ナリ然ルニ明治三十一年九月ニ至リ突然徵稅令發シ而モ同  
年四月ニ遡リ屠畜稅ヲ賦課徵收シタルハ不法ニ付之レカ取消ヲ要ムト云フニ在リ  
被告答辯ノ要旨ハ原告ハ從來屠獸營業ニ從事シ屠獸ヲ屠殺シテ其屠肉ヲ販賣セリ之ニ對  
シ屠畜稅ヲ賦課シタルハ違法ニアラス元來屠畜稅ハ明治二十二年廣島縣令甲第百二號屠  
獸賣肉取締規則ニ依リ許可ヲ得テ屠獸營業ヲ營ムモノニ對シ明治三十一年廣島縣令乙第  
十三號市部營業稅雜種稅課目課額ニ依リ賦課スルモノニシテ地方稅中屠畜稅ハ屠獸營業  
者ノ屠畜行爲ニ對シ賦課シ其屠肉販賣ノ行爲ニ對シテ賦課スルモノニアラス國稅營業稅  
ハ屠獸營業者ノ屠肉販賣ノ行爲ニ對シ賦課シ其屠畜行爲ニ對シ賦課スルモノニアラス二  
者共ニ屠獸營業者ノ負擔スヘキ課稅ナレトモ其課稅ノ目的物全ク相異ナレリ故ニ原告等  
既ニ屠獸營業者トシテ屠畜及屠肉販賣ノ二行爲ヲ具備スル以上ハ其屠肉販賣行爲ニ付國  
稅ノ賦課ヲ受クルト雖モ之レカ爲其屠畜ノ行爲ニ對シ地方稅ノ賦課ヲ受クヘキモノニア  
ラスト云フヲ得ス然ルニ原告ニ於テハ廣島縣ノ屠獸賣肉取締規則ニ依リ屠獸營業ハ獸  
類ノ屠殺ト屠肉販賣トノ二個行爲ヲ具備シタルモノニシテ其一ヲ缺クヲ許サ、ルヲ以  
テ原告ノ如キ國稅ノ賦課ヲ受クル屠獸營業者ニ對シ屠畜稅ヲ賦課スルハ二重ノ課稅ナリ  
ト云フト雖モ該取締規則ニ於テハ屠獸營業トハ必ス屠殺及販賣ノ二要素ヲ具備セサルヘ  
屠獸營業者ニ對スル課稅



カラス而シテ此二要素ヲ二個ノ行爲ト認メ居ルコトハ同規則ノ全般殊ニ第三章等ノ規定ニ依リテ明白ナリ即チ屠殺ニ從事セサルモノハ右第三章ノ規定ニ依リ御賣又ハ小賣商ノ免許ヲ受クルコトヲ得ルナリ而シテ原告ハ現ニ他人ヨリ生獸ヲ買入レ之ヲ屠殺シ其屠肉ヲ販賣スルモノニシテ二個ノ行爲ヲ併セ爲スヲ以テ販賣行爲ニ付テハ國稅ノ賦課ヲ受ケ屠畜行爲ニ付テハ屠畜稅ノ賦課ヲ受ケタルノミ決シテ重複ノ課稅ニアラス又原告ノ國稅ヲ收ムル屠獸營業者ニ對シテハ明治三十一年度ニ於テ屠畜稅ヲ賦課セサルコトニ縣會ニ於テ議決シ縣廳ニ於テモ之ニ決シタリト云フト雖モ決シテ然ラス明治三十一年度市部營業稅雜種稅課目課額中ノ屠畜稅ハ從來ト更ニ其規定ヲ異ニセサルノミナラス其收入金千圓以上タルト否トノ制限ヲ附シタル規定ナキヲ以テ其義務ノ由テ生スル點ハ更ニ從前ト異ナル所ナシ只三十一年度ノ地方稅收入豫算ハ從來ニ比シ大ニ減額シルハ當時豫算ニ少額ノ收入ヲ見込ミタルニ過キス抑納稅ノ義務ハ課目課額ノ規定ニ依リ定マルモノニシテ豫算金ノ多少ニ關係ヲ有セス故ニ課目課額ニシテ收入金千圓以上ノ屠獸業ニ賦課セサルコトヲ明定セサル限リハ依然地方稅屠畜稅ヲ納付スル義務アルナリ又明三十年四月六日第一三〇二號內務部長ヨリ郡市長ニ發シタル通牒ハ當時屠畜稅ニ疑問ヲ生シ俄カニ之ヲ決シ難キヲ以テ之レカ決定ニ至ルマテ其賦課ヲ止メシメタルニ過キサレハ之ニ依リ直ニ賦課ヲ廢シタルモノナリト謂フヲ得ス假ニ賦課ヲ廢セントスルニ出テタリトスルモノ內務部長ノ通牒ハ課目課額ノ規定ヲ變更スル效力無キヲ以テ之ニ依リ原告ハ課目課額ニ依リ

當然負擔スル納稅義務ヲ免ル、ヲ得ス若夫徵收ノ手續及其期日ノ如キハ被告ノ職權ニ屬スルヲ以テ徵收手續ノ寬濫徵收期日ノ遲速等ハ原告ノ納稅義務ノ有無ニ關係ナシ要スルニ本件課稅ハ違法ニアラサルヲ以テ原告ノ請求ハ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テハ第一明治廿二年廣島縣令第百二號屠獸賣肉取締規則第十二條ニ依レハ屠獸營業トハ第一條ニ定メタル獸類ヲ屠殺シ販賣スル者ヲ云フトアリテ屠畜ト賣肉トノ二行爲ヲ併セテ一人ニ營業セシメ二者分離シテ許可セサルヲ以テ屠畜稅ノ中ニハ賣肉ニ對スル稅金ヲ包含セルコト明白ナレハ一个年千圓以上ノ收入アリテ國稅營業稅ノ賦課ヲ受ケル屠獸營業者ニ屠畜稅ヲ賦課シタルハ營業稅法第三十六條ノ違犯ナリト云フト雖該縣令第三章ニ依レハ屠畜ヲ爲サスシテ單ニ御賣商小賣商ヲ營ムコトヲ許セルヲ以テ見レハ同令ハ屠畜業ト販賣業トテ分別スヘカラスト限リタルニアラスシテ販賣ヲ爲ス者ニアラサレハ屠獸業者トシテ屠畜ヲ營ムコトヲ許サスト定メタルニ過キス元來屠畜及販賣ハ二個別異ノ行爲ニシテ屠畜稅ハ屠畜行爲ニ對シテ屠獸業者ニ賦課スルモノナリ尤屠畜ハ販賣者ニアラサレハ之ヲ營ムコトヲ得サルニヨリ屠畜稅ノ負擔販賣者ニ歸スト雖御賣商小賣商ニシテ屠畜ヲ爲サル者ニハ屠畜稅ノ賦課無キヲ以テ見レハ屠獸業者ノ屠畜稅ハ其屠畜行爲ニ賦課シ販賣行爲ニ賦課スルモノニアラサルヤ明瞭ナリ然ラハ屠畜稅ノ中ニハ賣肉ニ對スル稅金ヲ含マス從ツテ屠獸業者ノ販賣行爲ニ賦課スル國稅營業稅ト重複セス第二廣島縣令明治三十一年度ニ

屠獸業者ニ對スル課稅



於テ國稅アル屠獸業ニ屠畜稅ヲ賦課セサルコト一定シタルモノタルヤ同年度ノ收入豫算前  
年度ニ比シテ著シク減少シタルト及内務部長ノ通牒ニ依リ明了ナリト云フト確地方稅ノ納  
稅義務ハ其課目課額ニ依リ定マリ豫算ハ歲計ノ見積ニ過キサレハ其増減ハ納稅義務ノ有無  
ニ關係ナシ故ニ本件納稅義務ノ有無ハ課目課額ノ定ムル所ニ依リ之ヲ決セサルヘカラス而  
シテ明治三十一年度ノ課目課額ニ付テハ國稅アル屠獸業ヲ除外シタリト認ムヘキ規定ナキ  
ヲ以テ一般ニ之ヲ賦課シタルモノト認メサルヲ得ス尤收入豫算屠畜稅ハ前年度ニ比シ著シ  
ク減額シタリト雖其減額ハ被告供述ノ如ク營業稅法ノ解釋如何ニ由リ屠畜稅ヲ賦課スルコ  
トヲ得サルニ至ルヤ測知スヘカラサリシヲ以テ不確實ノ收入ヲ省ク趣旨ニテ少額ニ見積リ  
シニ因ルト認ムヘキ要スルニ豫算ノ減額及内務部長ノ通牒ハ當時行政廳ニ於テ屠畜稅ノ徵  
收ヲ躊躇セシ事跡ヲ證スルニ止マリ其廢止ヲ確定セシモノト認メシムルニ足ラス其他縣會  
ノ議決ハ議事録ニ依テ證明スヘキ議長其他ノ者カ私ニ作為セシ證明書ハ信ヲ措クニ足ラス  
右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●村會議員選舉取消ノ訴 明三十二年第二十七號 明治三十三年二月二十八日判決 (請求不相立)

判決要旨

一、選舉人ノ選舉資格ハ確定名簿ニ登錄セラレタルト否ト  
ヲ問ハス選舉當時ノ現在ノ事實ニ依リ決ス可モノトス  
二、選舉人ノ階級ヲ誤マリタル選舉人名簿ニ依リテ執行シ  
タル選舉ハ無効ナリトス

說明

一本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 選舉人ハ分テ二級ト爲ス  
選舉人直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人金員ノ納ムル總額ノ中ニ當ル可キモノヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二  
級トス  
一級二級ノ間納稅額同級ニ降ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其町村  
内ニ住居ナル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ離キトキハ年數ヲ以テ年數ニ依リ離キトキハ  
町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ  
選舉人毎級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其被選人ハ同級内ノ者ニ限ラス兩級ニ通シテ選舉セラルコトヲ得(町村制  
第十三條)

原告 茨城縣新治郡玉川村長 山口小十郎 訴訟代理人 大久保端造  
被告 茨城縣選舉會 同縣知事 柏田盛文 訴訟代理人 杉浦正木

右原告玉川村長山口小十郎ヨリ被告茨城縣選舉會同縣知事柏田盛文ニ係ル村會議員選舉取  
選舉資格ノ額定期間



消不服ノ辨審理ヲ遂クル處

原告供述ノ要旨ハ明治三十一年四月三十日同年五月一日ニ執行シタル茨城縣新治郡玉川  
 村村會議員選舉ニ關シ縣外人山口五郎衛門外六名ヨリ其取消ノ訴願ヲ提起シタル結果被  
 告參事會ハ該選舉ヲ全部取消ス旨ノ判決ヲ與ヘタリ茨城縣參事會ノ裁決ニ依レハ玉川村  
 二級選舉人森戸仙之助カ宮崎家ノ戸主中同村内ノ小松新右衛門外九名ト共有セシ大字川  
 中子地内ノ田地二筆ハ舊慣アル水神祭田ニシテ字城ノ内坪ノ共有地ナレハ宮崎家ニ屬シ  
 仙之助カ同家ヲ離縁スルト同時ニ該地ノ所有權ヲ失シ乃チ町村制第七條ノ公民タル要件  
 ヲ失ヒタノモノナリトアレトモ該田地ハ明治二十七年中仙之助カ他ノ共有者ト共ニ新ニ  
 買入レタル地所ニシテ毫モ舊慣等ナキノミナラス字城ノ内坪ハ玉川村ノ一部落ニアラス  
 シテ地所ノ字名タルニ過キサレハ財産ノ主體ト成リ得ヘキモノニアラス而シテ民法實施  
 前ハ不動產ハ凡テ名義人ノ所有ト推定セラレ來リタレハ右地所ニシテ仙之助ノ名義タル  
 以上ハ依然仙之助ノ所有タルコトハ明白ナリ然ラハ該裁決ハ其根底ニ於テ大誤謬アルモ  
 ノナリ但仙之助ハ該選舉ニ於テ失敗シタル派ニ屬スル選舉人ナレハ彼カ後日ノ證明ノ如  
 キハ固ヨリ探ルニ足ラス同裁決第二ノ理由ハ無資格者タル森戸仙之助カ確定名簿ニ登載  
 セラレ選舉會場ニ於テ投票ヲナシタル事實アル以上ハ即チ規定ニ違背セル不正ノ選舉會  
 ナリト云フニアレトモ仙之助ノ選舉權アルコトハ前段辨明ノ如クナレハ此理由モ探ルニ  
 足ラス假ニ仙之助實質上選舉權ナシトスルモ之レカ爲メニ一旦確定シタル名簿其モノカ

全部無効タル理由ナキハ勿論ナリ又仙之助ニシテ確定名簿ニ登錄セラレタル以上ハ同  
 人ノ入場ヲ以テ選舉全部ヲ不正ナリト謂フヲ得ヌ町村制第二十一條ノ規定ハ選舉名簿ニ  
 登錄ナキモノカ選舉人ト共ニ混入スルコトヲ禁シタルモノニシテ本件ノ如キ場合ニ適用  
 スヘキモノニアラス要スルニ一ニ無資格者ノ入場ノ爲メ選舉全部ヲ取消ノ理由更ニアル  
 ヘカラス同裁決ノ第三ノ理由ハ仙之助カ選舉名簿ニ登錄セラレタルカ爲メ該名簿ハ町村  
 制第十三條ノ所謂選舉人ノ階級ニ異動ヲ及ホスヘキモノニ付隨テ一級ニ選舉トモ無  
 效ナリト云フニ在レトモ此理由モ前段辨明ニ依テ消滅スヘキモノナリ假ニ仙之助ニ選舉  
 權ナシトスルモ彼レカ納稅額ハ僅少ニシテ階級ニ異動ヲ生セス然ルニ被告ハ本訴ニ及ヒ  
 三級選舉人中櫻井藤三郎ハ其所有ノ地所ヲ櫻井藤四郎ニ讓與シタル爲メニ其資格ヲ失ヒ  
 尙又一級ニ選舉人中藤田久外九名ハ戶數割ヲ納メサルヲ以テ見ルモ戸主ノ同居者ニ  
 シテ獨立ノ實ナキモノナリ從ツテ以上無資格者カ選舉名簿ニ登錄セラレタルカ爲メ階級  
 ノ區別ニ異動ヲ及ホスモノナリトノ理由ヲ追加主張スレトモ櫻井藤三郎ノ土地讓與ハ明  
 治三十一年三月二十三日ニシテ其登記簿ノ通知カ村役場ニ到達シタルハ四月一日ナレハ  
 選舉名簿確定ノ後ニ係ル而シテ名簿確定後選舉前ニ於テ失格者ヲ生スルコトアルモ一旦  
 確定シタル名簿ヲ變更スヘキ規定ナクハ藤三郎ニ右讓與ノ爲メニ資格ヲ喪失シタルモ  
 ノニアラス又戶數割ノ納否ノ如キハ獨立ノ男子タル事實ヲ確ムル絕對ノ標準トナルヘ  
 キモノニアラス玉川村ハ戶主ト別居シテ生活スル者モ非戸主タルトキハ戶數割ヲ徵收セ

選舉資格ノ確定時期



サル習慣ナリ而シテ藤田久外九名ハ戸主ト同居セヌ又ハ經濟ヲ共通セヌ單獨ニ生活ヲ爲シ居ル事實ナレハ決シテ無資格者ト謂フヘカラス從ツテ階級ノ區別ニ異動ヲ生ストシ一級二級ノ選舉ヲ取消シタル被告ノ裁決ハ違法ナリ依テ之ヲ取消シ本件選舉ハ無効ニアラストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ新治郡玉川村二級選舉人森戸仙之助等ノ共有セル同村大字川中子地内二筆ノ田地明治二十七年中ニ仙之助等カ共有トシテ新ニ買入レタル地所ニシテ毫モ蓄積等無之依然仙之助ノ所有地ナリト云フモ前戸主ノ有セシ財産ハ特有財産タルノ證明ナキ限リハ法律上當然相續人ニ於テ承繼スヘキモノナリ况シテ該田地ハ從前ヨリ村持ナリシ地押調査ノ初協議ノ上金ニ替ヘテ村民各自ヘ配當スルニ際シ字城ノ内坪即チ宮崎仙之助等カ居住スル坪ニ於テハ協議ノ上之ヲ各自ニ配當セズ矢張り祭田トシテ坪持ノ共有地ニ持續スルコトトナシタルモノニシテ明治二十七年ニ至リ始メテ員塚作左衛門外一名ヨリ買入レシ如クナルモ其實ハ前肥坪持ノ地所ト員塚等ノ地所トヲ便宜ノ爲メ交換シタルモノナレハ其實質ニ於テハ矢張り從前ヨリ共有地ナルニ付其坪内ニ居住スル數人共有ノ祭田ナルコトハ毫モ疑ヒナキ事實ナレハ即チ蓄積ノ存スル地所ニシテ宮崎家ニ屬スルモノナリ然ルニ右仙之助ハ既ニ宮崎家ヲ離離シ其坪内ノ住民ニアラサルヲ以テ該共有權ヲ喪失セシハ當然ノ結果ナリト云フヘシ加之原告ハ仙之助ハ選舉失敗派ニ屬スルモノナレカ故ニ彼レカ後日ノ證明ハ探ルニ足ラスト云フモ仙之助ノ證明ハ自己ノ權利上不利

益ナルニモ拘ラス任意ニ該地所ノ所有權ナキコトヲ自白スルモノニシテ蓄積ノ事實ト符合セル以上ハ之ヲ排斥スヘキモノニアラス又原告ハ假令仙之助ハ實質上選舉權ヲ有スルトスルモ該選舉全部ヲ不正トスルノ規定ナシト云フモ選舉權ナキ森戸仙之助カ入場シ且又選舉ヲ爲シタル事實アルニ依リ町村制第二十九條ノ所謂選舉ノ規定ニ違背セル違法ノ選舉會ナリト云ハサルヲ得ヌ又原告ハ仙之助ノ村稅額ハ僅少ニシテ假令ニ之ヲ選舉權ナキモノトスルモ選舉人ノ階級ニ異動ヲ生セスト云フモ事實上ニ於テ原告ノ云フ如ク仙之助ノミノ納額ヲ控除セバ階級ノ區別ニ異動ナカルヘキモ元來被告ノ裁決ハ該選舉人名簿全體ノ上ニ於テ不正ト認メ兩級トモ無効ト裁決シタルモノニシテ單ニ仙之助ノミニ關係セシモノニアラス即チ該選舉人名簿ノ一級選舉人中藤田久外一名及二級選舉人櫻井藤三郎外八名附屬書類記載ノ如ク櫻井藤三郎ハ其所有地ヲ櫻井藤四郎ニ讓與シタル爲メ地所々有ノ要件ヲ失ヒ無資格者トナリタルモノナリ而シテ右讓與ノ登記ハ明治三十一年四月一日ナルニモ七日選舉ハ四月三十日ニアラタルモノナレハ選舉名簿未タ確定セサル以前ニ無資格者トナリタルモノナリ其他ノ十名ハ何レモ戸主ト同居シ獨立ノ實ナキコトハ戸數割ヲ納メサルヲ以テ見ルモ明白ナレハ即チ町村制第七條ノ公民タル資格ナキモノニシテ以上無資格者ノ納稅額ヲ算入シテ定メタル階級ノ區別ハ不法ニシテ之ヲ根據トセル不正名簿ニ依リ行ヒタル選舉ハ勿論無効ナリト謂ハサルヲ得ヌ然ラハ被告ノ裁決ハ相當ニシテ取消スヘキ理由ナキモノナレハ本訴ハ之ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ



依テ證據ヲ閱シ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
 本件ノ争點ハ多岐ニ亘レトモ其中森戸仙之助外十一名ハ無資格者ナリヤ否之ヲ無資格者ト  
 スレハ一級二級ノ選舉全體ヲ無効トスヘキヤ否ノ二點ヲ説明スルヲ以テ足レリトス第一點  
 ニ關シテハ原告ハ森戸仙之助外十一名ハ凡テ無資格者ニアラスト主張スレトモ仙之助ノ資  
 格ノ要件トナレル宇川中子地内ノ田地ニ筆ハ仙之助カ宮崎家ノ戸主中小松新右衛門外九名  
 ト共有セシ所ニシテ其共有權ハ仙之助ノ特有財產タル證據ナキヲ以テ仙之助カ宮崎家ヲ離  
 縁セシ後ハ宮崎家ノ相續人ニ移轉スルモノト見ルヲ相當トスルカ故ニ仙之助ハ其資格ノ要  
 件タル共有權ヲ有セザリシモノナリ櫻井藤三郎ハ所有地ヲ櫻井藤四郎ニ讓渡シ選舉ノ當時  
 土地ノ所有權ヲ有セザリシコトハ當事者間ニ争ヒ無キ所ニシテ選舉人ノ資格ノ有無ハ選舉  
 當時ノ現在ニ依リ決スヘキモノナレハ藤三郎モ亦無資格者ナリ而シテ藤田久外九名ハ勤レ  
 モ戸數割ノ賦課ヲ受ケサルモノタルハ原告告異議ナキ所ニシテ甲第七號證玉川村助役ノ證  
 明ハ一般ノ慣行ニ反シ信用スルニ足ラザレハ一戸ヲ構フルノ實ナク町村公民タル資格ヲ具  
 ヘザリシモノト認定ス第二點ニ關シテハ森戸仙之助外十二名カ無資格者タルニ於テハ其納  
 税額ハ選舉人ノ總納税額ヨリ控除スヘキモノニシテ之ヲ控除スルトキハ階級ノ區別ニ異動  
 ヲ生スルコトハ原告告争ヒナキ所ナリ然ラハ本件選舉ハ不正ノ階級區別ニ基キ行ヒ町村制  
 第十三條ノ規定ニ違背セルモノナレハ被告ニ於テ一級二級共ニ之ヲ無効トセシハ違法ニア  
 ラス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ  
 原告ノ請求相立タス  
 訴訟費用ハ原告ノ負擔トス  
 縣會議員選舉無効ノ決定不服ノ訴 明治三十二年第八十二號  
 縣立ニ關スル 明治三十三年三月七日判決 (竊却)

**判決要旨**  
 選舉ノ効力ニ關シ行政訴訟ノ提起アリ之ニ對スル判決確  
 定シタル以上ハ同一ノ選舉ニ對シ他ノ原告ヨリ出訴シタ  
 ル同一ノ請求ハ之レヲ受理スヘキモノニアラス

凡○行○政○裁○判○ノ○實○質○ハ○行○政○監○督○ニ○ア○リ○普○通○ノ○行○政○監○督○ハ○上○級○官○府○カ○命○令  
 ○ヲ○發○シ○テ○之○ヲ○行○フ○處○ナリト雖モ行政裁判ニ於ケル行政監督ハ即チ審判ノ  
 ○法○方○ニ○依○テ○之○レ○ヲ○爲○ス○二○者○各○其○ノ○形○式○ニ○於○テ○異○ナル○所○アリト雖モ其ノ實  
 ○質○ニ○至○テ○ハ○則○チ○一○ナリ果シテ然ラハ先キニ一定ノ事項ニ對シ行政訴訟ヲ  
 ○提○起○シ○之○レ○ニ○一○定○ノ○監○督○行○ハ○レ○タ○ル○ニ○モ○不○拘○ス○更○テ○一○同○一○事○件○ニ○對○シ○同  
 ○一○ノ○請○求○ヲ○爲○ス○ハ○即○チ○一○ク○ノ○事○件○ニ○付○キ○同○一○ノ○監○督○ヲ○再○ヒ○請○求○ス○ル○モ○ノ  
 ○ニ○シ○テ○其○ノ○違○法○ナ○ル○コ○ト○勿○論○ナリトス

同一ノ事項ニ對シ同一ノ請求ヲ目的トスル再度ノ訴訟提起



青森縣四津輕郡舞戶村  
原告 月永長藏  
被告 青森縣知事  
宗像 政

右原告月永長藏ヨリ被告青森縣知事宗像政ニ對スル縣會議員當選無効ノ異議申立ニ關スル決定不服ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ明治三十二年九月十七日西津輕郡役所ニ開キタル西津輕郡選出ニ係ル青森縣會議員選舉會ニ於テ原告及長谷川啓次郎市田兵七ノ三名當選シタルヲ以テ原告ニ對シ同郡長ヨリ府縣制第三十一條ニ基キ當選ノ告知アリタルニ依リ直ニ當選承諾ノ旨ヲ被告知事ニ届出タリ然ルニ本縣西津輕郡水元村大字野本寺山藤右衛門外壹名ヨリ選舉ノ效力ニ關スル異議ノ申立ヲ爲セシニ被告ハ之ニ對シ第壹號證ノ通リ原告ノ當選ヲ取消更ニ小林隼人ヲ最高票者トシテ當選者トスヘキ旨決定ヲ爲セリ其決定ノ要旨ハ西津輕郡縣會議員選舉會ニ於テ投票調査中「小林ハヤ人」トアル投票ハ取りモ直サス當時縣會議員候補者タリシ小林隼人ヲ指示シタルモノナルニモ拘ハラヌ選舉立會人ニ於テ小林隼人ト「小林ハヤ人」ト別箇ノ異人トシテ其得點ヲ各別ニ定メタルハ不當ノ決定ナリト云フニアリト雖モ抑公法上諸般ノ選舉ヲ爲スニ當リ選舉ノ效力ヲ決定スルニハ最モ正確ニシテ最モ公明ナラサルヘカラス徒ニ比附援引若クハ推測臆斷等ノ間接ノ推理ヲ以テ之ヲ裁斷スルヲ得ヘキモノニアラス况ニ權利ニ關スル貴重ノ選舉投票ヲ査定スルニ際シ一見シテ

何人ヲ指示セタルモノナルカ明確ナルトモハ旨ヲ待タスト雖モ本件ノ如ク「小林ハヤ人」ナル投票ノ如キハ他ニ「小林ハヤ人」即チ「小林ハヤヒト」ト稱スル類似ノ氏名ヲ有スルモノナシト斷定シ能ハサルヲ以テ該投票ハ理ニ於テ「小林隼人」ヲ指示シタルモノト認定スルヲ得サルハ明瞭ナリ何トナレハ公法上私法上ノ權義關係ニ於テ人ノ同一ヲ表スルニハ其姓名ヲ明記セサルヘカラサルヲ法令及慣行ノ命スル所ナリ是レ畢竟スルニ別人ニシテ異字同稱又ハ同姓名ノ者往々之レアルヲ以テ之カ混同ヲ避ケシメ以テ其權利義務ノ存在ヲ明カニシタル原理ニ外ナラス故ニ投票ニ表示スル處ノ文字カ明カニ甲者ヲ記載シタルモノニアラサル以上ハ其投票ニ表示シタル氏名ノモノヲ投票シタルモノト認定スルハ最モ公明ニ最モ正確ニシテ人權ヲ重ニスルノ今日ニ於テ將ニ爲スヘキノ至當ナル處置ト謂フヘシ尤モ小林隼人ニ於ケル「隼人」ナル文字ハ「隼」ノ字ト「人」トノ二字相結合シテ始メテ「ハヤト」ト讀マサルヘカラサル熟語ナルハ古來ノ史籍ニ徴シテ明カナリ然リ何ヲ以テカ「ハヤ人」トアルヲ「隼人」ト讀下スルヲ得ン即チ「ハヤ人」ハ「ハヤヒト」ト讀ムノ正當ニシテ之ヲ文字ニ譯スルハ「早人」トナルヘキハ普通一般ノコトナリト然リト雖モ被告ニハ「小林ハヤ人」トアル投票ハ當時縣會議員候補者タリシ「小林隼人」ノ「隼」ノ一字ヲ假名ニテ記シタルニ止リ一見其小林隼人ヲ指シタルコト明瞭ナルヲ以テ同人ノ得點ニ歸スヘキモノナルニ依リ小林隼人ノ得點二百六十六ニ右「小林ハヤ人」ト記セルモノ二百九十八ヲ加フルノ適法ナルヲ主張セル而已ナラス且候補者ニアラサル者ハ選舉セラル、ニア

同一ノ事項ニ對シ同一ノ請求ヲ目的トスル再發ノ訴訟提起



ラサルカ如キ意思ヲ陰ニ冒明セリ實ニ憶測モ亦甚タシト云ハサルヘカラス蓋シ候補者ナ  
ルモノハ法律ノ認メサル所ナルヲ以テ法律上排斥ノ理由ト爲スニ足ラサルハ勿論殊ニ府  
縣制第六條第一項ニ府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其府縣内  
ニ於テ一年以來直接國稅年額拾圓以上ヲ納ムルモノハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ストノ  
規定アレハ市町村會議員ノ選舉ト異ナリ其區域廣濶ニシテ一縣下ニ涉レルヲ以テ青森縣  
内何レノ郡市町村ニ「小林ハヤ人」則チ「小林ハヤヒト」ナルモノノ換言スレハ「小林早人」ナ  
ルモノナシト單純ナル斷定ヲ下スト能ハス何トナレハ現ニ同選舉會ニ於テ明カニ「小  
林早人」ト記シタル投票アリタルハ當時ノ選舉條及投票ニ徴シテ事實明瞭ナリ是レ「小林  
集人」ヲ指示シタルモノニアラスシテ「小林早人」ナルモノヲ指示投票シタルノ主旨タル  
ヤ論ヲ俟タス故ヲ以テ當時同選舉會ニ於ケル選舉立會人ニ於テハ「小林ハヤ人」即チ「小  
林早人」ヲ一個ノ被選舉人ト確認シタル所以ニ外ナラサルナリ以上ノ理由ナルニ依リ西  
津輕郡選出縣會議員選舉會ニ於テ選舉立會人ノ決定ニ係ル「小林ハヤ人」ナル投票ヲ「小  
林集人」ト別個ノ異人トシテ「小林集人」ノ得票ヲ二百六十六點ニ「小林ハヤ人」即チ「小林  
早人」ノ得點二百九十八點ニ各別ニ計算表示シ得點ノ多少ヲ比較シテ原告及長谷川啓次  
郎市田兵七ノ三名ヲ當選者ト定メ小林集人ヲ次點者トシタルハ適法ノ處置ナレハ被告青  
森縣知事ニ於テ明治三十二年十月一日與ヘタル決定ニ對シ服從スルコト能ハサルニ依リ  
之ヲ決定ヲ取消サレシコトヲ求ムル所以ナリ依テ明治三十二年十月一日被告ニ於テ原告

ニ對シ青森縣會議員ノ當選ヲ無効トシ次點者タル小林集人ヲ當選者ト決定シタル其決定  
ヲ取消シ原告ノ當選有效ナリトノ裁判ヲ請フト云フニ在リ  
被告答辯ノ要旨ハ原告ハ縣會議員ノ選舉區域ハ一縣下ニ涉レルモノナルヲ以テ「小林ハ  
ヤ人」ナルモノナシト斷定スヘカラサルモノナルニ被告ハ「小林ハヤ人」トアル投票ヲ以  
テ「小林集人」ノ得點ニ加ヘ最多數ノ得點者ト爲シ原告ノ當選ヲ無効トシタルハ不當ナリ  
ト謂フト雖「小林ハヤ人」ト記セル投票ハ「小林集人」ナル「集」ノ一字ヲ片假名ニテ記シタ  
ルニ過キヌシテ同一ノ人タルコト明ナルノミナラス原告カ證據トシテ提出セル被告ノ決  
定書ニ說明セル如ク當時縣會議員ノ候補者トナリ選舉ヲ爭ヒタルハ小林集人、長谷啓次  
郎、市田兵七及原告ノ四人ニ止マルコトハ明白ナル事實ニシテ而シテ候補者中ニ「小林  
ハヤ人」ト書スル人ナキハ勿論青森縣下ニ該氏名ノモノアルヲ聞カサレハ其投票ヲ以テ  
小林集人」ノ得點ニ加フルハ相當ナルニ依リ有效投票ノ多數ヲ得タル小林集人ヲ當選者  
ト定メ原告ノ當選ヲ無効トシタル被告ノ決定ハ不當ニアラスト信ス依テ原告ノ請求相立  
タストノ裁判ヲ請フト云フニ在リ  
依テ判決ノ理由ヲ說明スル左ノ如シ  
原告ハ被告カ原告ニ對シ青森縣會議員ノ當選ヲ無効トシ次點者タル小林集人ヲ當選者ト決  
定シタルハ不當ナルニ依リ該決定ヲ取消シ原告ノ當選有效ナリトノ裁判ヲ請フト云フト雖  
本訴所爭ノ決定ニ關シテハ疊ニ山下兼次郎ナル者ノ提起セル明治三十二年第一百十五號訴訟  
同一ノ事項ニ對シ同一ノ請求ヲ目的トスル再度ノ訴訟提起



事件ニ對シ同年十一月二日ヲ以テ宣告シタル當裁判所ノ判決ニ依リ其決定ヲ適法ナリトシ  
原告ノ當選ヲ無効ナリト決定シ其判決ハ既ニ確定セリ而シテ本件ハ原告其人ヲ異ニスルキ  
要スルニ右第百十五號件ト同一ノ事件ニシテ原告ノ請求モ亦同一ノ請求ニ外ナラスサレハ  
本訴請求ハ之ヲ採用スルノ限ニテラヌ  
右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ  
本訴之ヲ棄却ス  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●村會議員選舉効力ニ關スル訴 明治三十三年第七十八號 明治三十三年二月十四號 告 (請求不相立)

判決要旨

- 一、選舉投票ニ殿トウ文字并ニ「何村會議員候補者」ノ文字及「ヒ」ノ文字ヲ記入シ若クハ「柴崎」ノ文字ヲ塗抹シ「太平米治」下記シタルハ他事記入ノ投票ト云フヲ得ス
- 二、町村制第二十三條第四號ニ所謂他事ノ記入トハ選舉ニ有害ナル記事若クハ必要ナキ雜事ヲ記入スルヲ謂フ

說明

本件ハ說明ヲ要セズ

(參照) 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ(町村制第二十三條第四號)

原告 福島縣石城郡赤井村大字 田字上ノ前二番地 柴崎源吉 訴訟代理人 小川平吉

被告 福島縣知事 山田春三

右原告柴崎源吉ヨリ被告福島縣知事山田春三ニ係ル村會議員選舉効力ニ關スル訴原告ノ辯論ヲ聽キ被告ノ答辯書ヲ閱シ審理ヲ遂ケル處

原告供述ノ要旨ハ明治三十一年七月一日執行シタル赤井村會議員定期改選ニ級選舉ニ於テ七十點ノ得票者タル大平米治ニ對シ八十票即チ十八票ノ高點ヲ以テ原告當選者ト決セラレタリ然ルニ大平米治外一名ノ新願ノ結果被告ハ右選舉會ニ於テ無効ト決セシ投票ノ中殿ノ字ヲ記載セル十九票ノ字ヲ記載セル一票亦赤井村會議員候補者ト記載セル一票柴崎源吉ニ其傍ニ大平米治ト記載セル一票ヲ大平米治ノ得點ニ歸スヘキ有效投票ナリトシ原告ノ當選ヲ取消シ大平米治ヲ以テ當選者ナリト裁決セシハ不法ナリ抑投票ニ尊稱ヲ記入スルコトハ同シ地方制度タル府縣制郡制ニ於テ明ニ之ヲ許シナカラ獨リ町村制ニ至テハ然ラス蓋シ幼穉ナル町村自治ニ於テ若シモ他事記入ヲ許サハ選舉取締上緊難ヲ來スニミナラス敬稱ノ文字ニ或意味ヲ含有セシメ雙方ノ合意ヨリスレハ便宜ニ一ノ符合トシテ使用スルコトヲ得ルモノナリ而シテ赤井村會議員ノ選舉タル從來頗ル平穩ナリシカ本期投票他事記入ノ意義



選舉ニ至リ甲乙兩派互ニ候補者ヲ選定シ大ニ競争ヲ爲シタル結果前頭ノ如ク殿ノ字、赤井村會議員候補者、ノノ字ノ符合ヲ付シ若クハ柴崎ヲ塗抹シテ大平米治ト記載スル如キ種々符合アル投票ヲ見ルニ至レリ加之是等種々異様ノ投票ハ同一筆跡ヲ以テ一派ノ候補者タル大平米治ヲ選舉シタルモノ、ミニ限リシハ奇怪ナル現象ニシテ誰カ疑ハサラント欲スルモ得ヘクヤ是レ秘密投票ノ性質ニ相反スルノミナラス選被選人カ或契約上ヨリ選舉上有害ナル意味ヲ以テ爲シタル所爲ナルヲ明瞭ナリ若シ夫レ選舉ニ害ナキ文字ハ總テ不問ニ付スヘキモノトセハ實ニ恐ルヘキ害毒ヲ來スヤ未ダ知ルヘカラス然ルニ被告ハ之ヲ有效投票トセシハ不當ニ付キ其取消ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ本件選舉投票中殿、赤井村會議員候補者若クハメノ字ヲ記シタルモノ及セ柴崎ノ二字ヲ塗抹シタルモノアルハ契約上或意味ヲ表示シタルモノナレハ秘密投票ノ性質ニ違反スル無効ノ投票ナリト云フト確該記入ハ選舉ニ害アル記事若クハ選舉ニ必要ナキ雜事ヲ記入シタルモノト認メ難ク隨テ町村制第二十三條第二項ノ四ニ該當スル無効投票ナリト云フヲ得ヌ又柴崎ヲ塗抹シ大平ト記シタル如キハ選舉人其誤記ヲ訂正シタルモノナルコトヲ認ムルヲ得ヘクメノ字ヲ記入シタル投票ハ選舉人ニ於テ豫想ノ被選舉人氏名ヲ列記シ終リタルノ意義ヲ示スノ外何等不正ノ記載ヲ爲シタルモノト認ムルニ由テシ秘密投票タルノ性質ヲ害セサルモノトス要スルニ被告ノ裁決ハ毫モ取消スヘキ理由ナキヲ以テ原告ノ請求ヲ排斥セラレタリト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テハ殿ノ字赤井村會議員候補者ノ字及ヒ「メ」ノ字ヲ記入シタル投票並ニ柴崎ノ字ヲ塗抹シ傍ニ大平米治ト記シタル投票二十三點ハ他事記入ノ投票ニシテ無効タルノミナラス右文字ハ選舉人被選舉人ノ間ニ於テ一種ノ意味ヲ含マシメタル記號ニ使用セシモノニシテ秘密投票ノ規定ニ違反スト主張スレトモ秘密投票ノ規定ヲ破ル目的ニテ記號ト爲セシヤ否ヤハ該投票其モノ、ミヲ以テ之ヲ認ムルニ由テク其他ニ證據ノ微スヘキモノナキヲ以テ秘密投票ノ規定ニ違反シタルモノト見ルヲ得ヌ而シテ殿ノ字ハ被選人ニ對スル敬稱ヲ用非タルニ止マリ赤井村會議員候補者ノ文字ハ被選人ト記シタルニ同シク其現在ノ位地ヲ示シタルマテニシテ「メ」ノ字ヲ記入シ若シクハ柴崎ノ字ヲ塗抹シテ大平米治ト記シタル如キハ被告答辯ノ如ク一ハ被選人ノ氏名ヲ列記シ終リタル意ヲ表ハシ一ハ被選人ノ氏名ヲ正誤シタルニ過キス抑町村制第二十三條第四號ニ規定スル他事記入トハ選舉ニ有害ナル事項若クハ選舉ニ必要ナキ雜事ヲ記入シタルヲ云フモノニシテ本件投票ノ文字ノ如キハ之ニ該當セザレハ之ヲ無効ノモノナリト謂フヲ得ヌ然ラハ被告ノ裁決ハ相當ニシテ之ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立ヌ

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

投票他事記入ノ無効



●縣會議員當選ニ關スル決定取消ノ訴

明治三十二年第九十三號  
明治三十三年二月十四日宣告

(請求不相立)

百二十八

判決要旨

- 一、知事ハ縣會議員ノ選舉ノ効力ニ關シ異議アルキハ當選書交附ノ後ト雖モ之レヲ府縣參事會ノ裁決ニ附スルコトヲ得
- 二、名譽職參事會員ハ市制第六十九條ニ依リ市長ノ職務ヲ補助スヘキモノナルヲ以テ府縣制第六條ノ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ナリトス
- 三、市制第六十九條ニ所謂市長ノ職務中ニハ市ノ固有事務ト他ノ委任事務トヲ問ハス總テ之ヲ包含ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 府縣知事ニ於テ選舉若クハ當選ノ効力ニ關シ異議アルキハ第一項中並ノ有無ニ拘ラス第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得(府縣制第三十四條第三項)  
選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セザル者亦同(府縣制第六條第八項)

九十二

市參事會員ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキ之ヲ代理ス(市制第六十九條第一項)

九十三

原告 三重縣知事 內多正雄 訴訟代理人 鈴木充美  
被告 小倉信近 訴訟代理人 大山元史

右原告內田正雄ヨリ被告三重縣知事小倉信近ニ對スル縣會議員當選ニ關スル決定取消ノ訴  
審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ明治三十二年十月三重縣々會議員選舉ニ際シ原告ハ同縣津市選舉區ニ於テ大多數ノ投票ヲ得縣會議員ニ當選シタルヲ以テ津市市長ハ十月十日當選ノ告知ヲ爲シ十月十六日被告知事ハ當選證書ヲ原告ニ與ヘタリ然ルニ被告ハ其後十月二十八日ニ至リ別紙附屬一號證ノ如ク當選無効ノ決定ヲ與ヘタルモ原告ハ之ニ服スル能ハサルヲ以テ茲ニ出訴ニ及ヒタリ今其理由ヲ敘述センニ第一府縣制第三十四條ニ當選ノ効力ニ關スル異議云々トアルハ投票多數ヲ得當選ノタルモ未タ當選證書ノ交附ヲ受ケス從テ議員タル資格ヲ有セサル場合ニ於ケル爭議ヲ決定スヘキ條項ニシテ本件ノ如キ既ニ知事ヨリ當選證書ヲ受ケタル場合ニハ當選人ハ既ニ縣會議員ノ資格ヲ得タルヲ以テ決定ノ如何ニ拘ラズ其確定ニ到ル迄ハ會議ニ列席シ發言スルノ權ヲ有スルモノナルガ故ニ若シ假ニ被選舉權ヲ有セサルモノトセハ同制第三十七條ニ依リ決定ヲ與フヘキモノナルニ其第三十四條ニ依リ處分シタルハ不當ナリトス第二被告ハ市制第六十九條ニ依リ參事會員ハ市長ノ職

選舉効力ニ關スル異議

百二十九



務ヲ補助シ市長故障アルトキハ其代理ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ選舉事務ニ關係アル吏員ナリト云フモ府縣制第六條ニ所謂選舉事務ニ關係アルトキハ當選人自ラ其事務ノ執行ニ從事スルモノヲ指示シタル意ニシテ其事務ニ關係アル吏員ヲ補助スヘキコトアルヘキ吏員即チ最モ間接ノ關係ナル參事會員マテテ含蓄スルモノト云フヲ得ス又市制第六十九條ノ前段ニ所謂市長ノ職務ヲ補助ストハ同制ニ規定シタル市長固有ノ職務ヲ補助スヘキ謂ニシテ本件ノ如キ縣會議員選舉事務ニ到ル迄補助スヘキ謂ニアラス明治二十一年內務省ノ頒布シタル市制理由書ヲ閱スルニ其市參事會ノ部ニ市長固有ノ事務ト委任事務トヲ區別スヘキモノトシ市制第七十四條ニ列載スル委任事務ハ參事會員ノ參與ヲ受クシテ市長之ヲ專行スルモノトセリ右第七十四條ヲ閱スルニ其第壹項第三號ニ「國ノ行政並ニ府縣ノ行政ニシテ市ニ屬スル事務」トアリテ府縣ノ爲メ其議員選舉ヲ執行スルハ府縣ノ行政ニ關スルモノニシテ市長固有ノ事務ニアラス從テ市參事會ノ參與スヘキ事柄ニアラサルカ故ニ縣會議員選舉ニ關シテハ參事會員ニ固ヨリ市長ノ職務ヲ補助スヘキモノニアラス又之ヲ代理スヘキモノニアラサルナリ果シテ然リトセハ被告カ市制第六十九條ヲ引用シ原告ニ被選舉權ナシト決定シタルハ不當タルヲ免レサルナリ依テ被告カ明治三十二年十月二十八日ヲ以テ原告ノ當選ヲ無効トセル決定ヲ取消サレタシト云フニ在リ被告答辯ノ要旨ハ第一原告ハ被告ニ於テ既ニ原告ニ對シ縣會議員當選證書ヲ交付シタル以上ハ假リニ原告ニ被選舉權ナシトスルモ其決定ハ府縣制第三十七條ニ依ルヘキモノニ

シテ同第三十四條ニ依ルヘキモノニアラスト主張スレトモ當選證書ナルモノハ異議ノ有無如何ニ拘ハラズ當選者其當選ヲ承諾シタルトキハ直ニ之ヲ交付スヘキモノナルコト同第三十四條ニ依リ明瞭ナレハ第三十四條ニ謂フ處ノ異議ナルモノハ特リ當選證書交付前ニ屬スルモノニミ限ルヘカラサルヲ勿論ナリ若シ然ラスシテ之ニ限ルヘキモノトセハ當選證書交付後ハ知事ニ於テ選舉ノ效力ニ異議アリ若クハ一般選舉人ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ異議アル場合ト雖モ之ヲ提出スルノ途ナク同第三十四條ニ於テ認メタル異議申立ノ權利ハ府縣知事ノ行爲ニ依リ半ハ之ヲ失フノ實ヲ呈ススヘシ故ニ第三十四條ハ第三十三條トノ關聯上縣會議員タルヘキモノニモ之ヲ適用シ得ヘキモノト解釋スヘク且其規定ノ趣旨ヲ以テ之ヲ見ルルハ同條ノ期限内ニ在ツテハ即チ先ツ之ニ據ルヲ至當ト認メサルヲ得ス第二、原告ハ府縣制第六條中ニ謂フ所ノ選舉事務ニ關係アルトハ當選人自ラ其事務ノ執行ニ從事スル者ヲ指示シタル意ニシテ市參事會員ノ如キ補助員ヲ合著セズ又市制第六十九條ニ於テ市長ノ職務ヲ補助ストアルハ市長固有ノ職務ヲ補助スルノ謂ニシテ市制第七十四條ニ列載スル委任事務ノ如キハ市參事會員ノ參與スヘキ者ニアラスト主張スレトモ府縣制第六條第八項ハ其規定スル所明白ニシテ苟モ選舉事務ニ關係アルモノナランニハ其主タル責任者タルト補助員若クハ代理者タルトヲ問ハサルコト明瞭ナルヘク又市制第六十九條ノ如キモ市長固有ノ職務ニ限ルトスルノ明文ナキ限リハ同第七十四條ニ列載スル委任事務ト雖モ補助若クハ代理スヘキノ職責アルコト敢テ啖クテ須カス現



ニ參事會員タル助役ノ如キ該事務ニ從事シツ、アルコトハ萬目等シク認ムル所ノ事實ニシテ而カモ是第六十九條ノ適用ノ結果ニ外ナラザレハ原告ノ所論其當ヲ得ルモノト云フヲ得ス原告ハ市制理由書ヲ援引シ委任事務ハ參事會員ノ參與スヘキニアラストスルノ記載アリト稱スレトモ該理由書ニ記スル處ハ唯參事會タル團體參與ヲ受クルナシトスルノ趣旨ニ止リ一會員ノ資格ニ於テ補助者クハ代理ヲナスヘキ市制第六十九條ノ規定ト相關スル處ナクハ是亦失當ノ論告タルヲ免レス依テ原告ノ請求ヲ棄却セラレタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ第一府縣制第三十四條ニ當選ノ效力ニ關スル異議云々トアルハ當選後未タ當選證書ヲ受クス隨テ議員タル資格ヲ得サル場合ニ於ケル爭議ヲ決定スヘキ旨趣ニシテ本件ノ如キ既ニ當選證書ヲ受ク隨テ議員タル資格ヲ得タル場合ニ於テハ第三十七條ニ依リ決定ヲ與フヘキモノナリト云フト雖モ第三十四條第三項ニ依リハ府縣知事ハ當選ノ效力ニ付キ異議アルトキハ一定ノ期限内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得ルモノナレハ該法定期限内ニ在リテハ當選書交付後ト雖モ第三十四條ニ依リ決定ニ付スルコトヲ得ルモノト解釋セザルヘカラス而シテ本件ハ右期限内ニ付議シタルモノナレハ法定ノ手續ニ違背セス第二原告ハ府縣制第六條中ニ選舉事務ニ關係アル直員トハ其事務ノ執行ニ從事スル者ヲ指稱スル旨趣ニシテ市參事會員ノ如キ補助員ヲ包含スルモノニアラスト主

ナリトス

行政訴訟ノ之レヲ國家ノ方面ヨリ見ルトキハ行政監督ニシテ之レヲ一私人ノ方面ヨリ觀察スルトキハ人格權即チ自存目的ノ主張ニ外ナラス而シテ一私人ハ自己ノ人格權ヲ主張スルノ權能ヲ有スレトモ他人ノ人格權ヲ主張スルノ權能ナシ本件ノ場合ニ於ケル行政訴訟ノ提起ハ被選舉者ニ對シ行ハレタル裁決ニ對スル不服ノ申立ナルカ故ニ此ノ訴訟ノ提起ハ論理上被選舉者ノ爲スヘキ人格權ノ主張ニ屬ス故ニ之レカ訴訟提起ノ當事者タルモノハ唯被選舉人ニ限ルヘキハ當然ナリトス

(參照) 本條郡參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ(得郡制第二十六條第四項)

原 告 熊本縣八代郡太田町大字 松江七百四拾三番地 平民 廣田 久恒 外五名

被 告 熊本縣知事 熊本縣知事 久恒 純 訴訟代理人 香山 豐 熹

右原告廣田長藏外五名ヨリ被告熊本縣知事廣田久恒純ニ對スル郡會議員被選舉資格ニ付知事ノ裁決不當ノ訴審理ヲ遂シル處

行政訴訟ノ當事者



原告陳述ノ要旨ハ被告熊本縣知事徳久恒範カ與ヘタル裁決ノ要領ハ凡ソ町村助役ハ實際  
選舉事務ヲ分掌スルト否トニ拘ラス町村長事故アルトコハ之カ代理ヲナスヘキモノニシ  
テ本村郡會議員選舉ノ事務ハ事實村長ニ於テ取扱フモノトスルモ若シ村長事故アリテ缺  
勤スル場合アルニ於テハ助役ハ法律ノ命スル所ニ隨ヒ何時タリトモ其事務ヲ代理セサル  
ヲ得ス既ニ村長ノ代理ヲ爲ス場合アリトスレハ其ノ代理事務ハ必スシモ選舉事務以外ニ  
限ル可キモノニアラサルナリ果シテ然ルトキハ助役ハ選舉ノ事務ニ關係アル吏員ニシテ  
被選舉權ナキハ當然ナリト裁決セリ然ルニ郡制第六條第八項ハ單ニ選舉事務ニ關係アル  
吏員トアリテ初メヨリ吏員其ノモノ、職名ヲ指示セズ故ニ町村助役及書記ノ如ク尙モ其  
ノ選舉事務ニ實際關係セサルモノハ被選舉權ヲ有スルヤ明カナリ依テ原告人等ハ野田普  
ヲ選舉スルニ當リ豫メ太田郷村長ニ照會シテ毫モ選舉事務ニ關係セサル事實ヲ確メ且ツ  
八代郡長ヨリハ別紙第一號書ニ對スル第二號證ノ通り同一ノ見解ヲ得タリ而シテ被告ニ  
於テハ町村助役タルモノハ實際選舉ノ事務ヲ分掌スルト否トニ拘ラス町村長事故アルト  
キハ何時タリトモ之カ代理ヲナスヘキモノナリトノ論點ニ依リ野田普ハ被選舉權ナキモ  
ノト斷定セシハ其見解ヲ誤リタルモノト云ハサルヲ得ス依テ前裁決ヲ取消シ更ニ合法ノ  
判決ヲナシトテ請コト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ被告ニ於テ本件訴訟ヲ排斥シタルハ被告カ與ヘタル判決書ニ其理由ヲ  
悉セルヲ以テ茲ニ費セズト雖モ原告ニ於テ郡制第六條第八項ハ單ニ選舉事務ニ關係アル

吏員トアリテ職名ヲ指示セサルカ故ニ被選舉權ノ有無ハ事實選舉事務ニ關係スルト否ト  
ニ依リ區別スヘキモノト論スルハ誤解ノ甚敷モノニシテ元來町村助役ナルモノハ町村制  
第七十條ニ依リ町村長ノ事務ヲ補助シ及町村長故障アルトキ之ヲ代理スヘキモノニシテ  
則法律ノ命スル所ニ依リ選舉事務ニ參與スヘキ者ナルヲ以テ町村長ノ命令等ニ依リ始メ  
テ分掌事務ノ責任ヲ有スルカ如キ吏員トハ全ク其性質ヲ異ニスルモノナリ又原告ニ於テ  
提出シタル八代郡書記ノ回答書ハ單ニ法文ノ解釋上同書記ノ意見ヲ述ヘタル迄ニシテ之  
ニ依リ法律ノ主旨ヲ變更セラル、モノニアラス依テ本訴ハ排斥セラレタシト云フニ在リ  
依テ理由ヲ説明スル左ノ如シ

本件原告等ハ郡會議員野田普ノ被選舉權ノ有無ニ付被告ノ與ヘタル裁決ヲ不當トシテ出訴  
シタルモノナルモ郡制第二十六條第四項ニ依リ訴訟ヲ爲スコトヲ得ルモノハ被選舉權ナ  
キモノト決定セラレタル郡會議員野田普本人ニシテ其者以外ノ原告等ヨリハ訴訟訴訟ヲ爲  
スコトヲ得サルモノトス

不當裁決取消請求ノ訴

明治三十三年四月十九號  
明治三十三年六月二日宣告



判決要旨

一、町村助役ハ町村長ト同シク選舉事務ニ關係アル吏員ナリトス

二、郡制第六條中選舉事務ニ關係アル吏員トハ必スシモ實際ニ於テ選舉事務ニ關係セシ吏員ノミヲ指スモノニアラス

說明

町村助役ハ法律ノ規定ニ依リ町村長ノ事務ヲ補助スル職務ヲ有ス故ニ法律上ヨリ論ズルトキハ助役ハ常ニ町村長ノ職務執行ニ關與スルモノト云ハサルヲ得ス郡制第六條中選舉事務ニ關係アルモノトハ單ニ事實上之レニ關與シタル吏員ノミヲ指スニアラス助役ノ如キ法律ノ規定ヲ以テ町村長ノ職務執行ヲ補助スルノ任務ヲ負擔スルモノハ實際ニ於テ之ニ關與シタルト否トヲ問ハス常ニ之ニ關係ヲ有スルモノト云ハサルヲ得サルナリ

(參照) 選舉事務ニ關係アル吏員ハ其ノ選舉ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後二箇月ヲ經過セサル者亦

同(郡制第六條第八項)

町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

二項

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ掌分セシムルコトヲ得(町村制第七十條第一、二項)

原告

廣島縣比婆郡高野山村助役 多々野源三郎

被告

廣島縣知事 江木千之

右原告多々野源三郎ヨリ被告廣島縣知事江木千之ニ對スル不當裁決取消請求ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ明治三十二年九月三十日廣島縣比婆郡高野山村ニ於テ比婆郡々會議員選舉會ヲ開設セリ而シテ之カ選舉ノ結果ハ原告ニ於テ最多數四十一票ヲ得訴外人名越捨三郎カ次點者トシテ三十一票ヲ得タリ於茲該選舉會ハ原告ヲ以テ當選者ナリトシ會長ハ直ニ之ヲ報告セリ然ルニ選舉人名越捨三郎ハ原告ハ目今比婆郡高野山村助役奉職中ナルヲ以テ郡制第六條第八項ニ該當シ郡會議員被選舉資格ヲ有セス從テ當選ノ效力ナキモノトシテ郡長ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シタリ而シテ比婆郡長ハ右ノ異議ニ就キ比婆郡參事會ニ付シタルニ該會ハ別紙決定書ノ如ク則チ原告ハ被選舉權ナク從テ其當選ハ無効ナリトシ次點者名越捨三郎ヲ以テ當選者ト認メタリ然レトモ原告ハ右決定ニ不服ナルヲ以テ廣島縣參事會ニ對シ右郡參事會ノ決定ヲ取消スラントシテ訴願セリ而シテ之ニ對シ縣參事會ノ

助役ト町村長トノ關係 選舉ニ於ケル事務關係ノ點



裁決ハ別紙裁決書ノ如ク訴願者ノ申立ハ相立タズ則チ原告ノ當選ハ無効ナリトセリ依テ本訴ヲ提起ス其理由ハ本案ノ争點タル原告カ郡會議員被選舉資格ヲ有スルヤ否ノ問題ハ要スルニ郡制第六條八項ニ選舉事務ニ關係アル吏員云々トアル吏員ノ範圍如何ニ歸着ス而シテ縣參事會ノ裁決ニハ原告ハ目下高野山村助役奉職中ナリ助役ハ町村制ノ規定ニ從ヒ村長則チ選舉事務ヲ專ラ取扱フ所ノモノ、事務全部ニ就テ補助スヘキモノナレハ前項六條八項吏員中ニ包含セラルヘク從テ原告ハ被選舉權ヲ有セサル者ナリトノ理由ヲ説明スレド此理由ハ大ニ不當ナルモノアリ抑モ郡制六條八項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員トハ即チ自己固有ノ職權ニ據リ選舉事務ヲ取扱フモノ、ミテ指示スルモノニシテ之ヲ換言スレハ他人カ自己ノ名義ニテ行フ所ノ事務ニ對シ事實上補助的ニ取扱フモノハ全ク包含セザルナリ而シテ我町村制第七十條ニ據レハ町村助役ハ止々村長ノ事務ニ對シ補助ヲナスヘキモノナルコトハ業ニ既ニ縣參事會裁決ノ認ムルカ如キモノナレハ從テ今原告カ助役奉職中ナル旨ヲ以テ其被選舉資格ヲ否認スルハ豈不當ナラスヤ前述ノ論旨ハ町村助役ハ渾テ村長ノ事務ヲ補助スヘキ職責アリトセル裁決書ノ理由ヲ假ニ肯定シタルニ出ツ而モ此理由ハ復タ不當ナリトス則チ裁決書ハ原告ハ假令村事務ヲ分掌シ居ルト雖仍キ村長ノ職務ヲ補助スヘキ職責ニ影響ナシト云フニアリ然レド町村制ノ規定ヲ閱スルニ同制第七十條第二項ハ同條一項ノ凡ソ町村ノ助役ハ村長ノ事務ヲ補助スヘキモノトナセル一級ノ原則ニ對シ例外ニ屬スルモノニシテ既ニ町村行政ノ事務一部ヲ分掌セル助役

ハ復タ前項一項ノ事務補助ノ職責ヲ有スルモノニアラザルナリ左レハ原告ハ假令助役ヲ奉職セルモ現ニ事務分掌ヲ爲シ居ルヲ認メナカラ助役ハ渾テ村長ノ事務ヲ補助スヘキモノナリトセルハ全ク前後矛盾ノ論トセサルヘカラサルノミナラス延テ原告ハ村長ノ事務ヲ補助スヘキモノナルニ因リ郡制ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ナリトノ斷定モ復タ自ラ不當ナリ又更ニ步ヲ轉シテ既ニ郡制第六條八項中ノ所謂選舉事務ニ關係アル吏員中ニハ右ノ如キ之カ事務ニ關係スヘキ職責ヲ有スルモノ、凡テヲ含有セス止々現實選舉事務ニ關係セシモノノミテ指示スルモノト解釋スルヲ妥當トス蓋シ該法文ハ選舉事務ヲ取扱フモノハ往々不正ノ手段ヲ用ヒ以テ自ラ當選セントスルニトアルヲ慮リタルモノナレハナリ而シテ原告ハ別紙證據書類ニヨリ證スルカ如ク這般ノ選舉ニ付全ク之カ事務ニ與カラザリシモノナレハ其被選舉資格ヲ阻却セラルハキモノニアラザルナリ依テ明治三十三年二月十三日附ノ廣島縣參事會ノ裁決ヲ取消シ更ニ原告ノ郡會議員當選ハ有效ナリトノ裁決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ郡制第六條ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員トハ固有ノ職權ニ依リ其名ヲ外部ニ出シ選舉事務ヲ行フモノト云ヒ補助的ニ事務ヲ行フモノヲ包含セスト云フト雖法文ハ廣ク選舉事務ニ關係アル吏員ト記載シ右等ノ區別ヲ設クヘキ餘地ヲ存セス又原告ハ村長事務ノ一部ヲ分掌スルカ故ニ村長ノ管掌スル選舉事務ニ付テハ之ヲ補助スルノ職責ヲ有セスト云フト雖町村制第七十條ノ三項ハ助役ノ職權限ヲ列記シタルモノ



ミシテ第三項ヲ以テ第一項ノ規定ヲ變更シタルモノト云フヲ得ザルハ故ニ一部事務ヲ分  
掌シタルカ爲メ村長事務ヲ補助スルノ職責ナシト云フヲ得ス又原告ハ實際ニ於テ選舉事  
務ニ關與セズ又村長代理ヲ爲シタルコトナキヲ以テ郡制第六條ノ適用ヲ受ケスト云フト  
雖法文ハ關係アル吏員ト規定シ關係セシ吏員ト規定セサルヲ以テ職責上關係ヲ有スヘキ  
吏員ハ其實際關係セシト否トヲ問ハズ總テ本條ヲ適用スヘキハ明瞭ナリ依テ原告ノ請求  
ハ棄却セラレタシト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
原告ハ郡制第六條第八項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員トハ即チ自己固有ノ職權ニ據リ選  
舉事務ヲ取扱フ者ノミヲ指示スルモノナリト云フト雖町制第七十條ニハ單ニ町村助役ハ  
町村長ノ事務ヲ補助ストアルヲ以テ其事務カ町村固有ノ事務ナルト否トニ拘ハラズ町村助  
役ハ總テ町村長ノ事務ヲ補助スヘキ者ナレハ郡制第六條ノ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ナ  
リト云ハサルヲ得ス又原告ハ町制第七十條第二項ハ同條第一項ノ原則ニ對スル例外ノ規  
定ナレハ町村行政ノ事務ヲ分掌セル助役ハ町村長ノ事務補助ノ職責ヲ有スルモノニ非スト  
云フト雖町制第七十條第二項ノ規定ニ依リ町村行政ノ事務ヲ分掌セル助役ト雖同條第一  
項ノ事務補助ノ職務ナキモノト云フヲ得ス又原告ハ郡制第六條第八項ノ所謂選舉事務ニ關  
係アル吏員中ニハ現官選舉事務ニ關係セシ者ノミヲ指示シ原告ノ如キ本件選舉事務ニ全ク  
關係セサル者ヲ包含セスト云フト雖郡制第六條ニ選舉事務ニ關係アル吏員云々トアルハ事

●恩給額更正ニ關スル訴

明治三十三年第五百六號  
明治三十三年五月十四日判決 (請求不立)

判決要旨

恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一ケ年以上在職シタル後  
退官シタル場合ニ於テ之ニ對シ恩給額ヲ定ムルニ付キ退  
官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官在職ノ年數  
ハ之レヲ後官在職年數ニ通算スレトモ端月數ハ之レヲ通  
算スヘキモノアラズ

說明

官吏恩給法規定ニ依レハ其ノ第十一條ヲ以テ恩給額ヲ定ムルニ付キ前官  
後官ノ在職年數ハ之ヲ通算スルノ規定在ルモ端月數ハ是レヲ通算スルノ  
規定ナシ皮摺ノ觀ヲ以テスレハ前在職月數ト後在職月數ト併合シテ茲ニ

恩給ニ關スル在職ノ年數ノ通算ノ意



一、ケノ年數ヲ得ルトキハ之ヲ以テ年數ノ通算タルカ如キ感ナキニアラヌ  
ト雖モ遺ハ是レ月數ヲ通算シテ一ノ年數ヲ得タルモノニシテ年數ノ通算  
ニアラサルナリ  
抑モ年數ノ通算ト云フトキハ甲ノ年數ト乙ノ年數トヲ併合スルノ意義ニ  
シテ甲ノ月數ト乙ノ月數トヲ通算シ一ノ年數ヲ得ルハ之レ年數ノ通算  
ニアラサルナリ恩給法ノ規定ハ年數ノ通算ヲ許シ端月數ノ通算ヲ許サス  
(參照) 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前官ノ恩給  
額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス(官吏恩給法第十一條第一號)  
恩給ノ年數ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム(同上第五條)

原 告 宇田川信備

被 告 内閣恩給局長 平田東助

右原告宇田川信備ヨリ被告内閣恩給局長平田東助ニ對スル恩給額更正ニ關スル訴ニ付雙方  
ヨリ書面審理ヲ申請セリ依テ其文書ニ就テ審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治卅一年一月三十一日臺北縣屬選官ニ付キ增加恩給請求ノ末十九年  
ニ對スル恩給年額金貳百四拾圓ヲ下賜セラレタレモ其在官年數ハ明治九年四月ヨリ同二  
十八年二月迄十八年十一月箇月又明治二十九年四月ヨリ同三十一年一月迄一年十箇月前後

通計滿二十年九箇月ナルヲ以テ即チ二十年分ノ恩給ヲ請求シタルニ在官十九年ト算定セ  
ラレ前後ノ端月數併セテ十二箇月以上ヲ除算シ一年分ノ恩給ヲ減額セラレタリ斯ク在官  
再任前後ノ月數ヲ除算セラレタルハ蓋恩給法第十一條ニ依リタルモノ、如クナレトモ抑  
恩給ヲ受クヘキ在官年數ヲ指定スルハ第七條ニシテ其月數ノ算入方ハ第八條ニ依ルヘキ  
モノナリ然ラハ同條中第五號ノ月數モ算入スヘキハ勿論ニシテ其初メテ恩給ヲ受クヘキ  
モノト否トノ區別ナキハ法文上自ラ明ナリ況マヤ第十一條ノ如キハ俸給額ノ増減ニ對シ  
新舊俸ノ區別ヲ主トシ規定セラレタルモノニシテ同條第一號第二號中年數ノ文字タル第  
八條ニ依ルモ其月數ハ包含スヘキモノト認メサルヲ得ス特ニ恩給增加ノ場合ニ於テハ同  
條ニ依リ前後ノ勤続年數ヲ通算シ其全部ニ就キ恩給額ヲ更定セラレハキモノナレハ再任  
前後ノ在官月數ヲ除算スヘキモノニアラス依テ此月數ヲモ通算シ一年分ヲ併セテ在官二  
十年ニ對スル恩給ヲ受クヘキ權利アルモノト思惟セリ今茲ニ最モ近キ管例ヲ舉ケンニ受  
恩給者再任後在職十箇月ニシテ休職トナリ以後十二箇月即チ滿一年ニ於テ退官シタル者  
アリトセハ此休職期間ノ月數タルヤ第八條中ノ第四號ヲ適用スヘキモノナリ否ナ適用ヲ  
爲サ、レハ第十一條ニ依リ恩給ヲ增加スルコト能ハサルナリ然レモ再任ノ場合ハ第十一  
條ニ依レハ滿一年以上云々トアリテ後官一年未滿ニテ退官シタルトキハ前後通算一箇年  
ヲ得ルモ恩給ヲ增加セサルハ所聞増加シ得ヘキ資格ヲ具備セサル場合ナルヲ以テ増加ヲ  
望ムコト能ハサル勿論ナレトモ後官滿一年以上在官シタルトキハ前段ニ陳辯セシ如ク其  
恩給ニ關スル在職年數ノ通算ノ意義



月數ハ同條第一號第二號ニ依リ當然年數中ニ包含スヘキモノナリ且ツ前官ニ對スル恩給計算方々單ニ在官年數ノミニ執リタルハ却テ同條ノ通算方ニ背戾スルモノニシテ豈ニ抑ノ如キ狹義的ノ解釋ヲ爲スヘキ理アラザヤ況ン第十一條ノ旨趣タル俸給ノ増減共ニ總テ受恩給者ノ利益ヲ主トシ規定セラレタルハ政府ノ特典ニシテ蓋恩惠的ノ御主意ニ外ナラサルモノナリ果シテ然ラハ再任滿一年以上ノ場合ニ於ケル前後在官ノ月數ヲ通計シ一年分ヲ算入スルハ成文上及法理ニ於テモ當然ノ解釋ナリト云ハサルヲ得ス是ニ由テ觀レハ恩給局ノ裁決ハ恩給法ノ精神ニ背反シ原告ノ權利ヲ障害シタルモノナルヲ以テ適法ノ裁判ヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ官吏恩給法ニ於テハ一旦恩給ヲ受ケタル者再ヒ官ニ就キ退官シタル場合ニ適用スヘキ規定ハ同法第十一條ヲ措テ他ニ之ナキナリ而シテ本件ノ場合ハ退官現時ノ俸給前後相同シアラザルヲ以テ即チ同條第一號ニ該當スル者ナルモ同第一號ニハ前官年數ヲ後官年數ト通算セトアリテ月數タル文字アルヲ見ス抑同條規定ノ旨趣ヲ按ズルニ本條ニハ再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタル者ハ云々トアリテ殊更後官滿一年以上ト規定シタル所以ノモハ蓋理由ノ存スルモノナリ如何トナレハ前官ニ對スル恩給計算ノ際ニ當リ確定シタル年數ハ將來ノ經歷ニ因テ之ヲ變更スヘキモノニアラス是ヲ以テ本條ニハ特ニ後官滿一年以上ノ條件ヲ必要トシ其第一號ニ於テ特ニ前官年數後官年數ト規定シ月數ノ文字ナキ所以ナリ若シ原告ノ云フ如ク既ニ確定シタル前官年數ヲ再

ヒ繰返シ其端月數ヲ算入スル旨趣ナリトセハ本條何カ故ニ前官月數後官月數ト記セズシテ殊更前官年數後官年數ト記セシヤ恩給法中他各條ヲ按ズルニ月數ト規定シタルモノアリ日數ト規定シタルモノアリ本條殊ニ年數ト規定セラレタルハ前陳ノ理由ニ因ルモノト云ハサルヲ得ス依テ原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
本件原告被告カ官吏恩給法ノ解釋ニ付テ爭フ所ノ要點ハ恩給ヲ受ケル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタル場合ニ於テ退官現時ノ俸給前後同シカラサルトキハ前官後官ノ月數ヲモ通算シテ恩給額ヲ定ムヘキヤ否ニ在リ按ズルニ官吏恩給法第十一條第一號ニ退官現時ノ俸給前後同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官年數ニ通算ストアルヲ以テ之ヲ見レハ同法ノ計算方法ニ依テ後官年數ヲ算出シ之ニ前官恩給支給ノ際ニ算定シタル年數ヲ通算シテ第五條ノ恩給額ヲ定ムヘキモノニシテ尙ホ前官後官ノ端月數ヲモ通算スヘキ旨趣ナリト解釋スルノ餘地毫モ存セサルナリ然ラハ則チ被告ノ裁決ハ正當ニシテ恩給法ノ解釋ヲ誤リタルモノニアラス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ  
原告ノ請求相立タス  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

縣會議員ノ當選効力ニ關シ  
縣參事各ノ決定ニ對スル異議ノ訴  
明治三十二年第一七七號  
明治三十三年六月六日宣告  
(請求相立)

府縣制第六條第九項ノ解



判決要旨

百四十六

縣ノ爲メ工事ノ請負ヲ爲シタルモ選舉前ニ於テ其ノ工事全ク結了シ單ニ請負金拂渡ヲ受クルノ關係ヲ有スルニ止マル者ハ府縣制第六條第九項ニ該當セス

說明

府縣會議員ハ府縣ノ行政若クハ其ノ營造物ノ創設又ハ存廢ニ關シ去心平氣以テ是レカ合議ニ參與スルモノトス然ルニ若シ議員トシテ府縣會ノ合議ニ參與スヘキ者他ノ一方ニ於テ府縣營造物ノ工事ノ請負ヲ爲シ得ル者トセハ即チ自己ノ請負事業ノ目的ヲ達セシカ爲ニハ此ノ營造物ノ存廢若クハ府縣豫算案ニ對シ自己ノ事業ニ反對スル公平ナル意見ヲ提議スルト能ハサルノ恐アルハ蓋シ人生ノ通弊タラスハアラス府縣制第六條第九號ノ規定ハ此ノ通弊ヲ豫防スルノ精神ニ出テタルモノナルヲ以テ本件ノ如ク工事已ニ竣功ヲ告ク唯請負代金ノ拂渡ヲ受クルノ關係ヲ有スルニ過キサル者ノ如キハ同條ノ規定ニ該當スヘキモノニアラザルナリ何トナレハ工事已ニ竣工シ相當吏員ノ検査ヲ經タル以上ハ之レカ存廢ノ如何ニ依リ請負金ノ請求ニ何等影響ナク從テ亦タ此ノ通弊ノ纏綿スル所ナクレハ

七十八

ナリ之レ本判決ノ生スル所由タリ

七十九

(參照) 府縣ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス(府縣制第六條第九項)

原告 山形縣會議員 安孫子久右衛門 訴訟代理人 沼田宇源太 堀山和夫

被告 山形縣參事會 山形縣知事 關 義 臣

右原告安孫子久右衛門ヨリ被告山形縣參事會山形縣知事關義臣ニ對スル縣會議員ノ當選效力ニ關シ縣參事會ノ決定ニ對スル異議ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ原告ハ明治三十二年九月二十五日山形縣々會議員ニ當選シタリ然ルニ被告ハ原告カ當事縣工事ノ請負ヲ爲ス者ト爲シ府縣制第六條第九項ニ該當スル無資格者トシテ原告ノ當選ヲ無効ナリト決定シタリ本件工事ハ原告ノ利害ニ重大ノ關係アルヲ以テ原告ハ競争請負ノ手續ニ依ラス特ニ縣廳ニ請フテ工事ヲ請負ヒ同年九月二十二日迄ニ之ヲ竣功シ同月二十四日乙第二號證ノ如ク請負工事ノ引渡ヲ了シタルモノナレハ毫モ被選資格ニ抵觸スルコトナシ唯其後ニ殘ルモノハ請負金ノ授受ニ止マリ債權者債務者ノ關係ニ過キヌ要スルニ被告ノ決定ハ事實ヲ誤認シ併セテ法律ノ適用ヲ誤リタル不當ノ決定ナルヲ以テ之ヲ取消シ原告ノ當選ハ有效アリトノ判決ヲ請フト云フニ在リ

府縣制第六條第九項ノ解

百四十七



テ當選シタルモ當時縣ノ爲メ未タ其工事ノ請負ヲ爲シ工事ノ受渡ヲ完了セサルヲ以テ府  
縣制第六條第九項ニ該當シ被選舉權ヲ有セサル者トシ原告ノ當選ヲ無効ト爲セリ抑モ原  
告ハ乙第一號證工事請負規程ニ基キ契約ヲ締結シタルモノナレハ規程以外ノ理由ヲ援引  
シ論結スヘキモノニアラス原告ハ明治三十二年九月二十二日工事ヲ竣功シタリトシテ同  
月二十四日附ヲ以テ請求書ヲ縣廳ニ差出セリト云フモ請負金ノ拂渡ハ乙第三號證ノ通り  
十月三日ナルカ故ニ此時ヲ以テ工事ノ引渡ヲ完了シタルコト該規程第十九條ニ依リ明テ  
リ然ラハ原告ハ選舉ノ當時縣ノ爲メ工事請負中ノ者ナレハ其當選ヲ無効ト決定シタルハ  
相當ナリ依テ原告ノ請求ヲ排斥セラレ度ト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

被告ハ本件選舉ノ當時原告ハ縣ノ爲メ工事請負中ノ者ナレハ府縣制第六條第九項ニ該當ス  
ル無資格者ナリト云フト雖モ原告カ請負タル本件工事ハ選舉前ニ於テ工事全ク竣功シ既ニ  
檢査モ済ミ唯請負金ノ拂渡ヲ了セサルニ過キサルコトハ證人山形縣吏齋藤三同技手吉川  
漸三郎ノ證言及原告三號證ニ依リ明白ナリ而シテ乙第一號證工事請負規程第十九條ハ主ト  
シテ請負人ノ責任ヲ規定シタルニ止マルモノナレハ之ニ依リ本件ノ如キ請負工事悉皆完了  
シ僅カニ債權ノ關係ヲ有スルニ過キサル者ヲ以テ府縣制第六條第九項ニ該當スル者ト云フ  
ヲ得ス從テ被告カ原告ハ被選舉資格ヲ有セサルモノトシ其當選ヲ無効ト決定シタルハ適法  
ニ非ス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ  
被告カ明治三十二年十月十六日西村山郡選出縣會議員安孫子久右衛門ノ當選ヲ無効トシタ  
ル決定ハ之ヲ取消ス  
訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

●不當裁決取消ノ訴 明治三十三年 第五五號 (請求不立)

判決要旨

臨時郡會ノ議定權ハ豫メ告示ヲナシタル事件又ハ郡長ニ  
於テ急施ヲ要スルモノトシテ議事ニ附シタル事件ノ外ニ  
出ツルコトヲ得ス

說明

臨時郡會ハ臨時ノ必要ニ應ジテ之レヲ開クモノナルヲ以テ其ノ必要以外  
ニ議定權ヲ擴張スルヲ許サ、ルナリ

(參照) 上尋臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク下尋  
臨時會ニ付スヘキ事件ハ限メ之ヲ告示スヘシ下尋(郡制第三十八條第一、二項)

原告 山形縣選出縣會議員 南波平次

臨時郡會ノ議定權



山縣縣事會長  
山形縣知事  
被 告 關 義 臣

百五十一

右原告南波平次ヨリ被告關義臣ニ對スル不當裁決取消ノ訴審面ニ就キ審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ原告カ提出シタル意見書ナルモノハ郡制第三十二條ノ權能ニ據ルモノ  
ニシテ同制第三十八條ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ス故ニ該條中「重大ナル郡ノ公益ニ關  
スル事件アリトスルモ臨時郡會ニ於テ意見書ヲ提出スルコトヲ得ス」ト規定シテラサル  
限リハ越權ナリト云フヲ得ヘキモノニアラス而シテ之ヲ被告ノ主張ノ如クスレハ同制第  
三十二條ノ活力ヲ失ヒ假令緊急ヲ要スル公益上ノ事件ナリトスルモ臨時郡會ニ於テ公然  
之ヲ發表シ得サルニ至ルヘシ天下斯ノ如キ法アルヘカラス又被告ニ於テ郡會カ提出シタ  
ル意見書ヲ議決ナリトスルモ抑モ意見書ナルモノハ必スシモ議決ナリト云フヲ得ス何ト  
ナレハ上級ノ監督官廳ニ提出スル迄ニシテ固ヨリ決行力ヲ存スルモノニアラサレハナリ  
繼シヤ之ヲ議決ナリトスルモ郡會カ得タル特權ナレハ被告ノ干渉ヲ容ルヘキモノニアラ  
ズ殊ニ上級官廳ニ提出シタル意見ハ形而上ノ意見ニシテ公然發表シタル以上ハ之カ取消  
ノ效ヲ奏シ得ヘキ性質ノモノニアラス何トナレハ一旦他ノ腦裡ニ感染シタル後ナレハナ  
リ然レハ意見書ニ關スル強制命令ハ全然無効ノモノタルヤ明ナリ且ツ原告ハ四個ノ意見  
書ヲ提出シタルニ其半即チ二箇丈ケノ取消ノ命令ヲ發シタル郡長ノ處分ハ原告ニ於テ過  
失ノ行爲ト認メタルヲ得ヌ去レハ本點ハ茲ニ論争スルノ價值ナキモノトス以上ノ理由ナ

八十二

レハ被告ノ裁決ハ不當ニ付之ヲ排斥セラレシヨトヲ請求スト云フニ在リ

八十三

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ郡制第三十二條ハ如何ナル場合ニ於テモ意見書ヲ提出スルヲ得  
ルカ如ク主張スルモコハ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノナリ本條ハ郡會カ郡ノ公益ニ關スル  
事件ニ付意見書ヲ提出シ得ヘキ權能ヲ有スルコトヲ規定シタルニ止マリ其他提出ノ場合  
ヲ指示セサルヲ以テ或ハ通常會ト臨時會トヲ分タス何レノ場合ニ於テモ提出シ得ヘキカ  
如シト雖モ讀テ第三十八條ニ至リ臨時會ノ性質如何ヲ見ルニ及ヒ始メテ第三十二條ニ提  
出スルノ場合ヲ指示セサル所以ハ指示スルノ必要ナキニ因リシヲ知ルニ餘リアリ抑モ臨  
時會ノ通常會ニ異ナルハ會ニ會期、回数並告示等ノ點ノミナラス其性質ニ於テモ同シカ  
ラサルハ臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其事件ニ限り之ヲ開クノ規定ニ依リ明カナリ故ニ  
臨時會ニ於テ議題タルヘキ事件ニ直接關係ヲ有スルモノ、外臨時會自体カ發議決定ノ權  
ナキ多言ヲ要セサルナリ  
又原告ハ法律ノ趣旨被告主張ノ如シトスレハ郡制第三十二條ハ殆ソト其働カヲ失ヒ假令  
緊急ヲ要スル事件アルモ臨時會ニ於テ之ヲ發議シ得サルノ不便ヲ云々スルモ公益ニ關ス  
ル緊急事件ハ獨リ郡會ニ限リテ發見セラル、モノニアラス之ヲ發按スルニ自ラ機關ノ設  
備アリ臨時會自体カ發議シ得サレハトテ公益ヲ保護スルニ缺クルモノニアラス原告ハ郡  
會カ提出シタル意見書ハ執行力ナキ故ニ議決ト云フヲ得ヌ所謂ノモ意見書ノ提出ハ郡  
會多數ノ議決ニ依リタルモノナレハ執行力ナキ故ニ郡會ノ議決ニアラスト謂フヲ得サ

臨時郡會ノ職權

百五十一



ルナリ而シテ此議決ノ法律ノ範圍ヲ超越シタル爲メ之ヲ取消シタルハ毫モ不當ニアラサ  
ルハシ且ツ原告ハ意見書ハ公然發表スレハ既ニ他ノ腦理ニ感覺シ亦取消ノ效力ヲ奏シ得  
ヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ之ヲ取消スモ全然無効ナリト謂フモ越權ノ議決ヲ取消  
シタルハ法律ノ規定ニ依ルモノニシテ取消シタル效果ノ顯著ナルト否トハ問フヘキ所ニ  
アラズ若シ本件取消ヲ以テ全然無効ノモノナリトセハ原告ハ被告ノ與ハタル裁決ニ對ス  
ル不服ノ理由トナス事自家撞着ニアラスヤ其他ノ還訴ノ理由ノ如キハ畢竟本訴ヲ反覆  
スルニ過キサルヲ以テ重テ之ヲ駁スルノ要ナシ以上ノ理由ニ依リ原告ノ請求ハ排斥セラ  
レタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ

原告ハ郡會カ提出シタル意見書ナルモハ郡制第三十二條ノ權限ニ據ルモノニシテ禁止ノ規  
定アラサル限りハ越權ナリト謂フハカラス而シテ之ヲ被告カ主張スル如クスレハ同制第卅  
二條ノ精神ニ背クト云フト雖郡制第三十八條第一項ニ「臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其事  
件ニ限り之ヲ開ク云々及第二項ニ臨時會ニ付スハキ事件ハ豫メ之ヲ告示スハシ云々」トア  
ルヲ以テ之ヲ觀レハ臨時會ニ於テハ其豫メ告示ヲ爲レタル事件又ハ同條但書ニ依リ郡長ニ  
於テ急施ヲ要スルモノトシテ付議セシメタル事件以外ニ涉リ議決スルコトヲ得サルモノト  
解釋スルヲ相當トス然レハ郡長ニ於テ郡制第六十九條ニ依リ本件郡會ノ議決ヲ取消シタル  
ハ違法ニアラス其他論辯スル所アルモ本件裁判ニ必要ナキヲ以テ説明セズ

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ  
原告ノ請求相立タス  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●縣參事會ノ不當決定取消請求ノ訴

明治三十三年第五十一號  
明治三十三年六月八日宣告

(請求相立)

判決要旨

知事ノ定メタル投票用紙ノ裏面ニ村長ノ職印ヲ押捺シテ  
之レヲ用ユルモ府縣制第十八條第七項ニ違背スルモノニ  
アラズ

說明

府縣制第十八條第七項ノ規定ハ投票用紙ノ亂雜區々ニ涉ルノ弊害ヲ防止  
シテ選舉ノ正確ヲ保ニアリ本件村長ノ行爲ノ如キハ固ヨリ此ノ弊害ヲ  
被ルノ虞ナキノミナラス其使用セラレタル投票用紙夫レ自体ハ知事ノ定  
メタル方式ニ依リタルモノナレハ是ヲ以テ前記法條ノ規定ニ違反セルモ  
ノト云フヲ得サルヤ勿論ナリトス

(參照) 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ヒ(府縣制第十五條第七項)

府縣制第十八條第七項ノ解



原 告 大石藤五郎 外二名  
被告 小野田元熙  
訴訟代理人 鳩山和夫 沼田宇源太 松木弘

右原告大石藤五郎外二名ヨリ被告靜岡縣知事小野田元熙ニ對スル縣參事會ノ不當決定取消  
請求ノ訴原被告及參加人ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂ケル處

原告訴求ノ要旨ハ明治三十二年九月二十六日靜岡縣藤原郡選舉區ノ縣會議員選舉ニ於テ  
伊藤仙太郎千五十三票中山猪藏九百十三票本下七郎七百十八票大鐘和一郎八百二十一票  
ハ勝間田村ノ得點百五十票本下七郎五十八票大鐘和一郎四十二票伊藤仙太郎三票中山猪  
藏ヲ併算スレハ伊藤仙太郎中山猪藏本下七郎ノ三名カ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ナル  
ヲ以テ右三名ヲ當選者ト爲スヘキニ藤原郡選舉會ハ勝間田村投票所ノ投票二百五十九票  
ハ管理村長カ投票用紙ニ自己ノ職印ヲ捺捺シテ選舉人ニ交付シタル爲メ之ヲ無効ノ投票  
ト決議セリ原告ハ之ニ服セスシテ縣參事會ニ訴願シタルニ參事會ハ該投票ハ府縣制第十  
八條第七項ニ違背スル無効投票ナリトノ理由ヲ以テ明治三十二年九月二十六日執行シタ  
ル藤原郡縣會議員ノ選舉ヲ無効トスト決定セリ今原告カ知事ノ決定ニ不服ナル理由ハ抑  
モ府縣制第十八條第七項ノ規定ハ投票ノ煩亂不明ヲ避ケテ選舉ノ正確ヲ期スルニ出ツル  
モノナルヲ以テ既ニ府縣知事ノ定ムル成規ノ方式ヲ具ヘタル投票用紙ヲ用カタルニ於テ

ハ其一定ノ方式ニ缺タル所アルカ又ハ一ノ方式ヲ破壞スヘキ不用ノ事項ヲ記載シタルノ  
缺點ナキ以上ハ之ヲ無効トスヘカラス然ルニ縣參事會ハ投票所管理村長カ成規ノ投票用  
紙ノ裏面ニ捺印シタルヲ以テ府縣制第十八條第七項ノ規定ニ違背シタルト云フモ之ニ封  
長カ一ニ選舉ノ正確ヲ期スル爲メ之ヲナシタルニ過キスシテ方式ニ違ヘル投票用紙ヲ用  
ヒタルモノニ非ス右ノ理由ニ依リ縣參事會ノ決定ヲ取消シ伊藤仙太郎中山猪藏本下七郎  
ノ當選ヲ有效トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ  
參加人陳述ノ要旨ハ勝間田村投票ハ府縣知事ノ定ムル成規ノ方式ヲ具ヘタル投票用紙ニ  
シテ此ニ管理村長ノ捺印シタルハ選舉ノ正確ナラムコトヲ期スルニ在リテ一モ其方式ヲ  
破リタルノ形跡ナク之ヲ以テ府縣制第十八條第七項ノ規定ニ違背シタル者ト云フヲ  
得ス假ニ之ヲ無効ノ者ナリトスルモ縣參事會カ選舉全体ヲ無効トナシタルハ最モ不當ノ  
裁決ナリ何トナレハ參加人ノ得票ハ勝間田村ノ投票全部ヲ控除スルモ尙モ高點ニシテ毫  
モ影響ヲ與ラサルモノナレハナリト云フニ在リ  
被告答辯ノ要旨ハ投票ハ府縣制第十八條第七項ニ依リ府縣知事ノ定ムル一定ノ方式ニ則  
テ缺タル所アルヘカラス又方式ヲ破ルヘキ不用ノ事項等ヲ載スヘカラス即チ勝間田村投  
票所ノ投票用紙ニ村長ノ職印ヲ捺捺シタルハ知事ノ定ムル規定以外ノ事項ニシテ一定  
ノ方式ヲ破リタルモノナレハ之ヲ以テ成規ノ用紙ナリト云ヒ難シ此ノ一定ノ方法ヲ傷タ  
タル投票用紙ヲ以テ選舉ヲ行ハシメタルハ投票所管理者ノ行爲ナリ斯ノ如ク管理者ニ於



テ其ノ手續ヲ誤リ選舉人ヲシテ完全ニ投票ヲ行フコトヲ得サラシムルニ至ラタルハ選舉ノ規定ニ違背シタルモノトス而シテ其ノ選舉ノ規定ニ違背シタル選舉ノ部分ハ勝間田村票投ノ全部ニ涉ルヲ以テ府縣制第三十五條第一項ノ但書ニ依リ同投票所ノ投票總數ヲ各得票者ノ得點數ニ加算シ若クハ控除シ其ノ結果ヲ判定スルニ實ニ被告決定審ノ結果ヲ見ル是レ選舉全部ヲ無効トナシタル所以ナリ又原告訴訟ノ參加人ハ勝間田村ノ投票ハ無効トナスヘキモノニ非ス假ニ無効トナルモ選舉全体ヲ無効トスルハ不法ナリト雖既ニ上文ニ論スル如ク投票所管理者ノ行爲ハ選舉ノ規定ニ違背シタルモノニシテ其ノ違背ノ場合ノ通則トシテ法ハ其ノ選舉ヲ無効トナシ唯選舉ノ結果ニ異同ヲ生セサル場合ニ一ノ例外ヲ設ケラレタルモノナリ故ニ參加人其レ自身ノ當選ニ付テハ其ノ得票數ヨリ規定ニ違背シタル投票全部ヲ控除スルモ亦合算スルモ毫モ影響ヲ與ラズトスルモ選舉其ノ者ノ結果ハ明ニ異同ヲ生スルナリ是レ被告カ選舉全部ヲ無効ト決定シタル所以ナリト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
 本件勝間田村投票所管理者タル村長カ選舉人ニ交付シタル投票用紙ハ縣知事ノ定メタル方式ヲ具ヘタルモノナルモ其裏面ニ村長ノ職印ヲ押捺シタルノ事實アルヲ以テ被告ハ之ヲ違式ノ用紙ト認定シ府縣制第十八條第七項ニ違背スルモノナリト云フト雖抑モ府縣制第十八條第七項ハ投票用紙ノ亂雜區々ニ涉ルノ弊害ヲ防止シ選舉ノ正確ヲ失ハシメザルノ規定ナリ本件村長ノ行爲ハ投票用紙ヲ亂雜ナラシメ又ハ選舉ノ正確ヲ失ハシムルノ事實無キモノ

ナレハ村長カ投票用紙自体ハ縣知事ノ定メタル方式ニ依リタルモノニ單ニ職印ヲ押捺シ之ヲ總選舉人ニ交付シタルノ一事ヲ以テ府縣制第十八條第七項ニ違背シタルモノト認定スルヲ得ス隨テ本件選舉ハ之ヲ無効トスルノ理由ナキモノトス  
 右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ  
 明治三十二年九月二十六日執行シタル靜岡縣會議員選舉原郡選舉區ノ選舉ヲ無効ト爲シタル被告ノ決定ヲ取消シ伊藤仙太郎中山猪藏木下七郎ノ當選ヲ有效トス  
 訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

● 不當裁決取消ノ訴 明治三十一年第一四八號 明治三十三年六月十五日宣告 (請求相立)

判決要旨

- 一、選舉人トシテ招集セラレタル者選舉會場ニ出頭シ投票ヲナシタル後無資格者タルコトヲ發見セラレタル場合ニ於テハ之ニ對シ選舉ニ關係ナキ者ノ、入場者トシテ町村制第二十一條ヲ適用スヘキモノニアラス
- 二、無効ノ投票アリタル場合ニ於テ之レヲ當選者ノ得點中ヨリ控除スルモ選舉ノ結果ニ影響ヲ及サ、ルトキハ其



ノ選舉ハ無効ニアラス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 選舉開會中ノ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス下略(町村制第三十一條)  
選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選舉人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當  
選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシム可シ(同上第二十九條第三項)

原告 福島縣石城郡豊間村大字豊間  
宇等前二百十二番地平民屋  
四家信吉 外七名 訴訟代理人 鈴木 誠

被告 福島縣知事  
山田 春三

右原告四家信吉外七名ヨリ被告福島縣知事山田春三ニ對スル不當裁決取消ノ  
訴原告ノ辯論及被告ノ申請ニ依リ其答辯書ニ就キ審理ヲ遂クル處  
原告訴求ノ要旨ハ明治三十一年六月十二日豊間村會議員二級定期選舉ニ方リ當該村長ハ  
一般ニ注意ヲ促ス爲メ選舉者ニ招集狀ヲ發シ本村大字豊間宇原町五十三地番鈴木吉太郎  
ニモ同シク招集狀ヲ發シタルヲ以テ選舉ノ當日右鈴木吉太郎カ選舉會場ニ入り投票ヲ爲  
スノ際選舉掛長ニ選舉名簿ニ對照シ全ク投票ヲ爲サシメタリ然レ後ニ至リテ同姓名ノ者  
入場シ投票ヲ爲スニ當リ前ノ投票ヲ爲シタル者ハ無資格ナルコトヲ發見シタルトモ後來

者モ亦投票ヲ爲サシメタリ又同月十三日執行セル一級定期選舉同補選選舉ハ選舉權ヲ有  
スル者百〇三人ニシテ選舉ノ當日投票ヲ行ヒタル者ハ九十二名ナリ然ルニ投票ノ數ハ  
九十三票ニシテ一級定期選舉同補選選舉共各一票ノ過剩アリ於是本村門馬巳之松ヨリ村  
會及石城郡參事會福島縣參事會ニ訴願シタルニ縣參事會ニ於テハ該選舉ヲ無効ナリト裁  
決シタルモ本件ノ如キ選舉ニ於テハ其高點者中ヨリ無資格者ノ爲シタル投票及過剩ノ點  
數ヲ控除シ其結果次點者當選者ト爲ルコトヲ協合即チ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサル限ハ  
之ヲ無効ノ選舉ナリトシテ取消スヘキモノニ非ス是レ無記名投票ニ於テハ最モ適法ノ處  
置タレハナリ且其レ一級定期選舉同補選選舉ニ於テ選舉有權者ハ百〇三人ニシテ投票者  
ノ數ハ其以內即九十三票ナルヲ以テ果シテ過剩投票アリタリト云フ證左事實毫モ存在セ  
サル一事ニ徴スルモ豈其レ本件選舉ヲ無効ナリト云フヲ得ンヤ然ルニ福島縣參事會カ町  
村制第二十一條ニ背反セル不正ノ投票ナレハ之ヲ取消スト云フハ失當ノ甚シキモノト謂  
ハサルヲ得ヌ若シ之ヲシモ規定ニ違背セル不正ノ選舉ナリトシ其都度改選ヲ行ハ、違法  
百出豈其レ底止スル所ヲ知ランヤ是レ安ソ法律ノ精神ナリト云フヲ得ンヤ故ニ明治三十  
一年十一月二十八日福島縣參事會カ本件一二級定期改選及一級補選選舉ヲ無効トシ取消  
シタル裁決ハ不當ニ付之ヲ被毀シ石城郡參事會裁決ノ通リトノ裁決アラコトヲ請求ス  
ト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本件事實ハ原告陳述ノ通りナリ而シテ原告ハ本件ノ如キ選舉ニ於テハ  
町村制第二十一條ノ條



選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサル限リハ之ヲ無効ノ選舉ナリトシテ取消スヘキモノニアラス  
ト云フト雖モ町村制第二十一條第二項ノ規定アルヲ以テ選舉人員ニ超過ス  
ル投票ノ有ルヘキ理ナク又無資格者カ選舉ニ參與スルヲ得サルモノナリトス故ニ此超過  
又ハ參與ノ確證アル以上ハ其選舉ハ定規ニ違背シタルモノニシテ其結果如何ニ拘ラス取  
消スヘキモノト謂ハサルヲ得ス而シテ無資格者鈴木太郎カ選舉ニ參與シ及超過投票ア  
リシ事實ハ其選舉録ニ徴シテ明白ナリ又原告ハ選舉有權者ハ百〇三人ニシテ投票數ハ九  
十三名ナルヲ以テ過剩投票アリタル證左事實ナシ登ニ其ノ本件選舉ヲ無効ナリト云フヲ  
得ンヤ云々ト云フト雖モ一級定期改選同補選選舉ニ參與シタル者九十二名ナルニ選舉  
投票ノ數九十三票アリシ事實ハ前述ノ如ク選舉録ニ徴シテ明カナルノミナラス該陳述ハ  
原告訴狀中選舉ノ當日投票ヲ行ヒタルモノハ九十二名ナリキ云々ト明記シタルニ矛盾セ  
リ而シテ其超過投票ノ各一票ハ其參與ノ選舉人中二重ノ投票ヲ爲シタルモノアルコトヲ  
推知シ得ヘキヲ以テ該選舉ハ無効ト謂ハサルヲ得ス故ニ原告ノ申立相立タストノ判決相  
成タレト云フニ在リ

依テ證據ヲ開シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

被告ニ於テ町村制第二十一條第二項ノ規定アルヲ以テ選舉人員ニ超過スル投票  
アルヘキ理ナク其參與ノ選舉人中二重ノ投票ヲ爲シタルモノアルコトヲ推知スルヲ得ヘシ  
又無資格者ハ選舉ニ參與スルヲ得サルモノナリトス故ニ此超過又ハ參與ノ確證アル以上ハ

其選舉ハ定規ニ違背シタルモノナリト云フト雖モ町村制第二十一條ハ選舉ニ關係ヲ有セザ  
ル者ノ入場ヲ禁シタル規定ナリ而シテ本件一級定期選舉及一級補選選舉ハ無關係者入場ノ  
形跡ナク又二級定期選舉ハ選舉人トシテ招集セラレ入場シテ投票ヲ行フタル後無資格者ナ  
ルコトヲ發見セラレタル場合ナルヲ以テ共ニ該條ヲ適用スヘキモノニアラス然レトモ事實  
一級定期選舉並ニ一級補選選舉ニ在リテハ各登個ハ過剩投票ナリト認定ス又二級選舉ニ在  
リテハ無資格者鈴木太郎鈴木吉太郎ノ爲シタル投票ハ同制第七條第十二條ノ規定ニ該當セザル  
者ノ爲シタル投票ナレハ共ニ之ヲ有效ナリト謂フヲ得ス然ルニ右投票ハ各選舉ニ於テ何人  
ノ得票ニ歸シタルヤヲ知ルコトヲ得サルニ因リ假リニ一票ヲ當選者ノ得票中ヨリ控除スル  
モ尙次點者ノ得票ニ比シ多數ナルハ各選舉録ニ徴シ明カナルヲ以テ當選者ニ異動ヲ生セザ  
ルモノト決定セサル可カラス又同制第二十九條第三項ノ選舉ヲ取消スヘキ規定ハ選舉全体  
ニ影響スル環境アル場合ニ適用スヘキモノニシテ本件ノ如キ場合ニ適用スヘキ規定ニアラ  
サルニ由リ之ヲ適用シテ以テ各選舉ヲ取消シタル被告ノ裁決ハ其當ヲ得タルモノニアラ  
ス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

明治三十一年十一月二十八日福島縣參事會ヲ本件一二級定期選舉及一級補選選舉ヲ無効ト  
爲シタル裁決ヲ取消シ豊間村ニ於テ執行シタル明治三十一年六月十二日ノ村會議員二級定  
期選舉及同月十三日ノ村會議員一級定期選舉並ニ同補選選舉ハ共ニ之ヲ有效トス



訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

郡會議員選舉効力ニ關スル訴

明治三十三年第百七十七號  
明治三十三年六月二十七日判決

(請求不立)

判決要旨

- 一、家督相續人ハ其ノ相續財産ノ所有名義書替ヲナサ、ルモ實際ニ於テ租稅ヲ納付シ來リタル以上ハ公民權ヲ有スルモノトス
- 二、所有地ヲ他人ニ賣却シタルトキ賣主カ所有名義ノ書替ヲ爲サ、ルカ爲メ其ノ土地ニ對シ租稅ヲ納附シ來リタリトスルモ公民權ヲ有スヘキモノニアラス
- 三、家督相續人ハ被相續人ノ有シタル公民權ヲ繼承スヘキモノニアラス

說明

一家督相續開始ノ効力ハ前者ノ所有財産ヲ擧テ相續人ニ移轉スルモノナ  
ルヲ以テ假令未タ公簿上ノ名義書替ヲ爲サ、ルモ其ノ財産ハ實質上相

續人ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ス果シテ然ラハ之レカ納稅ニシテ假  
令被相續人ノ名義ヲ以テスルモ其ノ納稅ハ相續人所有ノ財産ニ對スル  
納稅ナルヲ以テ從テ相續人ニ於テ公民權ヲ有スヘキヤ勿論ナリトス  
二、是ニ反シテ自己所有ノ土地ヲ他人ニ賣却シタルトキハ假令公簿上ノ名  
義書替ヲ爲ササルモ其ノ實自己ノ財産ニアラサルヲ以テ假令自己ノ名  
義ヲ以テ納稅シ來リタリトスルモ之レヲ以テ選舉資格ノ標準トナスヲ  
得サルナリ

三、公民權ハ人ノ一身ニ專屬スルモノニシテ權利移轉ノ目的タラサルモノ  
トス故ニ假令相續ノ開始セラル、モ此ノ權利ノ相續人ニ移轉セサルヤ  
勿論ナリトス相續人カ相續ニ依リ前主ト同一ナル公民權ヲ有スルハ財  
産ノ相續ニ依リ新タニ取得スル處ノ權利ニシテ前主ノ公民權ノ移轉ニ  
依リ之レヲ取得スルモノニアラサルナリ

(參照) 家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノ  
ト看做ス(刑罰第六條第三項)

原 告

福島縣伊達郡桂澤村大字桂田  
字柿ヶ作八十二番地平民  
柿沼長藏  
外九名

被 告

福島縣議會  
山田春三

訴訟代理人

武岡克忠

家督相續ト公民權トノ關係及ヒ土地賣却ニ依ル公民權ノ消滅



右原告柳沼瓦藏外九名ヨリ被告福島縣參事會福島縣知事山田春三ニ對スル郡會議員選舉效力ニ關スル訴ニ付原告ハ書面審理ヲ申請シタリ依テ被告ノ答辯ヲ聽キ原告ノ文書ニ就キ審理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ明治三十二年十月五日執行シタル伊達郡柱澤村選出郡會議員選舉ノ結果渡邊丹六ハ最多數ノ投票ヲ得テ當選シタリ然ルニ野田兵五郎外六名ヨリ郡參事會ニ異議申立ヲ爲シ郡參事會ハ該選舉會ハ選舉ノ規定ニ違背シタルモノナルヲ以テ渡邊丹六ノ當選ヲ取消シ其選舉ヲ無効トスト決定シタルニ依リ原告ハ之ニ服スルコト能ハス縣參事會ニ訴願シタルニ縣參事會ハ郡參事會ノ決定ヲ是認シテ該決定ハ取消スヘキ限リニ非スト裁決シ第一「みやろしけさう」以下ノ五票ハ宮口繁藏ニ於テ他ニ五十九票ノ得票アルヲ以テ其選舉當時ノ狀況ニ徴スレハ假令誤字脱字等アルモ何レモ宮口繁藏ノ得票タルヲ確認スルヲ得ヘシト云フト雖モ右五票ノ投票中少クモ二票ハ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キ投票ナリ第二宮口作次郎ハ明治二十八年十一月四日家督相續ヲ爲シ亡父ノ名義ヲ以テ納稅其他村ノ負擔ヲ分任シタル實ヲ有スルヲ以テ假令名義書替ハ明治三十一年十一月二十五日ナルモ町村公民タルノ資格ニ缺クル所ナラシテ郡制第六條ノ選舉權ヲ有スルモノナリト云フト雖モ家督相續ハ明治二十八年十一月四日ナルモ名義書替ハ明治三十一年十一月二十五日ナレハ其間納稅シタルハ亡父ノ爲メ代納シタルニ過キサレハ町村公民タルノ資格ニ缺クル所アリト云ハサルヲ得ス第三渡邊幸四郎ハ明治三十二年二月六日所

有地ノ一部ヲ他ニ賣却シ既ニ登記ヲ經テ所有權ヲ他ニ移轉シ從テ納額三圓未滿ニ減シタル者ナレハ選舉權ヲ有セスト云フト雖モ幸四郎カ所有地ノ一部ヲ他ニ賣却シ其登記ヲモ了シタルハ事實ナルモ公簿ノ訂正ナカリシカ爲メ幸四郎ニ於テ依然納稅シ來リタルヲ以テ選舉權ヲ有セスト云フヲ得ヌ第四野田徳次郎ハ明治三十年十月二日始メテ土地ニ付キ納稅義務ヲ生シタルモノニシテ名簿開製期日ニテ二個年ヲ經過セサルモノナレハ町村制第七條ノ公民權ヲ有セス從テ明治三十二年四月家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタルモ郡制第六條第三項ノ規定ハ町村公民權ノ獲得ヲモ認許シタルモノニ非サルヲ以テ選舉權ヲ有セスト云フト雖モ家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ被相續人ノ種利義務ヲ繼承シ直チニ被相續人ト同一視セラル可キモノナレハ他ニ缺點ナキ以上ハ相續人ニ於テ公民權ヲモ併得シ從テ徳次郎ハ選舉權ヲ有セスト云フヲ得ヌ第五野田傳次郎ハ明治二十六年二月土地ヲ所有シ地租ヲ納メ村ノ負擔ヲ分任シ明治三十二年二月家督相續ニ依リ財產ヲ取得シ其納稅額拾圓以上トナリ之ト同時ニ公民權ヲ獲得シタルモノナレハ郡制第六條ノ選舉權ヲ有スト云フト雖モ財產取得以前ノ納稅額ハ僅カニ五拾錢以内ニ過キス左レハ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムルモノニ非サレハ選舉權ヲ有スルモノト云フヲ得ヌ依テ明治三十三年四月十三日被告福島縣參事會カ與ヘタル裁決ノ取消ヲ求ムト云フニ在

被告答辯ノ要旨ハ「みやろしけさう」以下ノ五票ハ誤字脱字アルハ勿論ナルモ舊選舉當時

家督相續ト公民權トノ關係及ヒ土地賣却ニ依リ公民權ノ消滅



ノ情況ト投票記載ノ氏名ニ於テ宮口繁藏ヲ選舉シタルモノト認メ得ヘク又宮口作次郎ハ  
 明治二十八年十一月四日亡父ノ死跡ヲ相續シ納税及村ノ負擔ヲ分任シタル實アル者ナレ  
 ハ單ニ其當時名義書替ノ手續ヲ了セザリシノミヲ以テ公民權ナシト云フヲ得ス又渡邊幸  
 四郎ハ原告モ認ムル如ク明治三十二年二月六日其所有地ノ一部ヲ賣却シ權利ヲ失却シタ  
 ル者ナレハ公簿上訂正ナキヤ理由トシテ失格者ヲ有格者ト爲スヲ得ス又野田徳次郎ハ明  
 治三十二年四月家督相續ニ依リ財産ヲ取得シ其結果郡制第六條第三項ニ依リ被相續人ノ  
 納税資格ヲ繼承スルモ之レカ爲メ町村公民タルノ權利ヲ獲得ス可キモノニ非ス從テ選舉  
 權ヲ有スルモノト云フヲ得ス又野田傳次郎ハ原告ハ認ムル如ク明治二十六年二月以來地  
 租其他村ノ負擔ヲ分任シ明治三十二年二月父ノ死亡ニ依リ一戸ヲ構ヘ之ト同時ニ郡制第  
 六條第三項ニ依リ選舉權ヲ獲得シタルモノナリ依テ被告カ與ヘタル裁決ハ至當ニシテ取  
 消ス可キ理由ナキモノナリト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
 第一郡制第十六條第三號ハ現實何人ヲ選舉シタルモノナリヤ認職シ得サル場合ニ於テ其投  
 票ヲ無効トス可キコトヲ規定シタルモノナリ而シテ本件係争ノ投票ハ果シテ斯ノ如キモノ  
 ナリヤ否ヤ原告ニ就キ調査スルル誤字脱字又ハ字畫不整ノモノナキニ非サルモ各投票ノ  
 全體ヨリ觀ルトキハ何レモ宮口繁藏ヲ指示シタルモノナルヲ認ムルニ足ル第二宮口作次  
 郎ハ明治二十八年十一月四日亡父ノ家督ヲ相續シ其後亡父ノ名義ヲ以テ納税其他村ノ負擔

ヲ分任シ明治三十一年十一月二十五日ニ至リ名義書替ヲ爲シタル事實ハ原告モ認ムル所ナ  
 レハ作次郎ハ明治二十八年十一月四日家督相續ト共ニ亡父ノ財産ヲ取得シ其後亡父名義ノ  
 負擔其他村ノ負擔ヲ分任シ來リタルコト明ナリ左レハ單ニ其當時名義書替ヲ了セザリシ  
 一事ヲ以テ公民權ニ缺クル所アリト云フヲ得ス第三渡邊幸四郎カ明治三十二年二月六日其  
 所有地ノ一部ヲ他ニ賣却シ登記ヲ經テ其所有權ヲ他ニ移轉シタルコトハ既ニ原告ノ認ムル  
 所ナリ左レハ假令公簿上ノ訂正ナキカ爲メ依然幸四郎ニ於テ既ニ他ニ賣却シタル地所ニ付  
 キ納税シ來リタルニ過キサレハ之ヲ以テ幸四郎ハ選舉權ヲ有スルモノナリト云フヲ得ス第  
 四野田徳次郎公民權有無ニ付キ原告ハ家督相續ニ依リ相續人ニ於テ被相續人ノ權利義務ヲ  
 繼承シ從テ被相續人ノ公民權ヲモ併得ス可キモノナリト云フト雖トモ郡制第六條第三項ノ  
 規定ハ町村制ニ關係ナキヲ以テ該規定アルカ爲メ徳次郎ハ被相續人ノ公民權ヲ併得シタル  
 モノト云フヲ得ス從テ郡制第六條第一項ノ資格ヲ有スルモノニ非ス第五野田傳次郎ハ原告  
 モ認ムル如ク明治二十六年二月土地ヲ所有シ地租ヲ納メ村ノ負擔ヲ分任シ明治三十二年二  
 月父ノ死亡ニ依リ一戸ヲ構ヘタル者ナレハ町村制第七條ノ資格即チ公民權ヲ有スルノミナ  
 ラス家督相續ニ依リ被相續人ノ財産ヲ取得シタル結果郡制第六條第三項ニ依リ同條第一項  
 未段ノ資格ヲ得テ選舉權ヲ取得シタルモノト云ハサルヲ得ス依テ被告カ與ヘタル裁決ハ  
 至當ニシテ取消スヘキ限リニテラス其ノ他尙ホ原告ニ於テ陳述スル所アルモ裁判ニ必要ナ  
 キヲ以テ説明ヲ與ヘス

家督相續ト公民權トノ關係及ヒ土地賣却ニ依ル公民權ノ消滅



右ノ理由ナルニ依リ判決スルコト左ノ如シ  
原告ノ請求相立タズ訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●不當裁決取消ノ訴 明治三十三年第七十六號  
明治三十三年六月廿六日判決 (請求不立)

判決要旨

- 一、郡會議員ノ選舉立會人ハ之ヲ選任スルノ權アル町村長ニ於テ解任スルコトヲ得
- 二、選舉資格アリトノ判決ヲ受クルモ其ノ判決確定スルニアラサレハ選舉人名簿ニ登錄スルコトヲ得ス
- 三、郡會議員選舉ノ時日ヲ定ムルハ郡長ノ職權ニ屬ス故ニ町村長カ此ノ時日ヲ告示シタリトスルモ此ノ告示ハ何等ノ効力ヲモ有セサルヲ以テ之レカ爲メ選舉ヲ妨ケタリト認定スルヲ得ス

說明

事件ハ說明ヲ要セス

(參照) 選舉ヲ管理スル町村長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任シ其ノ町村長ハ選舉長トナル

(郡制第十三條)

郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フ下略(郡制第九條)

山口縣長門國厚狭郡吉野村  
第六十番屋敷居住平民農  
郡會議員選舉有權者

原告 本 東 雄

山口縣選舉會  
山口縣知事

被告 古 澤 滋

訴訟代理人

片 寄 雄

右當事者間ニ於ケル不當裁決取消ノ訴訟雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ第一郡制第十三條ノ規定ニ依リハ選舉ヲ管理スル町村長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任シ其町村長ハ選舉長トナル選舉立會人ハ名譽職トストアリ夫レ選任ハ讀テ字ノ如ク選任スルノ意ニシテ其管理者タル町村長ハ最初各選舉人中ヨリ選任スルノ職權ヲ與ヘタルハ法文ニ於テ許シタル所ナルモ之カ必要ニ依リ解任スヘキ事ヲ許シタル法文ナシ然ルニ村長ハ想像ヲ以テ之ヲ取消シタルハ違法ナリ本件ノ事實ハ卅二年七月十三日村長辭職シ現村長吉富始一就職シタルハ九月十八日ナリ依テ助役藤本百合之進ニ於テハ此村長不在期間ハ代理ノ職權ヲ以テ名簿調製其他選舉ノ準備ヲナシタルモノニシテ助役ハ九月八日附テ以テ選舉人山中俊輔、和田孫四郎、河村彌

選舉立會人ノ解任○選舉名簿誤ノ記入○選舉ノ告示



助、山本末藏ヲ立會人ニ選任シ右四名ハ同月二十四日頃承諾書ヲ村長ニ提出シタリ然ルニ村長吉富ハ禮ニ故意ヲ以テ同月二十八日ニ至リ突然前記四名ニ對シ立會人ヲ甲第一號證ノ如ク取消シタリ抑モ前記四名ハ一旦承諾書ヲ提出シタル以上ハ辭退スルカ若クハ選舉期日ノ時刻ニ出席セスシテ自然自分權利ヲ拋棄スルノ外所謂法文ニ示シタル名譽職ヲ他ヨリ侵害セラル、ノ權利ナキモノトス加之甲第一號證ノ如ク公然告示ヲナスニ於テハ郡制ノ明文ヲ無視スルモノト云ハサルヘカラス而シテ選舉人中ニハ立會人取消ノ告示アルモ更ニ選任ノ告示ナキヲ以テ或ハ選舉會不成立トナルノ感ヲ起セシヤモ計ルヘカラス何トナレハ現ニ山中俊輔ノ如キハ立會人ヲ取消シタルニ依リ選舉ノ規定ニ違背シタルモノト主張シ選舉當日選舉長ト激論ノ上遂ニ投票權ヲ拋棄スルノ一例アレハナリ第二河村治三郎ナル者ハ選舉人名簿ニ登錄セラルヘキ郡參事會ノ裁決アルニ之ヲ登錄セサルヲ以テ選舉ノ結果ニ一人ノ異動ヲ來シタルモノナレハ是亦違法ノ選舉會ナリ第三郡制第十二條ニ依レハ村長ハ選舉ノ場所而已ヲ告示スヘキ規定ナルニモ係ハラヌ九月三十日午前七時ヨリ午後四時ニ終ルトノ告示ヲナシ而シテ村長ハ選舉ノ四日前之ヲ訂正シタリト云ヘトモ其訂正ハ甲第四號證ノ如クニシテ訂正ノ效力ナキノミナラス公然發表シタルノ證據ナシ故ニ選舉ニ妨害アリタリ第四本件選舉ニハ代替投票又ハ投票ヲ捐替其他不正ノ所爲アルコトハ甲第五號證、甲第九號證、甲第十號證ニ依リ明ナリ右ノ理由ナルニ依リ被告カ與ヘタル裁決ヲ取消シ明治三十二年九月三十日吉部村ニ於テ舉行シタル郡會議員ノ選舉

ハ取消スヘシトノ裁判ヲ求ムト云フニ在リ  
被告答辯ノ要旨ハ第一郡制第十三條ニ於テハ選舉ヲ管理スル町村長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任シ云々ト規定シ之カ解任ニ關シ何等ノ規定ヲ設ケス故ニ法律ニ於テ特ニ職務ノ保障ニ關シ反對ノ規定ナキ限りハ之カ解任ヲ爲スハ選任ノ職權アル町村長當然ノ職權ナリト信ス又其告示ヲ以テシタルハ當人等ニ於テ解任通知書ヲ受領セサルニ依リ便宜ノ措置ニシテ共ニ規定違背ニアラス第二河村治三郎カ選舉人名簿ニ登錄セラルヘキ郡參事會ノ裁決ハ選舉當日則チ九月三十日ニ於テハ確定期限ニ到達セサル未確定ノ裁決ナルヲ以テ選舉人名簿ニ登錄スヘカラサルハ勿論法律上規定ノ手續ヲ經タル確定名簿ニ依リ行ヒタル選舉ナルヲ以テ選舉ノ規定ニ違背シタル點ナシ第三選舉會ノ場所ハ郡制第十二條第一項ニ依リ選舉ヲ管理スル町村長之ヲ指定シ同條第二項ニ依リ選舉ノ日ヨリ少クトモ三日前之ヲ告示スヘキモノニシテ村長ハ此ノ法定ノ手續ヲ履行スルト同時ニ投票ヲ行フヘキ日時ノ通知ヲ計リ注意上郡長カ郡制第九條ニ依リ告示セシモノ、一部ヲ告示シタルニ偶々其告示中誤謬アリタルモ爲メニ法律上村長ノ爲シタル選舉會ノ場所指定ニ何等錯誤ナキヲ以テ告示ノ全部ヲ無効ナリト云フ得ズ然シテ其ノ誤謬アリタル投票ヲ行フヘキ日時ニ就テモ村長ハ之ヲ發見シ選舉四日前ニ於テ明確ニ訂正シタルヲ以テ事實ニ於テモ亦選舉人ヲ誤ラシメタリト云フヲ得ズ其他原告ニ於テ陳辯スル所アルモ答辯ノ必要ナシト認ム依テ原告ノ請求ハ排斥ヲ請フト云フニ在リ

選舉立會人ノ解任○選舉名簿錄ノ記入○選舉ノ告示



依テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告主張ノ第一郡會議員選舉立會人ノ解任ニ就キテハ之ヲ保障シタル法令ノアラサルヲ以テ選任ノ權アル村長ニ於テ解任スルモ之ヲ違法ト謂フヲ得ス第二河村治三郎ナル者ヲ郡會議員ニ於テ選舉權アリト裁決シタルハ明治三十二年九月二十六日ニシテ選舉會日ナル同月三十日ハ未ダ裁決ノ確定セザル期間ニ在ルモノナレハ之ヲ登錄セザルハ正當ノ事トス第三村長カ選舉ノ場所ノミヲ告示スヘキニ時間ヲモ告示シタルハ雙方爭ナキ事實ナルモ選舉ノ時日ヲ定ムルハ郡制第九條ニ依リ郡長ノ職務ナルヲ以テ村長ノ告示ハ効力ヲ有スルモノニアラス故ニ之カ爲メ選舉ヲ妨クタリト認定スルヲ得ス第四代書投票其他不正ノ行爲アリトシ甲第五號、甲第九號、甲第十號證ヲ以テ立證ヲ爲スモ該證ハ孰レモ選舉數十日以後ノ調製ニシテ隨意ニ作成シ得ヘキモノナレハ之ヲ證據ト認ムルヲ得ス要スルニ原告ノ主張ハ被告ハ裁決ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス

右ニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

不當裁決取消請求事件

明治三十二年第七十九號  
明治三十三年五月十四日判決

(請求相立)

判決要旨

同一選舉ノ當選ヲ裁決スルニ當リ甲者ノ得點ハ選舉錄ノ得點數ニ依リ乙者ノ得點ハ再調査ノ得點數ニ依リ當選者ヲ定メタルハ違法ナリ

說明

選舉ノ執行ニ關シ選舉錄ニ記載アル甲者ノ得點數ハ之レヲ信シ難シトナシ之ニ對シ再調査ヲ行ヒ是ニ依テ得點數ヲ定メタルトキハ同一選舉錄ニ記載セル乙者ノ得點數モ亦タ再度調査ノ方式ニ依テ之レカ得點數ヲ定メサルヲ得ス何トナレハ同一選舉錄ノ記載事項ニシテ一ハ之レヲ正確ノモノトナシ一ハ之レヲ不正確ノモノトナスノ理由ナクハナリ是レ本判決ノ基本トスル所ナリ

原告 中川 敬忠

訴訟代理人 齊藤 孝治

被告 千頭 清臣

訴訟代理人 戸 豊

右原告中川敬忠ヨリ被告新瀨縣知事千頭清臣ニ係ル不當裁決取消請求ノ訴原被雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

選舉得點ノ確定



原告訴求ノ要旨ハ明治三十一年十一月二十五日執行シタル新津町會議員二級選舉ニ澤田庄平百四十六點坂爪虎三郎百四十四點宮崎新助百四十點眞柄道三郎百三十九點齋藤富平百三十六點金子淳一百三十六點ヲ得齋藤富平カ年長者ナルヲ以テ澤田坂爪宮崎眞柄齋藤ノ五名當選シタリ然ルニ選舉人中小林玉吉石川徳七ノ兩名ハ名簿確定後資格ヲ失ヒタル者ナルニ同人ノ投票ヲ有效トシ得點數ヲ定メタルハ違法ナリトノ理由ヲ以テ小林辰造外二名並ニ小林市太郎ヨリ町會ニ訴願シ町會ハ小林玉吉石川徳七兩名ノ失權者ナルコト明瞭セシメ以テ其投票ヲ無効ト認メタルモ投票ノ再調査ヲ爲シ其結局齋藤富平ノ得點ヲ百三十七點金子淳一ノ得點ヲ百三十五點ト査定シ選舉ノ全部ハ之ヲ取消ス可キモノニ非スト裁決シタリ訴願人ハ之ニ服セス郡參事會ニ訴願シ郡參事會ハ其訴願ヲ採用シテ選舉全部ヲ取消ストノ裁決ヲ爲シタルヲ以テ原告ハ之ニ服セス縣參事會ニ訴願セシニ縣參事會ハ郡參事會ノ裁決ヲ是認シタリ然レトモ選舉ノ全部無効ニ屬スル場合ハ其發生シタル原因カ選舉全体ニ關係ヲ及ハス場合ニ限ルモノニシテ單ニ一部分ニ對スル場合ニ在テハ全部無効ト爲ス可キモノニ非ス選舉ノ無効ト投票ノ無効トハ大ニ其趣キヲ異ニスルモノナレハ投票無効ノ結果當ニ選舉全部ノ無効ヲ惹起スルモノニ非ス本件失權者兩名カ爲シタル投票ハ選舉ノ全部ヲ無効ナラシム可キモノニ非スシテ單ニ其投票ノミヲ無効ト爲スニ止マルノミ縣參事會ノ裁決ハ齋藤富平ノ得點數ヲ百三十七點金子淳一ノ得點數ヲ百三十六ト認メ齋藤富平ノ得點數ヨリ無効投票二個ヲ控除シ之ヲ金子淳一ノ得點數ニ比較セハ

選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルヲ以テ選舉ノ全部ハ無効ナリト云フト雖モ齋藤富平ノ得點ヲ百三十七トシタルハ再調査ノ得點ニ依リ金子淳一ノ得點ヲ百三十六トシタルハ選舉錄ノ得點ニ依リタルモノニシテ一ハ再調査ノ得點ヲ採リ一ハ選舉錄ノ得點ヲ採リ之ヲ對照比較セシモノナレハ基本タル可キ標準ヲ誤リタルモノナリ而シテ雙方共ニ再調査ノ得點ヲ標準ト爲ストキハ齋藤富平ハ百三十七點金子淳一ハ百三十五點ナレハ無効投票二個ヲ齋藤富平ノ百三十七點ヨリ控除スルモ齋藤金子兩名ノ得點ハ共ニ百三十五點トナルヲ以テ結局年長者タル齋藤富平ノ當選者タルコト明カナリ左レハ本件ハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキカ故ニ選舉ノ全部ヲ無効ト爲ス可キモノニアラサルヲ以テ明治三十二年十月十三日付ヲ以テ被告カ與ヘタル裁決ヲ取消シ明治三十一年十一月二十五日執行シタル新津町會議員二級選舉ハ取消ス可キモノニアラストノ判決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ元來町村會議員選舉ノ投票ハ無記名ナルカ故ニ失權者小林玉吉石川徳七ノ爲シタル投票ニ其何人ヲ選舉シタル者ナルヤ固ヨリ之ヲ確認ス可キモノナレ尤モ當選者中得點最少數ナル者ノ得票中ヨリ假リニ之ヲ控除シテ落選者中ノ最多數得點ト比較シ猶ホ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ者ニ在テハ之カ爲メ勿論選舉全部ヲ取消スノ理由ト爲スニ足ラサルモ本件ハ右ト全ク場合ヲ異ニシ失權者ノ投票二票ヲ當選者中得點最少數ナル齋藤富平ノ得票百三十七點ヨリ控除スルトキハ落選者中得票最多數ナル金子淳一ノ得票百三十六ニ比シ却テ一點ノ少數トナリ所謂選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルニ至ル



者ナレハ此場合ニテハ選舉ノ全部ヲ無効トセサル可カラサルハ勿論ナリ又原告ノ主張スル再調査得點ナルモノハ被告ノ曾テ認知セザリシモノナルノミナラス該得點數ナルモノハ當初ヨリ訴訟ノ材料トナリタルコトナキモノナルコトハ原告ヨリ被告ニ提起シタル訴訟書中失權者小林玉吉ノ爲シタル投票並ニ同石川徳七ノ爲シタル投票ヲ各別ニ控除スルトキハ當選者タル齋藤富平ノ得點百三十七點ハ落選者タル金子淳一ノ得點數ニ對シ同數ナルコト明カナリ果シテ然ラハ無効投票二個ヲ各別ニ控除スルトキハ齋藤富平ノ得點數ハ却テ金子淳一ノ得點數ヨリ少數ト爲ル可キハ數ノ正ニ當然ナル可キモノト原告ハ今金子淳一ノ得點數ヲ百三十五點トシテ本訴ヲ提起シ以テ被告ノ與ヘタル裁決ヲ非難セントスルハ當テ得サルモノナルヲ以テ原告ノ請求ヲ棄却セラレタシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
 本件ノ所争ヲ斷スル要點ハ被告カ齋藤富平ノ得點ヲ百三十七點トシ金子淳一ノ得點ヲ百三十六點トシ之ヲ標準トシテ裁決ヲ爲シタルハ相當ナリヤ否ヤニ在リ按スルニ被告ハ再調査ノ得點數即チ齋藤富平ノ百三十七點金子淳一ノ百三十五點ハ曾テ認知セザリシモノナルノミナラス當初ヨリ訴訟ノ材料トナリタルコトナキモノナリト陳辯スルモ甲一號證ナル裁決書及乙第二號證ナル訴訟狀ヲ閱スルニ其文中何レモ齋藤富平ノ得點ヲ百三十七點ト訂正シ金子淳一ノ得點ヲ百三十五點ト訂正シ云々ト明記シタルノミナラス甲二號證ナル選舉錄ニ

依レハ齋藤富平金子淳一ノ得點ハ共ニ百三十六點ナルニ拘ラス被告カ齋藤富平ノ得點ヲ百三十七點トシテ裁決ヲ爲シタルヲ見レハ必竟再調査ニ於ケル齋藤富平ノ得點ヲ探リタルニ如ナラス是等ノ事實ニ徴スルモ被告ハ再調査ノ得點ヲ認知シ之ヲ裁決ノ材料ニ供シタルモノト認メサルヲ得ス然レハ金子淳一ノ得點數ニ付テモ亦再調査ノ得點百三十五點ヲ探リ之ヲ標準ト爲ス可キ筈ナルニ事茲ニ出テス選舉錄ノ得點百三十六點ヲ探リ以テ裁決シタルハ原告所論ノ如ク一ハ再調査ノ得點ニ依リ一ハ選舉錄ノ得點ニ依リタルモノニシテ即チ基本タル可キ標準ヲ誤リタルモノト云ハサルヲ得ス而シテ今雙方共ニ再調査ノ得點數即チ齋藤富平ノ百三十七點金子淳一ノ百三十五點ヲ探リ之ヲ標準ト爲シ百三十七點ヨリ無効投票ノ二票ヲ控除スルモ仍チ年長者タル齋藤富平ノ當選者タルコト明瞭ナリ故ニ本件ノ如キ場合ニ在テハ選舉ノ結果如何ニ論及スル必要ナク隨テ選舉ノ全部ヲ無効トスヘキモノニアラス右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

明治三十二年十月十三日附テ以テ被告カ爲シタル裁決ハ之ヲ取消ス明治三十一年十一月二十五日執行シタル新津町會議員二級選舉ハ取消スヘキモノニアラス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

●所得稅賦課不服ノ訴

明治三十三年 第四十號  
 明治三十三年五月十八日判決

(請求相立)

判決要旨

町村制中各職員ノ範圍○町村會ニ於テ職員ニ支給スル實費支出ニ關シ爲シタル裁決ノ効力



一、町村制第七十五條ノ所謂名譽職員中ニハ町村會議員ヲ包含セズ

百七十八

二、町村會議員ニ對シ實費ヲ支辨スルハ法律ノ許サ、ル所ナルヲ以テ町村會カ之レテ町村ニ必要ナル費用ナリトシテ議決スルハ違法ナリ

說明

本件ハ說明ヲ要セズ

(參照) 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受ケルコトヲ得

實費辨償額、報酬額及書記料ノ額(第六十三條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス(町村制第七十五條)

町村ハ其必要ナル支出及ビ從前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律命令ニ依テ賦課セラル、支出ヲ負擔スルノ義務アリ

町村ハ其財產ヨリ生スル收入及ビ使用料、手数料(第八十九條)並材料、過意金其他法律命令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ給不足アルトキハ町村(第九十條)及夫役現品(第一百一條)ヲ賦課徴收スルコトヲ得(同上第八十八條)

兵庫縣城崎郡豊岡町ノ内  
豊岡町二十五番屋敷平民  
酒造業

原 告 富 田 仙 助  
外 一 名

訴訟代理人 平岡萬次郎

七十

右原告富田仙助外一名ヨリ被告兵庫縣知事大森鍾一ニ對スル町税賦課不服ノ訴審理ヲ遂クル處

七十一

被 告 大 森 鍾 一  
兵庫縣知事  
訴訟代理人 森 田 久 忠

被告供述ノ要旨ハ豊岡町長原庄七ハ明治三十二年度歳入出豫算ヲ編製スルニ方リ歳出之部會議費ニ於テ議員實費辨償額七拾圓ヲ豫算ニ掲ケ町會ノ議決ヲ經テ明治三十二年五月二十九日原告等ニ對シ右議員實費辨償額ヲ包含シタル町税戸別割賦課令狀ヲ送達セリ元來議員實費辨償額ハ町村制ノ許容セサル額ニシテ豊岡町會カ之ヲ容レタルハ不法ノ議決ナルヲ以テ原告ハ順次訴訟ノ階級ヲ經テ兵庫縣參事會ニ訴願シタル所縣參事會ハ町村制第七十五條ノ名譽職中ニハ町村會議員ヲ包含スルモノナリ又實費ノ給與ハ町村ノ行政ナリトノ理由ニ依リ議員實費辨償額ノ議決ハ不法ニアラストシ原告ノ訴願ヲ排斥セリ然レトモ町村制第七十五條ハ町村ノ行政ニ關與スルモノ、爲メニ設ケタル法條ニシテ名譽職ノ中ニハ町村會議員ヲ包含セス而シテ他ニ町村會議員ニ實費辨償ヲ給スル規定ヲキ以テ上ハ議員實費辨償額ノ議決ハ違法ナリト謂ハサルハカラス又町村ハ法人ニシテ法律ノ範圍内ニ於テ行動セサルヘカラサルモノナレハ漫ニ町村ノ行政ナリト稱シテ法律ノ認メサル行動ヲ爲スヲ得サルハ勿論ナリ要スルニ兵庫縣參事會ノ議決ハ不法ノ議決ヲ是認シタルモノニテ同シク不法タルヲ免レサレハ之ヲ取消シ明治三十二年度豊岡町税第一期戸別町税制中名譽職員ノ範圍(町村會ニ於テ職員ニ支給スル實費支出ニ關シ爲シ)ニ關シテハ

町税制中名譽職員ノ範圍(町村會ニ於テ職員ニ支給スル實費支出ニ關シ爲シ)ニ關シテハ

百七十九



割賦課ノ中議員實費辨償額ニ原因スル部分ノ賦課ハ之ヲ取消スヘシトノ判決ヲ請フト云  
フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ニ於テ町村制第七十五條ハ町村制第三章町村行政ノ下ニ規定セラ  
レアルカ故ニ同條ノ名譽職ノ内ニハ町村行政吏員ニテラサル町村會議員ヲ包含セスト云  
フモ名譽職員ニ實費ヲ給與スルコトハ即チ町村ノ行政ニ屬スル行為ニシテ給與ヲ受クル  
者カ行政吏員タラサルカ爲メニ給與行為カ行政行為トナラサル理ナケレハ第三章町村行  
政ノ下ニ實費辨償ノコトヲ規定セシハ毫モ恠ムニ足ラサル次第ニシテ町村會議員モ名譽  
職タル以上ハ同條ニ依リ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得ルハ當然ニシテ第三章ノ表題ヲ理  
由トシテ第七十五條ノ名譽職ハ行政吏員ノミヲ指示シ議員ハ之ニ包含セスト解釋スルハ  
不當ナリ又明治廿二年內務省令第二號市町村歲入出豫算配賦例備考ニ徵スルニ第二款會  
議費中ニ議員實費辨償額ノ一項ヲ設ケ居ルノミナラス名譽職員ニハ給料ヲ給セサルモ公  
務ノ爲メニ要スル實費ハ之ヲ辨償セシムルコト町村制ヲ通シテノ精神ナリ加之ナラス町  
村會ニ於テ町村ニ必要ナル費用トシテ之レカ議決ヲナセシ以上ハ町村制第八十八條ニ依  
リ之ニ負擔スヘキ義務アルモノナレハ議員實費辨償額ヲ原告ニ賦課セシハ不法ニアラス  
要スルニ原告ノ請求ハ理由ナキニ付キ之ヲ排斥セラレシコトヲ請フト云フニ在リ  
依テ判決ノ理由ヲ説明スルヨリ左ノ如シ

ヲ包含スルハ勿論ニシテ町村會議員ニ實費ノ辨償ヲ給スルコトハ町村行政ニ外ナラサルヲ  
以テ實費辨償ノ給與ヲ第三章町村行政ノ下ニ規定セシニ過キス第三章ノ下ニ規定セル第七  
十五條ナルカ故ニ同條ノ名譽職トハ町村吏員ノミヲ指シ町村會議員ハ之ニ包含セスト解釋  
スルハ不當ノ說ナリト云フト雖モ町村制第七十五條ハ町村制第三章町村ノ行政ニ關スル規  
定中ノ一ナルヲ以テ見ルモ同條ニ於テ職務取扱ノ爲メニ要スル實費トハ町村長、助役、區  
長、區長代理者、委員等町村制ノ所謂町村吏員カ其行政職務ヲ取扱フ爲メニ要スル實費ヲ  
謂フモノニシテ同條ノ名譽職中ニハ町村會議員ヲ包含セズ被告ハ又明治二十二年內務省令  
第二號市町村歲入出豫算配賦例備考ニ徵スルモ第二款會議費中ニ議員實費辨償額ノ一項ヲ  
設ケアリト云フモ同省令ニハカハル項ヲ設ケタルコトナシ又實費辨償額ハ町村會ニ於テ町  
村ニ必要ナル費用トシテ之ヲ議決セシ以上ハ町村制第八十八條ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル  
モノナレハ之ヲ町村稅トシテ賦課徵收スルハ不法ニアラスト云フモ議員ニ實費ヲ辨償スル  
コトハ前項説明ノ如ク法律ノ許サハル所ナレハ其議決ハ無効ニシテ町村ノ負擔トナラズ從  
ツテ町村稅トシテ議員實費辨償額ヲ賦課セシハ違法ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ  
明治三十二年度豐岡町稅第一期戶別割ノ內議員實費辨償額ニ原因スル部分ノ賦課ハ原告ニ  
對シテ之ヲ取消スヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス  
町村制中名譽職員ノ範圍○町村會ニ於テ職員ニ支給スル實費支出ニ關シ爲シ  
タル議決ノ効力



● 府縣會議員被選舉權ノ有  
無ニ關スル縣參事會ノ決定不服ノ訴 明治三十三年第三十三號 明治三十三年五月廿一日判決 (請求不立)

百八十二

判決要旨

府縣制第三十七條第四項ニ依リ縣參事會ノ決定ニ對シ行政訴訟ヲ提起シ得ル者ハ其ノ決定ヲ受ケタル當事者ニ限ル

說明

行政訴訟ハ之レヲ國家ノ方面ヨリ見ルトキハ行政監督ノ一ニシテ之レヲ一私人ノ方面ヨリ觀ルトキハ人格權即チ自在目的ノ主張ニ外ナラス而シテ一私人ハ自己ノ人格權ヲ主張スルノ權能ヲ有スレトモ他人ノ人格人ヲ主張スルノ權能ナシ果シテ然ラハ本件ノ場合ニ於ケル行政訴訟ノ提起ハ被選舉者ニ對シ行ハレタル決定ニ對スル不服ノ申立ナルカ故ニ此ノ訴訟ノ提起ハ論理上其ノ決定ヲ受ケタル者ノ爲メヘキ人格權ノ主張ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ヌ是本判決ノ基本トスル所タリ

(參照) 府縣會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ府縣參事會之ヲ決定ス(府縣制第三十七條第一項)

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(同上第四項)

七十四

七十五

原告 鳥取縣因幡國岩美郡浦富村  
二百十三番屋敷平民  
鳥取縣參事會  
澤田 十太郎 外二名 訴訟代理人 西原 清東

被告 鳥取縣參事會議長  
鳥取縣知事  
香川 輝 訴訟代理人 米原 芳藏

右原告澤田十太郎外二名ヨリ被告鳥取縣參事會同縣知事香川輝ニ對スル縣會議員被選舉權ノ有無ニ關スル鳥取縣參事會ノ決定不服ノ行政訴訟ニ付被告ハ妨訴ノ抗辯ヲ爲セリ依テ審理ヲ遂ケル處

被告抗辯ノ要旨ハ本件ハ鳥取縣會ニ於テ議員岩崎吉太郎ハ被選舉權ヲ有セサル者ナルコトヲ認メ府縣制第三十七條第二項ニ依リ知事ニ通知セルヲ以テ同條第三項ニ依リ決定ヲ與ヘタルモノナレハ右決定ニ對シテハ同條第四項ニ依リ本人即チ岩崎吉太郎ヨリ起訴シ得ルノ外何人ヨリモ起訴スルコトヲ許サ、レヲ以テ原告等ハ本件ニ付行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノナリ依テ本訴ノ却下ヲ求ムト云フニ在リ

原告反駁ノ要旨ハ府縣制第三十七條第四項ニハ本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ト規定シアリテ同條第一項末文ニハ其被選舉權ニ關スル異議ハ府縣參事會之ヲ決定ストアリテ其異議ヲ主張シ得ル者ニ付何等ノ制限ナキヲ以テ見レハ府縣會議員タル者ハ其府縣會ヲ組織セル一員ノ資格ニ對シ異議ヲ主張シ得ルモノト

行政訴訟ノ性質

百八十三



解釋セサルヘカラス果シテ然リトセハ府縣會議員ハ總テ本條第四項ニヨリ出訴シ得ヘキ  
モノタリ若シ被告解釋ノ如ク被選舉權ノ有無ヲ決セラルヘキモノ、ミ出訴シ得ヘキモノ  
トスルトキハ有資格ノ決定ニ對シテハ途ニ出訴スルノ道ナク同項ハ半ハ空文ニ終ルヘク  
被告ノ抗辯ハ到底理由ナシト云フニ在リ

依テ雙方ノ辯論ヲ聽キ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ

原告ハ府縣會議員タル者ハ府縣制第三十七條第一項ニ定ムル所ノ被選舉權ニ關スル異議ヲ  
主張シ得ヘキニ依リ同條第四項ニ依リ出訴ノ權アリト言フト雖抑府縣制第三十七條第一項  
ハ府縣會議員ノ被選舉權ニ關スル異議ノ決定ヲ府縣參事會ノ權限ニ屬セシムル原則ヲ規定  
シタルノミナレハ原告陳述ノ如ク一已ノ議員ニシテ參事會ニ向テ直ニ異議ヲ主張スルコト  
ハ法律ノ許サル所ナリ隨テ參事會ノ決定ニ對シテハ失職者トセラレタル議員若クハ異議  
ノ當事者ニ非ザレハ同條第四項ニ依リ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノト解釋セサルヘカラス  
本件ノ原告澤田十太郎外二名ハ縣會議員タルモ自己ノ被選舉權ニ毫モ關係アルコトナク即  
チ異議ノ當事者トナルコトヲ得サルモノナレハ本訴ヲ提起スルノ權利ナシトス  
右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ  
本訴ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●縣會議員選舉取消ノ訴

明治三十三年第四十三號  
明治三十三年六月廿五日判決

(請求不立)

判決要旨

投票函ヨリ文字ノ記載ナキ投票用紙ノ一葉出タル一事ヲ  
以テ府縣制第十七條ノ規定ニ違背セリト云フヲ得ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

原告 山梨縣北巨摩郡多麻村  
第七番戸平民 禮吉  
外一名 訴訟代理人 關 修輔

被告 山梨縣參事會  
山梨縣知事 加藤平四郎 訴訟代理人 五 味 武

右當事者間ニ於ケル縣會議員選舉取消ノ訴訟雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂クル處  
原告陳述ノ要旨ハ明治三十二年十月六日山梨縣北巨摩郡穂坂外三十六箇村町役場ニ於テ  
縣會議員選舉ヲ執行シ續テ同月十日北巨摩郡役所ニ於テ選舉會ヲ開キタルニ穂坂村ノ投  
票人ハ百七十九名ナリシニ百八十票ノ投票アリ故ニ同郡選舉人ノ總數三千四百六十八人  
ルニ三千四百六十一票トナリ出席選舉人ノ數ヨリ一票ノ多キニ至レリ而シテ其餘分ナル  
一票ハ無資格者ニ於テ選舉シタルモノナレハ異議ヲ述ヘ山梨縣參事會ニ該選舉全部ノ取  
消ヲ請求シタルニ參事會ニ於テハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサル旨ヲ以テ取消スヘキ限リ

投票ノ法式



ニ非スト決定セラレタリト雖本件ハ第一選舉會場ニ出席シタル選舉人數ヨリ一票ノ餘票アリタルコトハ選舉長及縣參事會カ確認スル所ニシテ即チ府縣制第十七條ニ選舉ハ一人一票ニ限ルトノ規定ニ違背セルモノナリ然ルニ其一票カ選舉ノ結果ニ異動ヲ生ゼサルヲ理由トシテ取消スヘキモノニ非スト決定セルハ誤リナリ又決定書ニ「前略況ンヤ其一票ハ被選舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノニシテ何人ノ得票ニモ關係ナシ云々」トアルモ何レノ投票カ餘紙ナリシヤ無記名投票紙面上判別シ難シ或ハ無効投票ニヨリ被選舉人トナリシモノアルヘク此ノ如キ曖昧ナル選舉ハ到底無効タルヲ免レズ第二種坂村ノ投票函ヨリ一票ノ餘紙ノ出タル原因ハ村長選舉掛カ夜中投票函ヲ郡衙ニ持參セシニ之ヲ受取ラサルニ依リ重崎町旅人宿岩崎屋ニ持込ミ保管人ヨ付セス夜中投票函ヲ開キ投票ノ取捨ヲ爲シタルコトナレハ此投票函中ノ投票ハ全部疑ヲ存スルモノナルヲ以テ本件選舉ハ全部無効トストノ判決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ一票ノ過剩投票ハ原告ノ主張スル如ク府縣制第十七條第十八條ノ規定ニ違背シ無資格者ニ於テ投票シ又ハ一人ニテ二票ヲ投票シタル證據ナキノミナラス該選舉ノ結果ハ當選者中ノ最少得點者ノ得票五百五十參點次點者ノ得票數五百貳拾點ナルヲ以テ一票ノ爲メ選舉ノ結果ニ異動ヲ及ボスノ虞ナキモノナルヲ以テ府縣制第三十五條第一項但書ニ依リ該選舉ハ無効トスヘキ限リニアラサルモノトス又原告ハ投票函ヲ旅人宿ニ持込ミ夜中開函投票ヲ取捨シタル行爲ナルヲ以テ該投票函中ノ投票ハ全部疑ヲ存スト

論スルモ其宿屋ニ於テ開函シタリト云フコトハ不明ニシテ確證ナキヲ以テ之ヲ事實ト認メ難シ右ノ理由ニ依リ原告ノ申立ハ排斥シラント云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
原告ハ第一選舉場ニ出席シタル選舉人總數ヨリ一票ノ餘票アルコトハ選舉長及被告參事會カ確認スル所ニシテ即チ府縣制第十七條ノ規定ニ違背スト云フト雖投票函ヨリ文字ノ記載ナキ投票用紙ノ一葉出タル一事ヲ以テ府縣制第十七條ノ規定ニ違背セリト開フヲ得ス第二村長選舉掛ハ投票函ヲ旅人宿ニ持込夜中投票函ヲ開キ投票ノ取捨ヲ爲シタル事ナレハ該投票函中ノ投票ハ全部疑ヲ存スト主張スレトモ此事ニ關シ一モ立證ヲ爲サズ單ニ原告ノ陳辯スルニ止マルヲ以テ之レカ事實ヲ認ムルニ由ナシ從テ被告ノ裁決ハ取消スヘキ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●不當裁決取消ノ訴 明治三十二年第六十七號 明治三十二年十二月廿二日判決 (請求不立)

判決要旨

一、訴願人ハ裁決以前ニ在テハ何時ニテモ訴願ノ理由ヲ追

追加訴願ノ効力



加スルコトヲ得隨テ先ニ選舉權ヲ有セサル甲乙兩人カ  
選舉ニ參與シタリトノ理由ヲ以テ選舉全部ノ取消ヲ求  
ムル訴願ヲ爲シタル後丙丁兩人モ亦タ選舉權ヲ有セス  
シテ選舉ニ參與シタリトノ理由ヲ追加訴願トシテ提出  
スルモ違法ニアラス

二、裁決ニ採用シタル法條ニ誤記アルモ之レヲ以テ無効ノ  
裁決ナリト云フヲ得ス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

原告 福島縣安達郡石井村村長  
渡邊 康晴

被告 福島縣知事  
山田 春三

右原告渡邊康晴ヨリ被告福島縣知事山田春三ニ對スル不當裁決取消ノ訴審理ヲ遂クル處  
原告陳述ノ要旨ハ本件所爭要點ハ選舉人渡邊重兵衛齋藤喜作兩人カ一時營業ノタメ他村  
ニ寄留シ選舉資格ヲ失ヒタルニ付是等ノ者ヲシテ選舉ニ參與セシメタル選舉ハ選舉ノ規  
定ニ違背シタル無効ノ選舉ナレハ其取消ヲ求ムト云フニ在リテ即チ第一號第三號第五號

訴願書ニ明記スルカ如シ然ルニ其後三十一年十一月二十四日ニ至リ訴願人等ハ元來ノ爭  
執以外ノ事項ヲ記載シ法律ノ規定ニ據ラズ村會郡參事會ノ裁決ヲ經サルモノヲ以テ追訴  
願ト爲シ之ヲ提出シ縣知事ニ於テ之ヲ受理シ第七號ノ通裁決シタルハ願ル不當ノ所爲ナ  
リトス抑訴願ハ所爭ノ目的アリ町村制第二十九條ノ期間内ニ一定ノ申立ヲ爲シ提起シ得  
ヘク選舉ノ日ヨリ百數十日後ニ至リ元來爭議セサル事項ヲ記載シ町村制第三十七條ノ順  
序ヲ經ス直ニ縣參事會ニ對シ法律ノ認メサル追訴願ナルモノヲ受理裁決シ得ヘキモノニ  
アラサルナリ且縣知事ノ裁決文中町村制第三百十條ニヨリ之ヲ受理シトアレトモ事實ニ  
アラス本訴願ハ明治三十一年十一月中ニ提出アリタルモノニシテ本縣會ノ解散ハ十二月  
二十八日ニ在レハ縣參事會ノ存立時期中ニ受理セラレタルコト明ナリ町村制第三百十條  
ハ縣參事會開設ニ至ルマテニ限ル規定ナレハ縣會解散縣參事會更ニ成立セサル場合ニ適  
用スヘキモノニアラス旁事實及法律ノ適用ヲ誤リタル不當ノ裁決ニ付本件ノ裁決ニ對シ  
テハ全然服從スルコト能ハサルニヨリ其裁決取消ノ裁判アラシトテ請フト云フニ在リ  
被告答辯ノ要旨ハ原告ハ桑原作右衛門外二名カ明治三十一年十一月二十四日追訴願ヲ被  
告ニ提出シ被告カ之ヲ受理裁決シタルハ不當ナリト云フト確該追訴願ハ訴願目的ヲ變更  
シタル者ニアラスシテ訴願ノ趣旨ヲ貫徹セシカ爲其選舉ノ違法ナル理由ヲ追加シタルニ  
過キス元來本件所爭ノ目的ハ明治三十一年六月一日執行シタル石井村會議員定期半数改  
選ニ對選舉效力ノ有無ニアリテ其ノ渡邊重兵衛齋藤喜作若クハ松本長藏安齋實吉ノ選舉

追加訴願ノ効力



資格有無ノ如キハ其目的ニアラスシテ該選舉取消ノ一理由トシテ陳述シタルニ過キサル  
 口トハ右訴願書カ被告ニ提起シタル訴願書及追訴願書ニ徴シテ明ナリ理由ノ追加又ハ取  
 消ハ訴願者ノ隨意ニシテ其訴願ノ裁決以前ニ在リテハ其目的ヲ變更セサル限リ何時ニテ  
 モ自己ノ利益ノタメニ之ヲ主張スルコトヲ得ヘキモノナリ而シテ桑原作右衛門外二名ノ  
 被告ニ提起シタル訴願及追訴願ハ始終一貫選舉效力ノ争ニシテ其訴願ハ既ニ村會郡參事  
 會ノ裁決ヲ經タルモノナルヲ以テ被告ノ之ニ對シ裁決ヲ與ヘタルハ適法ナルノミナラス  
 裁決行政廳ハ其事件ニ就キ進メテ事實ノ調査ヲナスノ職權ヲ有シ訴願者ノ陳述セサル理  
 由ヲ以テモ尙裁決ノ理由トナスコトヲ得ヘキ明白ナル事理ニ徴スルモ被告カ爲シタル裁  
 決ノ違法ニアラサルヲ知ルヘシ其他原告ハ被告ノ裁決文中町村制第三百十條ニヨリ之ヲ  
 受理シトアレトモ事實ニアラス云々ト云フト唯此ノ如キ事項ノ記載ハ裁決事項ニ必要ナ  
 キモノナルヲ以テ其裁決ノ本體ニ於テ具備スル以上ハ不當ノ裁決ト云フヲ得ス而シテ其  
 裁決ノ本體ヲ具備セルコトハ被告ハ法律ノ規定ニ依リ縣參事會ノ成立ナキノ間其職務權  
 限ニ屬スル事件ヲ專行スル職權ヲ有スルヲ以テ被告ニ裁決ノ權能ナシト云フヲ得サルヲ  
 以テ見ルモ明ナリ其專行スルト又ハ縣參事會ノ成立ヲ俟テ之ヲ職決ニ付スルト否トハ行  
 政權ノ範圍ニ屬シ他ノ容喙ヲ許サル所ニシテ元ヨリ裁決ノ效力ニ増減アルコトナキハ  
 勿論其裁決タル無資格者松本長藏安齋寅吉ノ兩名カ選舉ニ參與シタル事實アリシヲ以テ  
 該選舉ヲ取消シタルモノナレハ徹頭徹尾適法ノ裁決ニシテ之ヲ取消スヘキ理由ナキモノ

トス依テ原告ノ請求相立タストノ裁判ヲ請フト云フニ在リ  
 依テ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
 原告ハ訴願ハ所争ノ目的アリ町村制第二十九條ノ期間内ニ一定ノ申立ヲ爲シ提起シ得ヘク  
 選舉ノ日ヨリ百數十日後ニ至リ元來爭議セサル事項ヲ記載シ同制第三十七條ノ順序ヲ經ス  
 直チニ縣參事會ニ對シ追訴願トシテ提出シ得ヘキモノニ非ス縣知事モ亦法定ノ期間内ニ争  
 議ナク經過シタル事項ニ對シ法律ノ認メサル追訴願ナルモノヲ受理裁決シ得ヘキモノニ非  
 スト云フト唯元來本件訴願ハ選舉ノ效力ニ關スル訴願ニシテ訴願人ハ選舉ニ參與シタル渡  
 邊重兵衛外一名ハ選舉權ヲ有セストノ理由ヲ以テ村會議員選舉ノ全部取消ヲ要求シタルモ  
 ノナルモ該訴願ヲ縣參事會ヘ提出シタル後訴願人ニ於テ更ニ追訴願ナルモノヲ提出シテ松  
 本長藏外一名モ亦選舉權ヲ有セストノ理由ヲ追加シタルモノナリ故ニ其追訴願ハ選  
 舉ヲ無効ナラシムル當初ヨリノ目的ヲ變更シタルモノニ非スシテ唯選舉無効追加ハ訴願人  
 ニ於テ裁決前ニアリテハ何時ニテモ隨意ニ之レヲ爲シ得ヘキモノナレハ追訴願ハ法律上有  
 效ノモノニシテ被告カ之レヲ受理裁決シタルハ適法ノ處分ナリト官ハサルヲ得ス又原告ハ  
 被告ノ裁決書中町村制第百卅條ニ依リ之ヲ受理シトアレトモ之レヲ適用スヘキ場合ニアラ  
 スト云フト唯被告ハ唯採用ノ法律規定ヲ誤リ記載シタルニ止マリ本件ノ如キ縣參事會ノ成  
 立セサル場合ニ於テハ被告ハ舊府縣制第五十一條ニ依リ縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ヲ專  
 決處分スルコトヲ得ルモノナレハ被告ノ裁決ハ適法ニシテ採用規定ノ誤記アルカ爲メ其裁



決ヲ無効ナリト爲スヲ得ス  
右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ  
原告ノ請求相立タス  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●村會議員選舉取消ニ關スル訴  
明治三十二年第八十七號  
明治三十二年十二月十八日判決  
(請求相立)

判決要旨

村長カ其ノ職務停止中ニ爲シタル告示ニ依リ執行シタル  
選舉ハ違法ナリトス

說明

本件ハ說明ヲ要セス

(參照) 選舉ヲ執行スルトキハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級ニ分テ選舉前七日ヲ限リ  
ラ之ヲ公告ス可シ(町村制第十九條)

原告 富士縣議員郡古里村大字  
長澤村四千八百八十六番地  
平民 數 井 孝 次  
外三名 訴訟代理人 林 政 々 郎

被告 富士縣知事  
富士縣知事 訴訟代理人 荒 井 克 一

右當事者間ノ村會議員選舉取消ニ關スル訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ古里村長津田三郎ハ明治三十一年四月村會議員半數改選ニ要スル選舉  
人名簿ヲ縱覽ニ供セサル事實ナルヲ以テ村長ノ職務ニ違フ情狀重キモノト認メラレ婦負  
郡長ハ同年四月二十日第一號ノ通り村長津田三郎ニ停職ヲ命シ同月二十六日懲戒裁判ニ  
ヨリ第二號ノ通り解職セリ而シテ助役石田米次郎ハ第三號ノ通り同月二十二日ヨリ病氣  
ニテ職務ニ執筆シ難キ旨届出テ引籠リタレハ茲ニ本村ノ行政機關ハ全ク停止スルヲ以テ  
婦負郡長ハ知事ノ命令ニ依リ同郡書記松下義男ニ村長事務管掌ヲ命シ同月二十三日ヲ以  
テ第四號ノ通り就任及村長津田三郎カ停職ノ公告ヲナシタリ然ルニ村長津田三郎ハ停職  
處分ニ服スル能ハストテ富山縣知事及内務大臣ニ訴願シタルモ第五號第六號ノ通り本件  
ハ法律勅令中訴願ノ提起ヲ許シタル事項ニ非ルヲ以テ訴願法第九條ニ依リ之ヲ却下スト  
ノ裁決ヲ與ヘラレタリ既ニ村長津田三郎ハ停職セラレ職務ヲ執行スルコトヲ得サルニモ  
拘ハラス其停職中四日二十二日付ニテ村會議員選舉ノ公告ヲ爲シタルニ付村長事務管掌松  
下義男ハ同月二十三日第七號ノ通り該公告ヲ取消ストノ公告ヲナシタリ抑モ津田三郎ハ  
停職中職務ヲ行フコトヲ得サルハ勿論剩ヘ四月二十二日付ノ公告ハ村長事務管掌者カ取  
消シタルニ關セス同月二十九日同三十日ノ兩日ニ於テ選舉ヲ執行シタリト云フモ該選舉  
ハ選舉ノ場所日時等ヲ公告セサル不法ノ選舉ニシテ一般關係者ノ知ル所ニアラス即チ本  
件選舉ハ町村制第十九條ニ違背シタル不法ノ選舉ナルヲ以テ明治三十二年六月三十日富  
山縣知事ハ町村長ノ爲シタル選舉告示ノ効力  
職務停止中ニアル村長ノ爲シタル選舉告示ノ効力



山縣參事會方與ヘタル裁決ヲ取消スヘキ判決ヲ請フト云フニ在リ  
 參加人婦貞郡長前田則邦代理人陳述ノ要旨ハ本件ノ事實ハ原告陳述ノ通りニシテ該選舉  
 ハ違法ナルヲ以テ原告請求ノ如ク判決アリタシト云フニ在リ  
 被告ハ本件ハ原告申立ノ通りナルヲ以テ其要求ヲ認諾スト陳述セリ  
 參加人津田三郎同酒井勝太郎陳述ノ要旨ハ明治三十一年四月二十日村長津田三郎ハ停職  
 ノ處分ヲ受ケタルモ素ヨリ不當ノ處分ニシテ服從シ難キニ付訴願ニ及ヒタレハ其執行ヲ  
 停止スヘキハ勿論ナルヲ以テ同月二十二日選舉ノ公告ヲ爲シタルハ當然ノ職務ニ屬ス又  
 原告ハ助役石田米次郎ハ明治三十一年四月二十日病氣ニ付引籠リ届書ヲ提出シタリト云  
 フモ是レハ後日作成シタル偽證ニシテ四月二十二日以來出勤事務ニ從事シ戶籍取扱ヒタ  
 ルコトアリ又村長事務管掌ハ行政機關停止スルヲ以テ婦貞郡長ハ知事ノ命令ニ依リ郡書  
 記松下義男ニ命シタリト云フモ是ハ知事ニ於テ命スヘキモノニシテ郡長ヨリ命スヘキモ  
 ノニアラス然ルニ郡長ニ於テ命シタルモノナレハ其效ナキハ勿論ナリ從テ四月二十三日  
 右郡書記カ爲シタル公告ハ無効ナリ要スルニ本件選舉ハ適法ノ手續ニ依リ執行シタル正  
 當ノ選舉ナレハ取消サルヘキモノニアラス即チ原告告ノ申立ヲ排斥シ該選舉ハ取消スヘ  
 キ限ニアラストノ判決アリタシト云フニ在リ  
 依テ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
 本件ハ明治三十一年四月二十日村長津田三郎カ其職務停止中選舉ノ公告ヲ發シ而シテ其公

告ハ同月二十三日村長事務管掌者タル郡書記松下義男ニ取消サレ尙同月二十六日村長津田  
 三郎ハ解職ノ處分受ケタルニ拘ラス同月二十九日同三十日ノ兩日ニ於テ選舉ヲ執行シタル  
 ノ事實ナリ抑村長津田三郎カ四月二十二日發シタル選舉ノ公告ハ村長ノ職務停止中ニシテ  
 素ヨリ其職務ヲ行フコトヲ得サル時ニ於テ發シタルモノナルニシテナラス村長事務管掌者タ  
 ル郡書記松下義男カ其習日即チ四月二十三日付ヲ以テ原告四號證ノ如ク古里村長津田三郎  
 ハ四月二十日停職ヲ命セラレ而シテ婦貞郡書記松下義男右村長事務管掌命セラレタルコト  
 且ツ原告七號證ノ如ク四月二十二日付公告村會議員選舉等ハ其筋ノ命ニ依リ取消ス追テ其  
 期日ヲ公告スト公式ニ依リ一般ニ公告シタル以上ハ村長津田三郎カ停職中四月二十二日付  
 公告ヲ爲シタル公告ハ一般ニ對シ適法ノ公告アリタルモノト爲スヲ得ス然レハ本件選舉ハ  
 町村制第十九條ニ規定セル正當ノ手續ヲ盡ササルモノナルヲ以テ適法ノ選舉ナトリ云フ  
 得ス其他論辯スル所アルモ裁判上必要ナキヲ以テ説明セス

● 郡會議員選舉ニ裁決不服ノ訴 明治三十三年第六十七號 明治三十三年六月二十七日決判 (請求不立)

判決要旨

戶主ノ選舉納稅資格ヲ定ムルニ該リ所得稅ヲ以テスルト  
 キハ其ノ同居家族ノ所得ハ之レヲ區別シテ合算セス

職務停止中ニアル村長ノ爲シタル選舉告示ノ効力



說明

凡所得稅ナルモノハ、戸主タルト家族タルト、間ハス一定ノ財産ヲ所得スル者ニ對スル課稅ナルカ故ニ之レカ納稅ノ義務モ亦タ所得者其ノ人ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ス然ラハ則チ戸主ノ納稅資格ヲ定ムルニ當リ已レノ納稅義務ニ屬セサル家族ノ所得ヲ探テ之レニ合算スヘカラサルヤ勿論ナリトス

原告 新潟縣佐渡郡相川町大字 柴町百二十六番地 平民 秋田 藤治郎

被告 新潟縣選舉會 新潟縣知事 千頭 清 臣 訴訟代理人 新潟縣 太 田 敏

右原告秋田藤治郎ヨリ被告新潟縣選舉會新潟縣知事千頭清臣ニ對スル郡會議員選舉ニ關スル縣選舉會裁決不服ノ訴ニ付キ原告ハ書面審理ヲ申請セリ依テ被告答辯ヲ曉キ原告ノ文書ニ就キ審理ヲ遂ケル處

原告請求ノ要旨ハ明治三十三年九月三十日新潟縣佐渡郡相川町ニ於テ執行シタル新潟縣佐渡郡會議員第二區選舉ニ於テ佐々木益右衛門ハ二十四點河邊源太郎ハ十八點柄澤寛ハ十五點川添利卿ハ十四點ノ投票ヲ得佐々木、河邊、柄澤ノ三人當選シタリ然ルニ選舉人嶋倉久平外一名ハ佐渡郡長ニ異議ノ申立ヲ爲シ郡選舉會ハ該選舉ハ無効トスル限リニア

ラスト決定シタリ同人等並ニ佐渡郡長ハ此決定ヲ不服トシ縣選舉會ニ訴願シタルニ縣選舉會ハ別紙甲二號ノ通り裁決ヲ與ヘタリ而シテ縣選舉會ハ所得稅法第三條第二項ハ戸主及同居家族ノ所得ニ對シテ稅率ヲ定ムルノ手續ヲ規定シタルモノニ過キサレハ選舉權ノ要件トシテ納稅額ヲ算定スルニ當リテハ之ヲ併算スルコト能ハス左レハ黒田透、長谷川俊平カ家族ニ屬スル所得稅ヲ控除セハ郡制第六條第一項ノ納稅資格ニ達セサル無資格者ナルヲ以テ同人等ノ投票一票ハ孰レモ無効ナリ從テ該選舉ハ其結果ニ異動ヲ生スル處ナシト云フヲ得サレハ其選舉ハ之レヲ取消スト裁決シタルモ所得稅法第三條第二項ニ戸主及同居家族ノ所得ハ第三種ニ限リ之レヲ合算シ其納額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ムトアリ又同法第六條ニ第三種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルトキハ所得稅ヲ課セス但第三種第二項ノ場合ニ於テ其合算額三百圓ニ滿ツルトキハ此限ニアラスト規定シテ是レ一家ノ所得ハ戸主ノ資産又ハ其一身ヨリ生スルト同居家族ノ資産又ハ其一身ヨリ生スルトヲ問ハス一ノ財團ヨリ生スルモノト看做シ課稅スルモノナリ加之所得稅法第八條ニ第三種ノ所得ニ付キ納稅義務アルモノハ毎年四月所得ノ種類及ヒ金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシト規定シ同法施行規則第四條第二項ニ所得稅法第三條第二項ニ依リ同居者ノ所得ヲ合算スヘキ協合ニ於テハ其所得モ同時ニ之ヲ申告スヘシトアリ其規定ニ依レハ家族ノ所得ハ戸主ノ所得ニ合算シテ戸主ニ於テ之ヲ政府ニ申告スルモノナリ而シテ其所得ノ申告者ハ即チ納稅義務者ニシテ其納稅ニ因テ生スル所ノ權利ハ無論其戸主タル申告者ニ於テ執行シ得ル



ハ論ヲ俟タス又得所稅法第十四條ニ選舉區域内ニ住居シ第八條ノ申告ヲ爲シタルモノハ  
調査委員選舉人ヲ選舉シ又ハ調査委員若クハ調査委員選舉人ニ選舉セラルコトヲ得トア  
リ此規定ニ依リテ見ルモ亦申告即チ戸主カ其權利ヲ有スルコト昭々トシテ明カナル所ナ  
リ故ニ黒田透、長谷川俊平カ選舉資格トシテ合算シタル直接國稅即所得稅額ニ於テハ毫  
モ瑕瑾アリサルヲ以テ無資格者ナリト云フヲ得ス然ルニ縣參事會ハ以上兩人カ爲シタル  
投票ハ無効ナルヲ以テ選舉全部ヲ取消スト裁決シタルハ不法ナルヲ以テ該裁決ヲ取消シ  
選舉ハ有效ニシテ取消ス可キモノニ非ストノ判決ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ所得稅法第三條二項ハ戸主及其同居家族ニ於テ所得ヲ分有スルモノニ  
對シ稅率ヲ定ムルノ手續ヲ規定シタルモノニシテ納稅義務者ニ關スル規定ニアラス抑  
モ所得稅ナルモノハ戸主タルト家族タルトヲ問ハス其所得ニ對スル課稅ナレハ所得ヲ有  
スル者ノ義務ニ屬スルハ固ヨリ當然ナルヲ以テ之ニ伴フ權利ニ於テモ亦各自ニ發生スヘ  
キハ論ヲ俟タル所ナリ又所得稅法施行規則ニ於テハ明カニ戸主ト家族ト各其所得ヲ區分  
シテ申告ヲナサシムルヨリ見ルモ納稅義務ハ家族戸主之ヲ分任セサルヘカラサルコト論  
ヲ要セスシテ明カナリ而シテ黒田透、長谷川俊平ハ直接國稅年額三圓以上ヲ納ムルモノ  
ナリト雖家族ニ屬スル所得額ヲ控除スルトキハ郡制第六條第一項ノ納稅資格ニ違セサル  
モノナルヲ以テ之カ爲シタル投票二點ハ何レモ無効ト云ハサルヘカラス從ツテ該選舉ハ  
其結果ニ異動ヲ生スルヲ以テ選舉全部ヲ取消シタルモノナリ依テ原告ノ請求ハ之ヲ棄却

セラレタシト云フニ在リ

依テ理由ヲ説明スルコト左ノ如シ  
原告ハ所得稅法及同法施行規則ヲ引用シテ戸主及其同居家族ノ所得ハ納稅資格ニ關シテモ仍  
ホ分離ス可キモノニ非スト云フト雖モ所得稅法第三條第二項ノ規定ハ戸主及其同居家族カ  
所得ヲ分有スル場合ニ於テ稅率ヲ定ムル手續ヲ規定シタルモノニ過キスシテ納稅資格ニ關  
スル規定ニアラス納稅資格ニ付テハ戸主ト其同居家族トハ之ヲ區別シ互ニ相混同スルヲ許  
サズ然レハ被告參事會カ無資格者タル黒田透、長谷川俊平ノ投票一票ヲ無効トシ其結果選  
舉ノ全部ヲ取消シタルハ相當ニシテ不法ノ裁決ニアラス  
右ノ理由ナルニ依リ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

不當議決取消ノ訴

明治三十三年第五十三號  
明治三十三年六月廿九日判決

(請求不立)

判決要旨

- 一、町村ノ共有財産及ヒ營造物管理ノ爲メ設置スル常設委  
員ハ名譽職ナリ
- 二、村治上ノ意見投合セストノコトハ名譽職ヲ拒辭スル正

名譽職ノ退職理由



當ノ理由トナラス

說明

本件ハ說明ヲ要セス左ニ參照條文ヲ舉示スヘシ

(參照) 町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ選クコトヲ得其委員ハ名譽職トス(町村制第六十五條)

原告 兵庫縣美方郡八田村ノ内 岸田村三十番地平民 秋山市三郎 訴訟代理人 廣岡宇一郎

被告 兵庫縣美方郡八田村 村會議長岡村良 北村元吉 訴訟代理人 上原鹿造

右原告秋山市三郎ヨリ村長北村元吉ニ對スル不當議決取消ノ訴雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ明治三十二年九月十五日兵庫縣美方郡八田村會ニ於テ大字村財產及營造物管理常設委員タリシ原告ノ辭任ニ對シ町村制第八條第三項ヲ適用シ原告ニ對シ三年間公民權ヲ停止シ負擔村稅ノ八分ノ一ヲ増課スヘキ旨議決セシハ不當ナルヲ以テ該議決ノ取消ヲ郡參事會及縣參事會ニ訴願シタルモ之ヲ採用セザリシニ付茲ニ本訴ヲ提起シタル所以ナリ然シテ郡參事會及縣參事會ノ理由トスル所ハ要スルニ管理常設委員ハ名譽職ナレハ村治上意見投合セザルトノ事由ヲ以テ辭任スル如キハ町村制第八條第二項各號

ニ該當セズト云フニアレトモ常設委員ハ名譽職ニアラス假令名譽職ナリトスルモ常設委員トシテ町村行政事務ノ一部ヲ擔任處理スルニ當リ村治上ノ意見投合セザルヲ以テ辭職スル如キハ町村自治ノ完成ヲ望ム者ノ爲スヘキ行動ナレハ町村制第八條第二項六號ニ該當スル正當ノ理由タルヤ明カナリ若シ否ラストスレハ右六號ノ村會ニ於テ是認スヘキモノ殆ソト之レアラヌ悉ク村會ノ議決スルカ儘ニ服從セザル可ラサルノ奇觀ヲ呈スルニ至ラマ登斯ノ如キ理アラマヤ且同年七月中村會議員五名及各大字村常設委員數名ハ原告ト同一ノ理由ヲ以テ辭任ヲ爲シタルニ村會ハ該辭任ヲ以テ正當ノモノト認メテ處罰セザリシ事實ヨリ觀ルモ原告ハ原告辭任ノ理由アルモノニシテ一テ處罰シ他ヲ懲罰セザリシハ實ニ村會ハ議決權ヲ濫用セルモノト云ハサルヘカラス畢竟スルニ村會ハ反對派ノ公民權ヲ停止シテ其勢力ヲ減殺セントノ意思ニ出テ不法ニ懲罰ノ處分ヲ爲シタルモノナリ依テ明治三十二年九月十五日美方郡八田村會ニ於テ議決シタル公民權停止及村稅增課ノ件ヲ取消ストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ美方郡八田村ノ内岸田村共有財產及營造物管理常設委員ヲ明治三十二年四月中當選就任シタリ然ルニ同年七月三十日村治上ノ意見投合セストノ理由ヲ以テ辭任ヲ届出テ村長ハ留任ヲ勸告シタルモ更ニ應セス已ムヲ得ス其辭任ヲ許可シ同年八月三十日其後任者ヲ選定シタリ而シテ該辭任タルヤ町村制第八條第二項ノ各號ニ該當セザルモノナルヲ以テ同年九月十五日村會ハ原告ニ對シ公民權三個年間停止及負擔村稅

名譽職ノ退職理由



八分ノ一増課ノ議決ヲ爲シタリ然ルニ原告ハ該議決ヲ不當ナリトシ出訴シ其理由トスル要領ハ常設委員ハ名譽職ニアラス其シ名譽職ナリトスルモ村治上ノ意見投合セザル事ハ辭任ノ理由タルヘキモノナルニ村會ハ正當ノ理由ナシトテ懲罰ノ議決ヲ爲シタルハ違法ナリ又同一ノ理由ヲ以テ辭任シタル常設委員他ニ數名アリテ村會ハ之ヲ是認シタルニ拘ハラス獨リ原告ノミヲ處罰シタルハ不當ナリ又反對派ノ公民權ヲ停止シテ其勢力ヲ減殺セントシ原告ヲ不法ニ懲罰シタリト云フニアルカ如シト雖モ原告カ常設委員トナリシハ町村制第六十五條ノ規定ニ從ヒ議決ノ上設置セラレタルモノナレハ名譽職タルコト論ヲ俟タス而シテ町村制第八條第二項六號ノ規定ハ村會ノ認定ニ一任セラレタルモノナレハ假令村治上ノ意見協ハサルヲ理由トスルモ村會ニ於テ正當ノ理由ト認メサル以上ハ法律上拒辭ノ理由アルモノト云フヲ得ヌ又原告カ後段二個ノ主張ハ畢竟他ヲ處罰セザルヲ非難スルニ過キサレハ何等ノ理由トスルニ足ラス依テ原告ノ本訴請求ハ理由ナキヲ以テ棄却セラレ度シト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
原告ハ本件管理常設委員ハ名譽職ニアラスト論スルモ常設委員ハ町村制第六十五條ノ規定ニ從ヒ村會ノ議決ニ依リ設置スヘキモノナリ而シテ本件共有財産及ヒ營造物管理常設委員ハ同條ノ規定ニ基キ設置セラレタルモノナレハ同條ノ所謂名譽職タルコト明カナリ又原告ハ村治上ニ意見投合セザル場合ニ於テハ町村制第八條第二項第六號ニ所謂正當ノ理由ト

アルニ該當スルヲ以テ常設委員ヲ拒辭スルヲ得ルト論スルモ村治上ニ意見投合セスト云フヲ以テ名譽職ヲ辭スル理由トスルハ甚ダ正當ナラス又原告ハ各大字常設委員數名ハ原告ト同一ノ理由ヲ以テ辭任シタルニ村會ハ之ヲ是認シ獨リ原告ニ對シテ本件ノ懲罰ヲ爲シタルハ不當ナリト論スルモ被告ハ他ノ委員ノ辭任理由ハ同一ニ非スト主張シ原告ハ立證セザルヲ以テ同一ナリトノ事實ヲ認ムルニ由ナシ以上ノ如クナレハ村會カ原告ニ對シテ三ヶ年間公民權ヲ停止シ負擔村稅ノ八分ノ一ヲ増課スヘキ旨ヲ議決シタルハ相當ニシテ之ヲ取消スヘキモノニアラス其他原告ハ論辯スル所アルモ本件ノ判決ニ必要ナキヲ以テ之ヲ説明セズ右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ  
原告ノ請求相立タス  
訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●不當議決取消ノ訴 明治三十三年第五十四號 明治三十三年六月廿九日判決 (請求不立)

判決要旨

職務ニ堪ヘサル疾病ニアラス又ハ家族中ニ疾病者アリト  
ノコトハ名譽職ヲ辭スルノ理由トナスニ足ラス

説明

本件ハ説明ヲ要セズ

名譽職ノ退職理由



(參照) 町村制第六十五條

原告 仲島謙一郎 訴訟代理人 廣岡宇一郎

被告 北村元吉 訴訟代理人 上原鹿造

右原告仲島謙一郎ヨリ被告北村元吉ニ對スル不當議決取消ノ訴雙方ノ辯論ヲ聽キ審理ヲ遂シル處

原告陳述ノ要旨ハ明治三十二年九月十五日兵庫縣美方郡八田村會ニ於テ大字村財產及營造物管理常設委員タリシ原告ノ辭任ニ對シ町村制第八條第二項一號ヲ適用シ三ヶ年間公民權ヲ停止スヘキ旨ノ議決ヲ爲セシハ不當ナルヲ以テ右議決ノ取消ヲ郡參事會及縣參事會ニ訴願セシニ之ヲ採用セサリシニ因リ茲ニ本訴ヲ提起シタル所以ナリ而シテ郡參事會及縣參事會ノ是認スル理由ハ原告ノ疾病ハ果シテ公務ニ堪ニル事ヲ得ルヤ否ニアリトシ常設委員ハ當ニ劇職ニシテサルイミナラス他ニモ數名アリテ重病ニアラサルヨリハ公務ニ堪ヘサルモノト云フヲ得ヌ醫師ノ診斷書ニハ單ニ神經病トアリ辭任届ニハ少々不快トノミアラテ未ダ以テ當時公務ニ堪ヘサルノ疾病ト認ムルヲ得ヌト云フニアレトモ元來常設委員ハ名譽職ニアラス候リニ名譽職ナリトスルモ常設委員ハ警劇ノ職務ニシテ診斷書

ニ記載ノ如ク原告ハ神經病ニシテ實際公務ニ堪ヘサルノミナラス當時原告ハ家族中ニ忠者アリテ困難ナル事情ヲ以テ辭任シタルモノナレハ制第八條第二項一號及六號ニ該當ス可キモノナリ然ルニ郡及縣參事會ハ漠然タル理由ヲ以テ公務ニ堪ヘサル疾病ニアラストシタルハ不當ナリ依テ明治三十二年九月十五日美方郡八田村會ニ於テ議決シタル公民權停止ノ件ヲ取消ストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ美方郡八田村ノ内岸田村共有財產及營造物管理常設委員ニ當選セラレタルニ明治三十二年九月四日之ヲ拒辭シタリ而シテ原告ハ精神病ニ罹リ到底常設委員ノ職務ニ堪ヘサルモノナレハ町村制第八條ニ依リ拒辭スルコトヲ得ル旨論スルモ制第六十五條ノ規定ニ從ヒ村會ノ議決ニ依リ原告ヲ常設委員ト爲シタルモノナレハ名譽職タルコト疑ヒナシ而シテ村會カ原告ノ辭任届出ニ對シ醫師ノ診斷書其他辭任届書ヲ參照シテ原告ノ疾病ハ公務ニ堪ヘサルモノニアラスト認メタルハ毫モ不當ナル所ナク又常設委員ノ職務ハ開職ニシテ假令原告ヲシテ偶々微恙アラシムルモ其職ニ堪ヘ難キモノニアラサルハ町村制第八條第三項ノ處分ヲ爲シタルハ決シテ不當ニアラス依テ原告ノ請求ヲ排斥セラレ度シト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ  
原告ハ本件常設委員ハ名譽職ニアラスト論スルモ常設委員ハ町村制第六十五條ノ規定ニ從ヒ村會ノ議決ニ依リ設置スヘキモノナリ而シテ本件共有財產及營造物管理常設委員ハ同



條ノ規定ニ基キ設置セラレタルモノナレハ同條ノ所謂名譽職タルコト明カナリ又原告ハ神經痛ニ罹リ公務ニ堪ヘサルヲ以テ常設委員ヲ拒辭スヘキ理由アリト主張スルモ醫師ノ診斷書ニハ原告ハ單ニ神經痛トアリ乙第一號證辭任書ニ依ルモ當時原告ハ公務ニ堪ヘサル程度ニ至リタルモノト認ムルヲ得サルヲ以テ町村制第二項第一號ニ該當セサルニ依リ名譽職タル常設委員ヲ拒辭スルコトヲ得サルモノトス又家族中ニ患者アリト云フ如キハ拒辭スヘキ正當ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス以上ノ如クナレハ村會カ原告ニ對シ三ヶ年間公民權ヲ停止スルノ議決ヲ爲シタルハ相當ニシテ之ヲ取消スヘキモノニアラス

右ノ理由ナルニ依リ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求ハ相立タス

訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

行政判例彙報第十一卷行政判例大尾



雜報

●辯護士試験 辯護士試験ハ豫告ノ如ク去ル九月廿七日ヨリ開始セラレ十月二日ニ至リ全ク結了セリ受験人員ハ全國合計千三人ニシテ内採用人員ハ六十八人内外ナリト云フ其ノ問題左ノ如シ

憲法

第二問 攝生ノ性質ヲ説ク

第二問 國務大臣ノ各議院ニ於ケル發言權ト各議院議長ノ職權トノ關係ヲ説明スベシ

行政法

第一問 何オカ自治ト謂フヤ

第二問 公ノ營造物ノ性質及其ノ使用處分ニ付テノ法律關係ヲ説明スベシ

民法

第一問 債權者カ債務者ノ爲シタル法律行為ノ取消ヲ請求スルニハ如何ナル條件ヲ要スルヤ又此ノ請求ハ法律行為ノ相手方以外ノ者ニ對シテモ之ヲ爲シ得ヘキヤ

第二問 何人カ抵當權ヲ濫除スルヲ得ヘキヤ且ツ濫除シ得ヘキ理由如何

民事訴訟法

第一問 共同訴訟人中一人ノ訴訟行為又懈怠ハ他ノ共同訴訟人ニ如何ナル効力ヲ生スルヤ

第二問 訴ノ提起ハ如何ナル効力ヲ生スルヤ詳論スベシ

商法

第一問 匿名組合ノ性質ヲ論シ且ツ匿名組合員ハ其ノ出資以外ニ損害負擔ノ責任アリヤヲ説明スベシ